

平 成 21 年 度

専門科目教育要項

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科

ま え が き

この教育要項は、口腔保健学科専門科目の授業を受ける学生の皆さんに、平成20年度に行われる予定の専門教育科目を示し、それらの授業計画および授業内容の概要を知らせるためのものです。

学生の皆さんが、本学における口腔保健学教育の内容を把握すると共に、充実した履修が行えるよう本要項を有意義に活用されることを希望します。

平成21年4月

歯学部口腔保健学科教育委員会

基本的理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成する。

一般教育目標

- ・ 生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
- ・ 基本的人権を尊重し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。
- ・ 社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
- ・ 心身の様々な状態を理解し、口腔保健に関する知識および技術を修得する。
- ・ 科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
- ・ 保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
- ・ 口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。

歯学部長あいさつ

歯学部長 田 上 順 次

歯学部口腔保健学科では、温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成することを教育の基本理念に掲げています。日本で最初の口腔保健専門の学科としてスタートしたばかりですので、学生の皆さんには歯科界の各方面から大きな期待が寄せられています。こうした社会的な責任を果たすためにも、最善と思われる専門課程のカリキュラムが組まれています。

非常に多くの科目がありますが、いずれも実践できなければ人々や社会に貢献することはできません。実習の時間が多いのも一つの特徴ですが、しっかりとした理論に支えられてこその実習です。かなりタイトなカリキュラムですが、必ず得られるものも大きいはずです。既に教養課程でも自学自習の態度、問題認識、問題解決型のアプローチについては、PBL、テュートリアル教育などを通じて身につけてきたことと思います。もちろん専門教育においてもこうした手法は当然役立ちます。また、臨床実習の充実が本学の大きな特徴です。ここでは包括的な専門知識、コミュニケーション、チームアプローチなど、実際の患者さんとの接触を通して、得がたい時間を過ごすことになります。人々の健康で幸せな生活を実現するために、本当に役に立つ専門的知識と技術を実践・体得して、社会に貢献できる専門家になってください。

教員の先生方のほか、歯学科の先生方や外部の先生方も皆さんの教育を担当してまいります。いずれも業界のリーダーとして活躍する先生方ばかりです。こんなに素晴らしい将来の目標となる人物が身近にたくさんいらっしゃるのですから、積極的に先生方にアプローチして、少しでも多くのことを学んでください。さらに皆さんには4年制の口腔保健学科の卒業生として、将来は口腔保健学をリードして行く立場にあります。社会的に期待されるということはとても幸せなことです。この期待に応えることができるように充実した専門教育課程を過ごしてください。期待しています。

第 2 学年 授業科目

科目名	科学英語 I
ユニット名	科学英語 I
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎
授業担当者	坂本裕次郎、森尾郁子（歯学教育開発学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室、演習室

学習目標

- ・口腔保健に関連する基本的英語表現を身につける。
- ・科学英語論文の構成を学ぶとともに、基礎的読解能力を身につける。
- ・口腔保健に関して、英語で意思疎通をする基礎的能力を身につける。

到達目標

- ・口腔保健関連の専門用語を英語で表現できる。
- ・口腔保健関連の英文を読解し、内容を説明できる。
- ・科学英語論文の論理構成を把握し、批判できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1-6	歯学の基本英語	歯科・口腔保健学に必要な基本的英語表現を学ぶ
7-8	学術論文とは	・学術論文の構成について ・抄読する英文の紹介
9-15	英文抄読	歯科・口腔保健の英語論文の読解

評価方法

- ・随時の小テスト等で形成的評価を行う。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う場合があります。

参考図書等

- ・必要な文献はプリントで配布します。

留意事項

- ・ 英語の辞書等は持参すること。
- ・ 授業に各自のパソコンを持参してもらう場合があります。

科目名	科学英語Ⅱ
ユニット名	科学英語Ⅱ
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎
授業担当者	坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室、演習室

学習目標

- ・口腔保健に関して、英語で意思疎通をする基礎的能力を身につける。
- ・英語論文作成の模擬体験を通して、科学的思考力を身につける。

到達目標

- ・科学英語論文の論理構成を把握し、批判できる。
- ・口腔保健に関連した基本的内容を英語で表現できる。

授業計画 2 学年後期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1-5	科学英語文献の検索	仮の研究テーマを決めて文献検索の方法を学ぶ。
6-10	科学英語文献の活用	文献から得られる情報と疑問や問題点を抽出する
11-15	緒言（イントロダクション）の英作文	テーマの現状と問題点を整理して、研究目的を論理的に英文で説明する。

評価方法

- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。
- ・グループ別の授業や発表では、各個人の参加態度も総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・必要な文献はプリントで配布します。

留意事項

- ・英語の辞書等は持参すること。
- ・授業に各自のパソコンを持参してもらう場合があります。

科目名	人体の構造と機能Ⅱ
ユニット名	人体の構造と機能Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	杉本久美子、坂本裕次郎、井関祥子（分子発生学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室・第4講義室、医学部解剖実習室

学習目標

人体の正常な構造、機能と分子的基礎、ならびに発生、成長、加齢に伴う変化について学ぶことにより、生命現象が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルに至るまで系統的に理解する。

到達目標

- ・ 生命における遺伝子の分子機構ならびに働きを説明できる。（1年）
- ・ 生命の基本単位である細胞の構造、構成要素と働きを説明できる。（1年）
- ・ 人体の発生、成長と発達を説明できる。（1年）
- ・ 上皮組織、支持組織、筋組織および神経組織の構成成分、構造および機能を説明できる。（1年）
- ・ 循環器系の構造と機能、および発生機序を説明できる。（1年）
- ・ 血液の成分と働き、および造血器、リンパ網内系の構造と機能を説明できる。（1年）
- ・ 運動器系の構造と機能、および発生、成長、加齢に伴う変化を説明できる。（1年）
- ・ 感覚器系の構造と機能、および発生、成長、加齢に伴う変化を説明できる。
- ・ 末梢神経系および中枢神経系の構造と機能、およびその発生、成長、加齢に伴う変化を説明できる。
- ・ 呼吸器系の構造と機能、および発生、成長に伴う変化を説明できる。
- ・ 消化器系の構造と機能および発生機序を説明できる。
- ・ 泌尿器系の構造と機能、尿の生成機序を説明できる。
- ・ 内分泌系の構造、機能、およびホルモンの作用を説明できる。
- ・ 生殖器の構造と機能、および発生、成長、加齢に伴う変化を説明できる。
- ・ 生体の恒常性維持機構（体温調節、体液組成および体液量の調節）を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	神経系の基本構造	神経系の構成要素、ニューロン（神経細胞）の構造、化学シナプスの構造

2	全身の神経系	全身の神経系の種類と走行
3	〃	〃
4	神経系の働き 1	興奮伝導・興奮伝達のしくみ、神経伝達物質の働き
5	神経系の発生	神経系の発生過程とその機構
6	神経系・感覚器の組織観察	神経系および感覚器組織の顕微鏡観察
7	神経系の働き 2	末梢神経系の構造と働き
8	神経系の働き 3	中枢神経系の構造、脊髄と脳（大脳皮質、大脳辺縁系、間脳、小脳、脳幹ほか）の働き
9	神経系の働き 4	脊髄と脳（大脳皮質、大脳辺縁系、間脳、小脳、脳幹ほか）の働き、脊髄反射
10	一般体性感覚、内臓感覚	感覚器の基本構造、一般体性感覚器・内臓感覚器の構造、機能および伝導路
11	特殊感覚 1	視覚・嗅覚の感覚器の構造と機能、視覚・嗅覚の伝導路
12	特殊感覚 2	聴覚・平衡感覚の感覚器の構造と機能、聴覚・平衡感覚の伝導路
13	呼吸器系の構造	呼吸器系の構成と組織
14	呼吸器系の発生	呼吸器系の発生過程とその機構
15	呼吸器系の働き	呼吸運動、ガス交換のしくみ、呼吸調節、肺気量の分画
16	ホルモンの働き 1	ホルモンによる恒常性維持と機能相関、視床下部－脳下垂体系
17	ホルモンの働き 2	ホルモンの作用と内分泌異常
18	内分泌系の構造と発生 1	内分泌系の構造と発生のしくみ 1
19	内分泌系の構造と発生 2	内分泌系の構造と発生のしくみ 2
20	呼吸器系・内分泌系の組織観察	呼吸器系・内分泌系組織の顕微鏡観察
21, 22	生殖器の構造と発生	生殖器の構造と発生のしくみ 泌
23, 24	泌尿器系の構造と発生	尿器系の構造と発生のしくみ
25, 26	尿の生成と体液の調節	尿生成のメカニズム、排尿、体液量および体液組成の調節
27	体温調節	発汗、体温調節機構

28-30	人体解剖見学	医学部における人体解剖の見学
-------	--------	----------------

評価方法

提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「解剖生理学」 高野廣子著 南山堂
- ・「図解生理学」第2版 中野昭一編 医学書院
- ・「カラーで学ぶ解剖生理学」 ゲーリー・A・ティボドー、ケビン・T・パットン著 コメディカルサポート研究会訳 医学書院
- ・「標準生理学」第6版 本郷利憲、豊田順一、広重力監修 医学書院
- ・新歯科衛生士教本「生理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「組織・発生」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「解剖」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「口腔解剖」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	人体の構造と機能
ユニット名	歯・口腔の構造と機能
授業の形態	講義・実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・30 時間 } 5 単位 2 学年後期・必修・45 時間
科目・ユニット責任者	杉本久美子・坂本裕次郎
授業担当者	坂本裕次郎、杉本久美子
主な授業場所	口腔保健学科 第2・4 講義室、第4 実習室 解剖学実習室

学習目標

顎・顔面・口腔領域の組織、器官の構造と機能およびその分子的基盤を学ぶとともに、それらの発生と成長について学び、顎・顔面・口腔領域の健康と全身の健康との関連について理解を深める。

到達目標

- ・口腔諸器官の構造、構成分子と機能および発生と成長について説明できる。
- ・歯と歯周組織の形態と構成成分ならびに機能について説明できる。
- ・歯と歯周組織の発生、成長過程を説明できる。
- ・歯の石灰化の機序とカルシウム・リン代謝について説明できる。
- ・唾液線の構造と分泌機構および唾液の成分とその作用について説明できる。
- ・口腔諸器官（歯・歯周組織・唾液線を含む）の機能と全身の正常機能とを関連づけられる。
- ・頭頸部の主要な骨（頭蓋骨、下顎骨等）の形態、発生と成長について説明できる。
- ・頭頸部の主要な筋（表情筋、咀嚼筋）の形態とその機能を説明できる。
- ・脳神経の支配様式と働きについて説明できる。
- ・頭頸部の脈管系（血管系、リンパ系）について説明できる。
- ・頭頸部と全身の骨・筋・神経・脈管系を互いに関連づけられる。
- ・口腔領域の体性感覚器・味覚器官の構造と働きおよび発生と成長について説明できる。
- ・下顎反射のしくみとその役割について説明できる。
- ・咀嚼運動の神経機構を説明できる。
- ・嚥下・吸引・嘔吐反射のしくみを説明できる。
- ・発声・構音のしくみを説明できる。
- ・頭頸部・口腔領域と全身の感覚・反射・運動のしくみを対比できる。

授業計画

2 学年前期・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	口腔諸器官の構造と機能	口腔諸器官の構造と機能
2	歯と歯周組織の総論	歯と歯周組織の構成要素、歯列と咬合の基礎知識、歯の種類と記号・方向用語
3, 4	歯の構成成分	歯の構成成分の物理化学的性状
5-10	永久歯の解剖学	切歯・犬歯・小臼歯・大臼歯の形態
11, 12	乳歯の解剖学	乳切歯・乳犬歯・乳臼歯の形態
13	顎顔面領域の発生	顎顔面領域の初期発生
14	歯の発生 1	硬組織形成前までの歯胚の発生過程
15	歯の発生 2	象牙質・歯髄複合体の形成機構
16	歯の発生 3	エナメル質の形成機構
17	顔面の発生・初期歯胚の組織像	顔面の発生と初期歯胚の顕微鏡観察
18	硬組織形成期歯胚の組織像	象牙質・エナメル質の形成初期の顕微鏡観察
19	歯周組織の形成機構	歯周組織の形成機構
20	象牙質・歯髄複合体	象牙質・歯髄複合体の構造と象牙質の成長線
21	エナメル質	エナメル質の構造と成長線
22	歯周組織	歯周組織の構造
23	歯列形成と歯の萌出と交換	歯列と咬合の形成と歯の萌出と交換のしくみ
24-26	脳神経／歯と口腔の神経支配	歯と口腔の感覚をつかさどる神経
27, 28	歯髄感覚・歯根膜感覚	歯髄感覚・歯根膜感覚のしくみ
29, 30	歯と歯周組織の組織像	象牙質・エナメル質、歯周組織の顕微鏡観察

2 学年後期・45 時間

回	授業題目	授業内容
31-33	体幹・体肢の骨格系・筋系	骨格標本を使って体幹・体肢の骨格と筋の総括
34, 35	脊髄神経系・自律神経系	体幹・体肢の末梢神経系の総括
36	体幹・体肢の脈管系	体幹・体肢の脈管系の総括
37-39	頭蓋と頭頸部の脈管系	頭蓋の外景・内景、頭頸部の動・静脈
40-42	解剖体慰霊式	東京医科歯科大学・解剖体慰霊式に出席

43-45	頭蓋と頭頸部の脈管系	頭蓋を構成する骨、頭頸部のリンパ管・リンパ節
46	頭頸部の筋系	表情筋・咀嚼筋・浅頸筋・外側頸筋
47	頭頸部の筋系と頸筋膜	前頸筋（舌骨上筋・舌骨下筋）・後頸筋、頸筋膜
48	顎関節と顎運動	顎関節の構造と機能および顎運動
49, 50	中枢神経系	中枢神経系の構造と伝導路
51	記憶・学習・情動行動	記憶・学習・情動行動のしくみ
52	口腔粘膜・舌	口腔粘膜・舌の構造
53, 54	口腔粘膜感覚・味覚・嗅覚	口腔粘膜感覚・味覚・嗅覚のしくみ
55, 56	唾液腺	唾液腺の構造と唾液の分泌機構
57	唾液	唾液の性状・成分・生理作用
58	消化器系	消化器系の発生と基本構造
59, 60	口腔領域の消化器系の組織観察	口唇・舌・扁桃・唾液腺の顕微鏡観察
61	咽頭～食道・喉頭	咽頭～食道・喉頭の構造と機能
62	顎関節感覚・咀嚼運動	顎関節感覚・咀嚼運動の制御機構
63	開口反射・閉口反射	開口反射・閉口反射のしくみ
64	嚥下、吸引、嘔吐	嚥下、吸引、嘔吐のしくみ
65	発声と構音	発声のしくみと構音
66	胃腸、肝胆膵	胃、小腸、大腸、肝臓、胆のう、膵臓の構造と機能
67	消化管の運動	消化管運動のしくみ
68	消化液の作用	消化液の成分と作用および分泌調節
69	消化と吸収	栄養素の消化と吸収のしくみ
70	排便反射	排便反射のしくみ
71, 72	消化器系の組織観察	口腔領域以外の消化器系の顕微鏡観察
73-75	肉眼解剖見学実習	頭頸部の局所解剖学の見学

評価方法

- ・随時の小テスト等で形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、論述試験等で総括的評価を行う。
- ・授業態度、製作品、提出レポート等を総括的評価に加える。
- ・前期評価と後期評価を総合して年間評価とするが、原則として前期と後期それぞれに合格しなくてはならない。

- ・前期末と後期末に評価するので、前期と後期それぞれに受験資格を満たさなくてはならない。

参考図書等

- ・「基礎歯科生理学」第5版 森本俊文、山田好秋編 医歯薬出版
- ・「入門人体解剖学」改訂第4版 藤田恒夫 南江堂
- ・「人体解剖学」改訂第4.2版 藤田恒太郎 南江堂
- ・「解剖生理学」 高野廣子著 南山堂
- ・「図解生理学」第2版 中野昭一編 医学書院
- ・「標準生理学」第6版 本郷利憲、豊田順一、広重力監修 医学書院
- ・新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「生理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「組織・発生」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「解剖」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「口腔解剖」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

- ・解剖実習室で行われる授業では、白衣と上履きを着用すること。
- ・東京医科歯科大学解剖体慰霊式の「会場と時間、服装と心得など」については、日が近くなったら大学側から掲示で連絡されるので各自注意して確認すること。

科目名	疾病の成立過程と生体防御
ユニット名	病理学総論
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎
授業担当者	石川雅章、勝部憲一（口腔病理学分野）、坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

疾病の原因と病態に関する基本的知識を体系的に修得する。

到達目標

- ・代謝障害と退行性・進行性病変の病因・病態について説明できる。
- ・遺伝のしくみと遺伝疾患、奇形の原因について説明できる。
- ・循環障害の病因・病態について説明できる。
- ・腫瘍の概念と病因・病態について説明できる。
- ・歯と口腔の発育異常について説明できる。
- ・歯の付着物と疾患との関連について説明できる。
- ・う蝕の病因と分類について概説できる。
- ・口腔粘膜疾患の病因・病態について説明できる。
- ・消化器疾患の病因・病態について説明できる。
- ・疼痛の病因・病態について説明できる。
- ・顎・顔面・口腔領域の神経痛の病因・病態について説明できる。
- ・内分泌系疾患の病因・病態について説明できる

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	病理学とは	病因論、細胞障害、組織障害
3, 4	物質代謝障害（退行性病変）	変性、萎縮、壊死の病理学
5, 6	増殖と再生（進行性病変）	増殖、肥大、化生、再生、修復の病理学
7-9	遺伝と疾患	遺伝子異常とその発生機構、遺伝性疾患と先天奇形
10, 11	循環障害	循環障害の発生機序、分類と病理学

12, 13	腫瘍 1	腫瘍の概念と発生機序
14, 15	腫瘍 2	腫瘍の分類と病理学
16	歯の付着物と疾患（基礎）	歯の付着物と疾患との関連に関する基礎的概念
17, 18	歯と口腔の発育異常	歯と口腔の発育異常の病因と病理学的所見
19, 20	う蝕総論	う蝕の病因と分類
21, 22	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患の病因と病理学的所見
23, 24	消化器疾患	消化器疾患の病因と病理学的所見
25, 26	疼痛総論	疼痛の概念と分類、疼痛発生の原因と機序
27, 28	顎・顔面領域の疼痛	脳神経と顎・顔面領域の疼痛の原因と機序
29, 30	内分泌系疾患	内分泌系疾患の病因と病理学的所見

評価方法

- ・随時の小テスト等で形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、論述試験等で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・「エッセンシャル病理学」 沢井高志他編 医歯薬出版
- ・「わかりやすい病理学」 改訂第3版 岩田隆子他編 南江堂
- ・「これだけは知っておきたい疾病のなりたち」 井上泰訳 医学書院
- ・新歯科衛生士教本「病理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

科目名	疾病の成立過程と生体防御
ユニット名	口腔病理学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎
授業担当者	坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

顎・顔面・口腔疾患の原因と病態の特徴および全身疾患との関連性について理解する。

到達目標

- ・う蝕の病因・病態について説明できる。
- ・歯髄炎および根尖性歯周炎の病因・病態について説明できる。
- ・辺縁性歯周炎の病因・病態について説明できる。
- ・顎骨疾患の病因・病態について説明できる。
- ・顎口腔領域の嚢胞の病因・病態について説明できる。
- ・唾液腺疾患の病因・病態について説明できる。
- ・顎口腔領域の腫瘍の病因・病態について説明できる。

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	う蝕（基礎）	う蝕の病因と病理学的分類と病理学
3, 4	歯髄の病変（基礎）	歯髄炎・その他の疾患の病因と病理学
5	歯周疾患（基礎）1	根尖性歯周炎の病因と病理学
6, 7	歯周疾患（基礎）2	歯肉炎・辺縁性歯周炎・その他の病因と病理学
8, 9	顎骨の疾患	顎骨の疾患の病因と病理学的所見
10, 11	顎口腔領域の嚢胞	顎口腔領域の嚢胞の病因と病理学的所見
12, 13	唾液腺疾患	唾液腺疾患の病因と病理学的所見
14, 15	顎口腔領域の腫瘍	顎口腔領域の腫瘍の病因と病理学的所見

評価方法

- ・ 随時の小テスト等で形成的評価を行う。
- ・ 期末の客観試験、論述試験等で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・ 新歯科衛生士教本「病理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

科目名	疾病の成立過程と生体防御
ユニット名	病原微生物と生体防御
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎
授業担当者	荒川真一（歯周病外来）、坂本裕次郎、高柳広（分子情報伝達学分野）、森田育男（分子細胞機能学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

病原微生物の特徴と病原性および生体の防御反応のしくみについて理解する。

到達目標

- ・病原微生物の分類と病原性について説明できる。
- ・口腔細菌の特徴と病原性について説明できる。
- ・炎症の病因・病態について説明できる。
- ・免疫獲得と免疫寛容の機構および免疫疾患の病因・病態について説明できる。
- ・病原微生物や様々な外来刺激に対する生体の防御系を説明できる。

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	微生物学各論 1	グラム陽性菌、グラム陰性菌
3, 4	微生物学各論 2	スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌、ウイルス
5, 6	口腔細菌	う蝕関連細菌、歯周疾患関連細菌
7, 8	炎症総論	炎症の分類と病態・組織変化
9, 10	炎症の発生機構	炎症の発生機構と媒介因子
11, 12	免疫学総論	免疫のしくみ、免疫獲得と免疫寛容
13, 14	免疫反応とアレルギー	免疫とアレルギーの関係
15	免疫・アレルギー疾患	疾患の種類と病態

評価方法

- ・随時の小テスト等で形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、論述試験等で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「微生物学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「病理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「エッセンシャル病理学」沢井高志他編 医歯薬出版
- ・「わかりやすい病理学」改訂第3版 岩田隆子他編 南江堂
- ・「これだけは知っておきたい疾病のなりたち」 井上泰訳 医学書院

科目名	薬理・薬剤学
ユニット名	薬理・薬剤学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	杉本久美子、大谷啓一・青木和広・田村幸彦（硬組織薬理学分野）、 長谷川望（非常勤講師）、土屋文人（歯学部附属病院薬剤部）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

医薬品の薬理作用を理解し、薬物を安全かつ効果的に利用するために必要な基本的知識を修得する。

到達目標

- ・ 薬の作用、有効量、中毒量、致死量について概説できる。
- ・ 薬物の投与法と生体内分布について概説できる。
- ・ 薬物の連用および併用に伴う現象について概説できる。
- ・ 中枢神経系作用薬物の種類と作用について概説できる。
- ・ 末梢神経系作用薬物の種類と作用について概説できる。
- ・ 呼吸・循環器系作用薬の種類と作用について概説できる。
- ・ 消化器系作用薬の種類と作用について概説できる。
- ・ ホルモン剤の種類と作用について概説できる。
- ・ ビタミンの種類と作用について概説できる。
- ・ 血液・造血系作用薬の種類と作用について説明できる。
- ・ 抗炎症薬の種類と作用について説明できる。
- ・ 免疫系作用薬の種類と作用について概説できる。
- ・ 病原微生物作用薬（消毒薬・化学療法薬）の種類と作用について説明できる。
- ・ 悪性腫瘍治療薬の種類と作用について概説できる。
- ・ 腐食・収斂薬の種類と作用について概説できる。
- ・ 歯科領域で用いられる薬物の種類と作用を説明できる。
- ・ 医薬品の剤形、処方箋および保管方法について概説できる。
- ・ 薬事関連法規について概説できる。
- ・ 歯科用医薬品の特徴および使用の留意点について説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	薬理学とは、薬理作用と薬物の作用機序、薬理作用への影響因子	薬理学の構成、作用と副作用（薬の有効量・中毒量・致死量）、薬の作用点、情報伝達系、薬物の有害作用、薬物作用に影響する因子、薬物の連用に伴う現象、薬物の併用
3, 4	薬の投与法と生体内運命、薬物療法	薬物の投与経路、吸収、分布・代謝・排泄、薬物体内動態と薬効、ライフステージと薬物療法、薬物送達システムほか
5, 6	中枢神経系作用薬	中枢神経系に対する薬物作用、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬、鎮静睡眠薬、向精神薬、抗パーキンソン薬、抗てんかん薬、中枢神経興奮薬、抗痴呆薬
7, 8	末梢神経系作用薬	自律神経作用薬 2（アドレナリン作動薬、抗アドレナリン作動薬、コリン作動薬、抗コリン作動薬）、運動神経系作用薬、局所麻酔薬
9, 10	循環器系作用薬	降圧薬、高脂血症治療薬、抗狭心症薬、強心薬、抗不整脈薬
11	抗炎症薬・解熱鎮痛薬	生体防御反応と生体警告反応、ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消炎酵素薬、痛風治療薬
12	免疫調節薬・免疫療法薬	免疫抑制薬、免疫増強薬、ワクチン製剤、抗アレルギー薬、特異的抗リウマチ薬、抗ヒスタミン薬
13	呼吸器系作用薬	鎮咳薬、去痰薬、気管支拡張薬、喘息治療薬、呼吸促進薬
14	消化器系作用薬	食欲・消化作用薬、消化性潰瘍治療薬、胃腸運動改善薬、腸疾患作用薬
15, 16	化学療法薬 1	感染症治療薬（抗生物質）、その他の感染症治療薬（抗真菌薬、抗結核薬、抗ウィルス薬）
17	化学療法薬 2	悪性腫瘍治療薬
18	毒物と解毒薬	毒物の吸収阻害・遅延、毒物の排泄促進、特異的拮抗薬、有機リン剤中毒、金属・重金属中毒
19	硬組織に作用する薬物	骨代謝調節ホルモン、骨粗鬆症の治療
20	内分泌系作用薬・ビタミン	内分泌系作用薬、ホルモン拮抗薬、ビタミン

21	血液・造血系作用薬	薬貧血治療薬、止血薬、抗血栓療法薬、血液製剤
22	歯科領域で使用する薬物 う蝕予防に用いる薬	歯科領域で使用する薬物の種類、う蝕予防薬の分類、フッ化物、フッ化物以外のう蝕予防薬、プラーク染色剤、洗口剤
23	口腔粘膜疾患治療薬	口腔粘膜疾患と治療薬、口腔内用薬（洗浄剤、口腔用軟膏剤、口腔用貼付性製剤など）
24	歯内療法薬 1	う窩消毒剤および歯髄鎮静剤、覆髄剤、裏層剤、歯髄失活剤、歯髄乾死剤、根管拡大補助剤と根管清掃剤、根管消毒剤、根管充填剤、象牙質知覚過敏症治療薬
25	歯周疾患治療薬	歯周疾患の分類、歯周炎の発症、プラークコントロールに用いる薬剤、歯周治療の処置に用いる薬剤
26	薬事関連法規	薬事法、日本薬局方、関連法規、麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法、大麻取締法
27	医薬品の剤形、処方箋	医薬品の定義、薬剤の剤形、処方箋、調剤と製剤
28	医薬品の保管	医薬品の保存方法、医薬品の混合（配合変化）など
29	歯科用医薬品の特徴と使用	歯科用医薬品の特徴と剤形、歯科用医薬品の使用方法と留意点
30	まとめ	まとめ

評価方法

期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
出席状況および授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「シンプル薬理学」改訂第4版 野村隆英、石川直久編 南江堂
- ・新歯科衛生士教本「薬理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「現代歯科薬理学」第4版 小椋秀亮監修 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	関係法規・衛生行政
ユニット名	関係法規・衛生行政
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	寺岡加代
授業担当者	佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、矢澤正人（東京都立多摩立川保健所）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

憲法および保健・医療・福祉に関連する法律ならびに衛生行政のシステムを理解する。

到達目標

- ・憲法の人権・生活権・健康権等に関する条項を説明できる。
- ・保健・医療・福祉関係従事者の身分を規定する法律を説明できる。
- ・保健・医療・福祉の業務遂行に必要な法律を説明できる。
- ・地域保健法、健康増進法および健康日本 21 施策を説明できる。
- ・衛生行政のシステムを概説できる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	憲法	憲法が保健・医療・福祉に果たす役割
3, 4	医療制度・医療法	保健・医療・福祉制度の概要と相互関係
5, 6	医師法・歯科医師法	医師法・歯科医師法の特徴と意義
7, 8	歯科衛生士法	歯科衛生士法の制定・改正の経緯と意義
9, 10	〃	歯科衛生士法および関連する省令・通達等
11, 12	関連する医療関係者の身分法	医師・歯科医師・歯科衛生士以外の医療に関わる身分法
13, 14	母子保健法	母子保健の動向と規則
15, 16	学校保健法	学校保健の動向と規則
17, 18	労働安全衛生法	産業保健の動向と規則
19, 20	老人保健法	老人保健の動向と規則

21, 22	地域保健法	地域保健の動向と規則
23, 24	健康増進法	健康増進施策の経緯と健康増進法の意義
25, 26	衛生行政	中央の保健行政組織とその機能
27, 28	〃	特定の地域の保健行政組織と保健事業の実例
29, 30	〃	保健行政組織のネットワークと今後のあり方

評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・「国民衛生の動向」（厚生指標 臨時増刊） 厚生統計協会毎年発行
- ・新歯科衛生士教本「衛生行政・社会福祉」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「歯科でいかそう健康増進法」8020推進財団編 医歯薬出版
- ・「歯科六法必携」能美光房、宮武光吉、石井拓男編 ヒョーロンパブリッシャーズ
- ・新歯科衛生士教本「衛生学・公衆衛生学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

科目名	社会福祉原論Ⅰ
ユニット名	社会福祉原論Ⅰ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

- ・現代における社会福祉の果たす役割と重要性を認識するため、社会福祉の理論・思想や価値・倫理について、その歴史や特徴の概要を理解する。
- ・現代における社会福祉の果たす役割と重要性を認識するため、社会福祉の制度・政策について、その歴史や特徴の概要を理解する。
- ・専門職としての科学的探究心と問題解決能力を身につけるため、人々の生活と健康に関連する社会福祉の課題を理解する。
- ・保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力の基盤を身につけるため、社会福祉学と口腔保健学の関連性を理解する。

到達目標

- ・社会福祉の理論・思想や価値・倫理について、その歴史や特徴の概要を説明することができる。
- ・社会福祉の制度・政策について、その歴史や特徴の概要を説明することができる。
- ・人々の生活と健康に関連する社会福祉の課題について、自らの意見を述べることができる。
- ・社会福祉学と口腔保健学の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	イントロダクション	人々の日常生活と社会福祉
2	人々の生活と健康に関連する社会福祉 1	現代社会に生きる人々の生活と健康
3	人々の生活と健康に関連する社会福祉 2	人々の生活と健康に関する課題の特徴
4	人々の生活と健康に関連する社会福祉 3	自助・共助・公助による生活課題の解決
5	人々の生活と健康に関連する社会福祉 4	生活課題の解決と医療・福祉・保健の連携
6	社会福祉の考え方	社会福祉の概念－理念と実体－

7	社会福祉の歴史 1	前近代社会と福祉の歴史的展開過程
8	社会福祉の歴史 2	近代社会と福祉の歴史的展開過程
9	社会福祉の歴史 3	現代社会と福祉の歴史的展開過程
10	事例から考える社会福祉の価値・倫理 1	児童福祉の事例と社会福祉の価値・倫理
11	事例から考える社会福祉の価値・倫理 2	障害者福祉の事例と社会福祉の価値・倫理
12	事例から考える社会福祉の価値・倫理 3	高齢者福祉の事例と社会福祉の価値・倫理
13	現代の社会福祉 1	日本における社会福祉の仕組み
14	現代の社会福祉 2	日本における社会福祉の取り組み
15	まとめ	人々の日常生活を支える社会福祉

評価方法

①フィードバック・シート（授業の理解度の確認、質問を含む）、②グループディスカッション（事例検討など）、③授業内レポート、④定期試験の総合点で評価する。

参考図書等

- ・教科書：「社会福祉をはじめて学ぶあなたへ―社会福祉入門―」川廷宗之・宮嶋淳編 ヘルス・システム研究所
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

科目名	社会福祉原論Ⅱ
ユニット名	社会福祉原論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・選択・15 時間 2 学年後期・選択・30 時間 } 3 単位
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・現代における社会福祉の果たす役割と重要性を認識するため、社会福祉の理論・思想や価値・倫理について、その歴史や特徴を理解する。
- ・現代における社会福祉の果たす役割と重要性を認識するため、社会福祉の制度・政策について、その歴史や特徴を理解する。
- ・専門職としての科学的探究心と問題解決能力を身につけるため、人々の生活と健康に関連する社会福祉の課題を理解する。
- ・保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力の基盤を身につけるため、社会福祉学と口腔保健学の関連性を理解する。

到達目標

- ・社会福祉の理論・思想や価値・倫理について、その歴史や特徴を説明することができる。
- ・社会福祉の制度・政策について、その歴史や特徴を説明することができる。
- ・人々の生活と健康に関連する社会福祉の課題について、自らの意見を述べるすることができる。
- ・社会福祉学と口腔保健学の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。

授業計画

2 学年前期・選択・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	現代社会の新たな福祉問題	格差社会・ホームレス・社会的排除・ひきこもり等
2, 3	現代社会における福祉制度と福祉政策 1	福祉政策の概念と動向
4, 5	現代社会における福祉制度と福祉政策 2	福祉政策と政治・行政の関係

6, 7	現代社会における福祉制度と福祉政策 3	福祉政策と社会福祉サービスの関係
8, 9	事例から考える福祉制度・政策	福祉制度・政策と社会福祉サービスの事例検討
10, 11	福祉の原理 1	福祉の原理をめぐる哲学と倫理
12, 13	福祉の原理 2	福祉の原理と相談援助の関係
14, 15	事例から考える福祉の原理	福祉の原理と相談援助の事例検討

2 学年後期・選択・30 時間

16, 17	福祉政策におけるニーズと資源	福祉政策におけるニーズと社会資源
18, 19	事例から考えるニーズと資源	福祉政策におけるニーズと社会資源の事例検討
20, 21	福祉政策のと現代社会の課題 1	福祉政策と格差社会・ホームレスの問題
22, 23	福祉政策の現代社会の課題 2	福祉政策と社会的排除・ひきこもりの問題
24, 25	事例から考える福祉政策の課題	福祉政策の現代社会の課題に関する事例検討
26, 27	福祉政策と供給部門（セクター）	国家セクター、非営利セクター、営利セクターなど
28, 29	事例から考える福祉供給部門	福祉政策と供給部門（セクター）の事例検討
30, 31	社会福祉の専門職と関連分野 1	社会福祉分野の専門職と関連分野
32, 33	社会福祉援助と関連分野の支援	社会福祉援助過程とヘルスプロモーション
34, 35	事例から考える専門職の連携	社会福祉援助とヘルスプロモーションの事例検討
36, 37	社会福祉の動向 1	日本における社会福祉の動向
38, 39	社会福祉の動向 2	諸外国における社会福祉の動向
40, 41	社会福祉の動向 3	日本における児童福祉・障害者福祉の動向
42, 43	社会福祉の動向 4	日本における高齢者福祉・地域福祉の動向
44, 45	まとめ	福祉政策と社会福祉サービス

評価方法

①フィードバック・シート（授業の理解度の確認、質問を含む）、②グループディスカッション（事例検討など）、③授業内レポート、④定期試験の総合点で評価する。

参考図書等

- ・教科書：「四訂 新・社会福祉概論 - 変革期の福祉をみつめて -」 千葉茂明・宮田伸朗編 株式会社みらい
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

科目名	口腔健康科学
ユニット名	口腔健康科学
授業形態	講義・PBL テュートリアル
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	寺岡加代・寺岡加代(講義)、小野寺光江 (PBL テュートリアル)
授業担当者	寺岡加代、安藤雄一 (国立保健医療科学院)、口腔保健学科教員
主な授業場所	口腔保健学科第2講義室(講義)、第1～第4演習室(PBL テュートリアル)

学習目標

ヘルスプロモーションの変遷を知るとともに、活動のプロセスを学び、口腔保健の専門家としての役割を理解する。

到達目標

- ・口腔健康科学の意義を説明できる。
- ・ヘルスプロモーションの概要を説明できる。
- ・WHO の健康戦略を説明できる。
- ・保健行動の理論とモデルを説明できる。
- ・ヘルスプロモーションの展開過程（計画・実施・評価）を説明できる。
- ・口腔保健政策におけるヘルスプロモーションの役割を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	口腔健康科学・ヘルスプロモーションの概要	口腔健康科学の意義、ヘルスプロモーションの定義・変遷、WHO の健康戦略
4-6	全体講義・セッション 1	PBL テュートリアルについて、シナリオ 1
7-9	セッション 2	シナリオ 2
10-12	セッション 3	シナリオ 3
13-15	セッション 4	シナリオ 4
16-18	保健行動の理論・ヘルスプロモーションの役割	保健行動の理論とモデル (Precede-Proceed モデル) 口腔保健政策におけるヘルスプロモーションの役割
19-21	セッション 5	シナリオ 5

22-24	セッション 6	シナリオ 6
25-27	セッション 7	シナリオ 7
29-30	セッション 8	まとめ

評価方法

セッション毎に、チューターによる形成的評価を行う。

期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「オーラルヘルスプロモーション」 岡田昭五郎監修 (財) 口腔保健協会
- ・「ヘルスプロモーション講座」 島内憲夫編著 JUHRC
- ・「健康教育・ヘルスプロモーション」 武藤孝司著 篠原出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

必要に応じ、科目責任者(演習)、担当チューターによる面談を行うことがある。

科目名	口腔保健衛生学原論Ⅱ
ユニット名	口腔保健衛生学原論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、近藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

国民の QOL（生活・人生の質）向上のために、口腔保健を担う専門的職業人としての活動のあり方を理解する。

到達目標

- ・口腔保健学の概念と概要が説明できる。
- ・口腔保健に携わる者としての倫理、使命感（心構え）を説明できる。
- ・日本における口腔保健に関する問題点を抽出し、その解決策を討論できる。
- ・歯科医療および口腔保健活動における歯科衛生士・社会福祉士の役割、活動内容を説明できる。
- ・歯科衛生士の活動内容の歴史、内容および将来像を述べられる。
- ・歯科医療機関、地域保健、福祉施設などにおける口腔保健活動および関連職種との協力関係を説明できる。
- ・歯科衛生プロセスを概説できる。
- ・インフォームドコンセントの定義と重要性を説明できる。
- ・患者の権利を説明できる。
- ・患者心理の理解と適切な患者対応（接遇）を説明できる。
- ・患者と医療従事者との望ましい関係、信頼関係の重要性を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	口腔保健学とは	口腔保健に関わる活動の意義と実際
3, 4	口腔保健専門家としての倫理 1	医の倫理・歯科衛生倫理、法的責任と道義的責任、守秘義務、個人情報管理
5, 6	海外の歯科衛生活動	諸外国の歯科衛生士（アメリカ、北欧、オーストラリアの事例から）

7, 8	口腔保健専門家としての倫理 2	専門的職業人とは何か、歯科衛生過程
9, 10	日本の口腔保健事情	口腔保健の問題点、マンパワー 等
11, 12	患者の権利	患者接遇の基本、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン
13, 14	事例から考える倫理問題	ヒヤリ・ハット、対応が難しい患者など
15	まとめ	保健・医療・福祉に関わる職種と協働

評価方法

課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。

態度、出席状況を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科衛生士概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 2006
- ・「自己決定の行動科学」 日本保健医療行動科学会編集 メヂカルフレンド社 1996
- ・「歯科衛生ケアプロセス」 下野正基 監著 医歯薬出版 2007
- ・「平成 17 年 歯科疾患実態調査報告書」口腔保健協会 2007
- ・その他、随時印刷物を配布する。

留意事項

事前配布資料や e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	保存系歯科医学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博
授業担当者	木下淳博、島田康史（う蝕制御学分野）、竹田淳志（歯髄生物学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

保存系治療の種類と内容を理解し、チーム医療を実践するために必要な知識を修得する。

到達目標

- ・ 窩洞の分類を説明できる。
- ・ 保存修復治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 外科的歯内治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 歯周基本治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 外科的歯周治療の種類、目的、器具、器材、前準備を説明できる。
- ・ 歯周治療におけるメンテナンスの内容、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。

授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	保存修復治療	保存修復治療概説、保存修復治療の種類、目的、窩洞の分類
3, 4	成形充填修復 1	成形充填修復治療の流れ、材料・器具の取り扱い、準備、術後管理
5, 6	成形充填修復 2	成形充填修復治療の流れ、材料・器具の取り扱い、準備、術後管理
7, 8	鑄造修復	鑄造修復治療の流れ、材料・器具の取り扱い、準備、術後管理

9, 10	歯内治療	歯内治療概説、歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理、ラバーダム防湿、隔壁
11, 12	歯髄除去療法	歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
13, 14	感染根管治療	感染根管治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
15, 16	根管充填法	根管充填法の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理、および外科的歯内治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
17, 18	歯周治療	歯周治療概説、歯周組織診査の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
19, 20	歯周基本治療	歯周基本治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
21, 22	歯周外科治療	歯周外科治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
23, 24	メンテナンス、他	歯周治療におけるメンテナンスの内容、目的、器具、器材、準備、術後管理 その他の歯周治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
25, 26	ケーススタディ 1	保存系歯科治療における診療の流れと器材の準備
27, 28	ケーススタディ 2	保存系歯科治療における診療の流れと器材の準備
29, 30	ケーススタディ 3	保存系歯科治療における診療の流れと器材の準備

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「保存修復学・歯内療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	発達育成系・障害者歯科医学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・15 時間 単位認定（2 単位）は3 学年前期（15 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	石川雅章
授業担当者	石川雅章、遠藤圭子、中里みどり（横浜市教育委員会）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔保健の意義および口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。

到達目標

- ・出生から青少年期までの心身の成長・発達を説明できる。
- ・小児の情緒と社会性の発達を説明できる。
- ・小児の健康を育む食生活と支援の重要性を説明できる。
- ・歯の萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる。
- ・顎・顔面頭蓋の成長過程を説明できる。
- ・歯列咬合の発育過程を説明できる。
- ・歯科治療時の小児の行動への対応法を説明できる。
- ・障害児口腔内の特徴と歯科的対応を説明できる。
- ・小児期の口腔保健の重要性とその手段を説明できる。
- ・小児期の口腔疾患とその治療法、チーム医療を説明できる。
- ・青少年期に特有な心身の問題とその解決策を概説できる。

授業計画 2 学年後期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	顎・顔面頭蓋と歯列・咬合の発育	頭蓋の構成要素、発育様式、発育の評価法、日本人小児の平均成長、無歯期、乳歯萌出期、乳歯列期、混合歯列前期、混合歯列後期、永久歯列初期
3, 4	小児の口腔疾患と口腔保健	乳歯う蝕の特徴と罹患型、幼若永久歯う蝕の特徴、小児期咬合の異常、歯周疾患、口腔外傷、軟組織疾

		患、発達期口腔保健の意義
5, 6	歯科治療時の小児行動への対応法、小児歯科における診査	小児チーム医療の原則、小児歯科治療三角、代用語の使用、行動変容法、強制的な行動抑制、鎮静法の応用、全身麻酔法、障害児口腔内の特徴と歯科的対応、小児歯科における診査と診査資料の見方
7, 8	小児の歯冠修復と歯内療法	ラバーダム防湿法、シーラント、成形充填、鑄造歯冠修復、全部歯冠修復、覆髄法、GCRP、生活歯髄切断法、抜髄法、感染根管治療法
9, 10	小児歯科での外科的処置と乳歯・幼若永久歯への外傷	局所麻酔、抜歯、外来小手術、小児への薬物療法、外傷歯の診査、硬組織・歯髄損傷への対応、歯周組織損傷への対応、固定法、乳歯外傷の後継永久歯への影響
11, 12	咬合誘導	咬合誘導の概念、乳歯早期喪失による歯列咬合への影響、保隙装置の種類、動的咬合誘導の目標、診断・治療計画上のポイント、不正咬合別の治療指針
13, 14	青少年期の問題点と解決策 1	青少年の生活環境と問題、解決策
15	青少年期の問題点と解決策 2	社会における青少年の問題、解決策

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。

2 学年後期末の客観試験、記述試験で中間的評価を行う。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
- ・小児の口腔科学 前田隆秀、朝田芳信、田中光郎他 学建書院
- ・「国民衛生の動向 2008 年」 厚生統計協会
- ・「平成 20 年版 青少年白書」 内閣府
- ・「平成 20 年版 食育白書」 内閣府
- ・「小学校 歯の保健指導の手引き」 東山書房

留意事項

前期口腔疾患予防学の一連の授業のうち、最後の 3 回 6 時間の授業と連続性を有する（到達目標の最初 4 項目）。

科目名	口腔疾患予防学
ユニット名	口腔疾患予防学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博
授業担当者	木下淳博、寺岡加代、石川雅章、近藤圭子、遠藤圭子、 島田康史（歯髄生物学分野）、小林賢一（スペシャルケア外来）、 品田佳世子（健康推進歯学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

口腔の健康状態を維持するための要因と、予防可能な口腔疾患の種類、その原因と予防法について理解する。

到達目標

- ・口腔疾患の予防原理を説明できる。
- ・歯科予防処置を説明できる。
- ・プラークコントロール（歯につく沈着物の除去）について、その重要性、効果等を説明できる。
- ・歯磨剤・洗口剤を説明できる。
- ・ブラッシングの方法を列举でき、簡単に説明できる。
- ・歯周病の症状・種類・診査を説明できる。
- ・歯周病の予防を説明できる。
- ・う蝕の実態を説明できる。
- ・歯髄炎および根尖性歯周炎の症状、種類を説明できる。
- ・う蝕の予防を説明できる。
- ・フッ素のう蝕予防効果を説明できる。
- ・歯質損耗（tooth wear）の症状、種類、予防、治療法を説明できる。
- ・口臭の分類、原因、予防、処置を説明できる。
- ・セルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティケアの内容を説明できる。
- ・器質的ケアと機能的ケアを説明できる。
- ・出生から青少年期までの心身の成長・発達を説明できる。
- ・小児の情緒と社会性の発達を説明できる。
- ・小児の健康を育む食生活と支援の重要性を説明できる。
- ・歯の萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	予防可能な口腔疾患概要	辺縁性歯周炎の概要、う蝕の概要
3, 4	口腔疾患予防の原理と概要 口腔ケアの分類	口腔疾患予防の原理と概要、第 1 次予防から第 3 次予防、セルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティケア、器質的ケア、機能的ケア
5, 6	口腔保健の実態	口腔保健の現状と課題
7, 8	歯科予防処置	歯科予防処置の種類、概要
9, 10	口腔内の付着物	口腔内付着物の種類、性質、成因等
11, 12	プラークコントロール	プラークコントロールの重要性と効果、ブラッシング法等、歯磨剤、洗口剤
13, 14	歯周病の実態	歯周病の症状・種類・診査・検診、実態調査
15, 16	歯周病の予防	口腔保健指導、生活習慣指導、歯石除去、歯面研磨等
17, 18	う蝕の実態	う蝕・歯髄炎・根尖性歯周炎の症状・種類・診査・検診、実態調査、う蝕活動性試験
19, 20	う蝕の予防	砂糖、代用甘味料、歯ブラシ、デンタルフロス等、フッ素のう蝕予防効果、フッ素の応用法、フッ素の毒性等
21, 22	歯質損耗 (tooth wear)	歯質損耗 (tooth wear) の症状・種類・予防・治療法
23, 24	口臭の実態と予防	口臭の分類・原因・予防・処置
25, 26	発達期の口腔疾患予防概論、身体の成長と発達、小児の生理的特徴、	発達期の口腔疾患予防概要、発育の一般的原則と評価、発育に影響を及ぼす因子、小児期の分類、器官の発育、小児の生理的特徴と味覚の発達
27, 28	摂食機能の発達と食育、言語・情緒と社会性の発達	乳児期の反射、哺乳・離乳と摂食機能の発達、食育、日本語の音声、言語の発達、情動の発達、社会性の発達、精神・情緒の発達障害
29, 30	歯の発育と萌出、乳歯・幼若永久歯の特徴	歯の発生と分化、乳歯の萌出、永久歯の萌出、乳歯の形態学的特徴、組織学的特徴、物理化学的特徴、幼若永久歯の特徴

評価方法

随時の小テスト・レポートで形成的評価を行う。

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「口腔保健のためのフッ化物応用ガイドブック」 日本口腔衛生学会フッ素研究部会編 口腔保健協会
- ・「8020 地域歯科保健活動の現場から」 榊原悠紀田郎監修 ヒョーロンパブリッシャーズ
- ・「歯周病と全身の健康を考える」 ライオン歯科衛生研究所編 医歯薬出版
- ・「口腔ケアによる気道感染予防」 地域保健研究会口腔ケアによる気道感染予防研究委員会編 社会保険研究所
- ・新歯科衛生士教本「歯周治療学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「小児の口腔科学」 前田隆秀、朝田芳信、田中光郎 他著 学建書院

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔疾患予防学
ユニット名	顎口腔機能育成学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博・石川雅章
授業担当者	小野卓史（顎顔面矯正学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

顎口腔機能の発達過程および不正咬合との関連を理解し、顎口腔機能の育成および個性正常咬合獲得を、口腔保健の立場から支援するための知識を修得する。

到達目標

- ・ 正常な歯列咬合の状態を説明できる。
- ・ 不正咬合の種類とその影響を説明できる。
- ・ 不正咬合の診断に必要な資料・情報を説明できる。
- ・ 不正咬合の診断・治療法を概説できる。
- ・ 歯科矯正器材と装置の種類・取り扱い方を概説できる。
- ・ 歯科矯正治療におけるチーム医療を説明できる。
- ・ 歯科矯正治療中の患児の口腔保健指導が説明できる。
- ・ 歯科矯正治療中の患児への口腔ケアと心理的支援を説明できる。
- ・ 顎口腔機能の育成を概説できる。

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	歯科矯正学概論	不正咬合の生理的・心理的障害、矯正治療の目的とその必要性、矯正歯科治療の歴史、矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割
2, 3	成長・発育と口腔習癖	成長発育曲線、顎・顔面・頭蓋の成長発育、歯列の成長発育（乳歯列、混合歯列、永久歯列、歯年齢）、口腔習癖の種類と頻度、咬合・咀嚼・発音・嚥下への影響、口腔筋機能療法
4, 5	咬合	正常咬合の定義、不正咬合の種類（歯の異常、歯列弓形

		態の異常、上下顎間関係の異常)と分類, 不正咬合の原因 (遺伝的・環境的、先天的・後天的)、不正咬合の予防
6, 7	矯正診断	診査と情報の収集 (相談・問診・写真・口腔模型・パノラマエックス線写真・頭部エックス線規格写真、口腔機能検査等)、症例分析法、治療方針の立て方
8, 9	矯正治療における生体反応と生力学、矯正治療の使用器材	矯正力、歯の移動・組織反応、歯の移動様式、固定、矯正用器具の種類とその取り扱い、矯正材料の種類と取り扱い
10, 11	矯正装置	舌側弧線装置、マルチブラケット装置、床矯正装置、機能的顎矯正装置、側方拡大装置、顎外固定装置、保定装置など、各装置の説明と注意事項
12, 13	不正咬合の治療法	混合歯列期 (第Ⅰ期治療)、永久歯列期 (第Ⅱ期治療)、成人の矯正歯科治療 (外科矯正、補綴前準備、歯周疾患患者、MTM)
14, 15	歯科矯正治療におけるチーム医療	歯科矯正治療の補助、矯正治療中の口腔保健指導、患児への口腔ケアと心理的支援

評価方法

随時の小テスト・レポートで形成的評価、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科矯正学」 全国歯科衛生士教育評議会編 医歯薬出版
- ・矯正歯科治療とオーラルハイジーンコントロール 高田健治監修 クインテッセンス出版
- ・歯科矯正学と診療補助 東理十三雄監修 遠藤敏哉著 クインテッセンス出版
- ・歯科矯正学 第4版 葛西一貴他編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔疾患予防学実習
ユニット名	口腔疾患予防学実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・45 時間 2 学年後期・必修・45 時間 単位認定（3 単位）は3 学年前期（45 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	近藤圭子
授業担当者	石川雅章、寺岡加代、木下淳博、遠藤圭子、近藤圭子、須永昌代、小原由紀、大塚紘未、吉田有里、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、吉田直美（千葉県立保健医療大学）、岡田昌子・田澤千鶴・山梨楠奈子・河野章江・堀江明子（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 実習室

学習目標

歯・口腔の状態把握および歯科予防処置の基本的技術を修得する。

到達目標

- ・う蝕予防と歯周歯科疾患予防の基礎を説明できる。
- ・歯、口腔（歯、歯肉、歯の付着物・沈着物）状態把握を説明し、実施できる。
- ・歯科予防処置実施にあたり、生体への配慮（器具の消毒・滅菌、感染予防、手指の消毒法、偶発事故の予防）ができる。
- ・歯科予防処置のうち、歯石除去、歯面清掃、SRP、う蝕予防処置、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口を実施できる。

授業計画

2 学年前期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	実習の進め方、各種インスツルメント	実習の進め方・室の使い方、スケーラー選定
4-6	歯科衛生プロセスアセスメント	診査・検査（EPP、PCR、OHI、PMA）診査器具
7-9	診査用器具の取り扱い/人間工学	エキスポローリング/位置と姿勢
10-12	歯科衛生プロセス 実施 インスツルメンテーション	インスツルメントの種類と把持法、基本操作と前歯スケーリング

13-15	〃	前歯部のスケーリング（透明歯肉を用いて）
16-18	〃	前歯部のスケーリング（透明歯肉を用いて）
19-21	〃	臼歯部のスケーリング（透明歯肉を用いて）
22-24	〃	臼歯部のスケーリング（透明歯肉を用いて）
25-27	〃	臼歯部のスケーリング（透明歯肉を用いて）
28-30	シャープニング	キュレットならびにシクルタイプのシャープニング
31-33	超音波スケーリング	超音波スケーラー実習
34-36	〃	超音波スケーラー実習
37-39	ルートプレーニング	スケーリングルートプレーニングの方法
40-42	〃	ルートプレーニング実習
43-45	歯面研磨	歯面研磨

2 学年後期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容
46-48	基礎訓練振り返り	基本スキルの確認
49-52	SRP 1	スケーリングルートプレーニング、研磨 1
53-56	SRP 2	スケーリングルートプレーニング、研磨 2
57-60	口腔内診査 1	相互実習 医療面接と口腔内観察
61-63	口腔内診査 2	相互実習 歯の診査・歯周組織検査
64-66	歯科衛生診断	診断ステートメント
67-69	相互実習 1	手用スケーラーを用いた歯石除去
70-72	相互実習 2	〃
73-75	相互実習 3	〃
76-78	相互実習 4	〃
79-81	相互実習 5	超音波スケーラーによる歯石除去
82-84	相互実習 6	〃
85-87	記録の整理と確認	記録の整理と確認
88-90	フッ化物応用	フッ化物歯面塗布、フッ化物応用の方法と実際

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。

実習態度などを評価に加味する。

2 学年後期末に 2 学年履修範囲（2 単位相当）の実技試験、筆記試験を行う。

参考図書等

- ・「Fundamentals of Periodontal Instrumentation」 Jill S. Nield-Gehrig, Lippincott Eilliams & Wilkins, 2007.
- ・新歯科衛生士教本「歯科予防処置」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配付する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔健康統計学・情報処理論
ユニット名	口腔健康統計学・情報処理論
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	寺岡加代
授業担当者	佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

集団の口腔保健に関する問題を解決するための疫学的方法論を修得し、情報処理の実験を体験する。

到達目標

- ・衛生統計の意義および目標を説明できる。
- ・資料の収集方法について説明できる。
- ・標本の抽出について説明できる。
- ・う蝕の検出と指数を説明できる。
- ・歯周疾患の検出と指数を説明できる。
- ・口腔清掃状態と歯石の指数を説明できる。
- ・検定の意味について概略を説明できる。
- ・基本的なデータ集計、データ分析ができる。
- ・医学論文における基本的な解析結果を説明できる。
- ・情報を法的・倫理的に正しく取り扱うことができる。

授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	衛生統計の意義と目標	衛生統計の果たす役割
2	疫学の成果	疫学の定義・成果・要因・タイプ
3	疫学の実際	疫学研究の方法論
4	資料の作成および指標と尺度	調査票の作成における留意点、尺度や数量化の方法
5	調査の実施と資料の真実性	調査の実施方法、統計資料の真実性の考察
6	マスキング	各種マスキングの方法と実例

7	母集団と標本	母集団に対する標本の一般化の可能性と代表性
8	バイアス	系統誤差の種類とその対策
9	交絡	因果推論と交絡
10	リスクとリスクファクタ	リスクとリスクファクタの相違
11	口腔診査の疫学的意義	口腔診査法の変遷とそれぞれの特徴、歯科検診における誤差の考察
12	スクリーニングと診断	スクリーニングの方法と特性の評価法
13	情報の分析	情報分析の方法論
14	標本抽出法	いろいろな標本抽出法
15	標本抽出演習	正規母集団からの標本抽出と集計実習
16	標本抽出のまとめ	抽出標本からの母集団の推定
17	う蝕の検出基準と指数	う蝕の各種検出基準・指数とその意義
18	う蝕の指数に関する演習	う蝕の各種指数の集団における評価の演習
19	歯周疾患の検出基準と指数	歯周疾患の各種検出基準・指数とその意義
20	歯周疾患の指数に関する演習	歯周疾患の各種指数の集団における評価の演習
21	口腔清掃状態および歯石の検出基準と指数	口腔清掃状態・歯石の各種検出基準・指数とその意義
22	口腔清掃状態および歯石の指数に関する演習	口腔清掃状態・歯石の各種指数の集団における評価の演習
23	歯のフッ素症・酸蝕症などの検出基準と指数	歯のフッ素症・酸蝕症等の各種検出基準・指数とその意義
24	歯のフッ素症・酸蝕症などの指数に関する演習	歯のフッ素症・酸蝕症等の各種指数の集団における評価の演習
25	グラフ	グラフの読解と使い分け
26	規格化と相関	規格化の方法と関連の表現法
27	推定	統計的推定法
28	検定	検定の使い分け
29	個人情報とプライバシー	個人情報とプライバシーの相違
30	情報に関する倫理	情報に関する倫理

評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・「解説 平成 17 年歯科疾患実態調査」 歯科疾患実態調査報告解析検討委員会編 口腔保健協会
- ・「歯科衛生の動向 2004 年版」 日本口腔衛生学会編 医歯薬出版
- ・「歯科保健関係統計資料」 歯科保健医療研究会編 口腔保健協会
- ・歯科衛生士教本「歯科衛生統計」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

科目名	口腔健康教育
ユニット名	口腔健康教育
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、近藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室・演習室

学習目標

口腔健康教育の考え方と方法を理解し、アセスメントから評価に至る流れを修得する。

到達目標

- ・口腔健康教育について説明できる。
- ・歯科衛生過程の流れが説明できる。
- ・アセスメント・歯科衛生診断・計画・実施・評価ができる。
- ・対象別口腔健康教育のテーマが設定できる。
- ・視聴覚教材の種類と特徴、作成および使用に際しての留意点を説明できる。
- ・提示された課題について健康教育の計画ができる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	口腔健康教育とは	健康教育・口腔健康教育の定義と考え方
3, 4	健康とは	健康のとらえ方、健康指標 歯科衛生士法における保健指導との関連
5, 6	健康教育のための計画づくり	アセスメント、ニーズの把握、アタック項目の抽出、 健康教育プログラムの計画
7, 8	健康教育の実践	健康教育実践上の必須事項
9, 10	健康教育の評価	評価とは何か、プログラム評価の種類 等
11, 12	評価の具体的な事例	保健行政における健康教育評価
13, 14	社会的アプローチ	健康権、ソーシャルマーケティング 等
15, 16	健康教育の展開－家庭	家庭における健康教育

17, 18	〃	－学校	学校における健康教育
19, 20	〃	－職域	職域における健康教育
21, 22	〃	－地域	地域における健康教育
23, 24	課題別健康教育－ライフスキル		ライフスタイル支援のあり方
25, 26	〃	－運動、歯科	運動指針、筋力トレーニング、禁煙支援
27, 28	〃	－栄養、休養	食育、余暇時間
29, 30	まとめ		まとめ

評価方法

課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。

受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「健康教育　ヘルスプロモーションの展開」日本健康教育学会編　保健同人社　2003
- ・全国歯科衛生士教育協議会編　新歯科衛生士教本「歯科保健指導」　医歯薬出版　2004
- ・「平成 17 年歯科疾患実態調査報告書」　口腔保健協会　2007
- ・その他、随時印刷物を配布する。

留意事項

事前配布資料や e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔健康教育実習
ユニット名	口腔健康教育実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・48 時間 } 2 単位 2 学年後期・必修・42 時間
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	木下淳博、近藤圭子、遠藤圭子、大塚紘未
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

口腔健康教育の実践に必要な知識・技術を修得し、実践力を培う。

到達目標

- ・生活と口腔保健行動の関連を説明できる。
- ・歯科衛生過程によって、健康教育が組み立てられる。
- ・個人の口腔保健と生活習慣に関するアセスメントができる。
- ・アセスメント内容を活用して、歯科衛生診断、計画立案ができる。
- ・対象者に合わせた健康教育計画が立案できる。
- ・口腔健康教育実践のためのツールを説明できる。
- ・口腔清掃の術式、用具の種類と用途を説明でき、口腔清掃指導を実施できる。
- ・対象者に対して、口腔健康教育を実施・評価できる。
- ・口腔内写真撮影ができ、情報把握ができる。

授業計画

2 学年前期・必修・48 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	口腔健康教育実習の意義と具体的内容	口腔健康教育と実習の意義、生活と口腔保健行動
4-6	歯科衛生過程 アセスメント	歯科衛生過程とは アセスメント 歯科衛生診断、計画立案、実践、評価、記録
7-9	対象者の口腔保健と生活	各自の口腔観察、サリバテスト、PCR 等の実際生活に関する情報の収集、整理

10-12	口腔環境 学生生活の実態と健康行動	検査結果の分析 学生の生活実態、健康行動
13-15	歯科衛生診断	歯科衛生診断の意義 アタックポイントの検討、優先順位の決定
16-18	計画立案 実践	結果を活用した計画立案 実践に必要な基礎的情報
19, 20	小学校における健康教育の実践	T 小学校における健康教育実習の目的 留意点
21, 22	ブラッシング法	ブラッシング法の種類、利点と欠点 口腔内の状態によるブラッシング法の選択
23-25	T 小学校健康教育実習	1・2 年対象の健康教育の実践 報告書作成
26, 27	様々な口腔清掃用具	舌ブラシ、粘膜ブラシ、電動歯ブラシ、口腔洗浄器
28, 29	口腔清掃関連器材	歯垢染め出し剤の使用意義と使用上の注意
30, 31	対象別健康教育事例検討 1	乳幼児期の健康課題
32, 33	対象別健康教育事例検討 2	学童期の健康課題
34, 35	対象別健康教育事例検討 3	思春期の健康課題
36, 37	対象別健康教育事例検討 4	成人期の健康課題
38, 39	対象別健康教育事例検討 5	妊娠中の健康課題
40-42	対象別健康教育事例検討 6	高齢者の健康課題
43, 44	対象別健康教育事例検討 7	在宅高齢者の健康課題、訪問活動とは、居宅訪問時の留意点、アセスメント、BDR、ADL
45, 46	小学生の生活と保健行動把握	調査項目の設定、調査票の設計
47, 48	〃	小学生の保健行動に関する文献検索

2 学年後期・必修・42 時間

回	授業題目	授業内容
49-51	小学生対象の健康教育 1	アセスメント（情報の集計、分析）
52-54	小学生対象の健康教育 2	学童対象の健康教育計画
55-57	視聴覚教材の種類と応用法	視聴覚教材とは、種類、長所・欠点、応用法
58-60	口腔内写真撮影 1	デジタルカメラの取り扱い、撮影、パソコンへの取り

	写真撮影の基礎	込み・整理、管理法
61-63	小学生対象の健康教育 3	歯科衛生診断、計画立案、健康教育目標の設定媒体、シナリオ（絵コンテ）作成
64-67	口腔内写真撮影 2 相互実習	口角鉤、写真用ミラーの使用上の注意 相互実習時の配慮点 写真撮影、写真の整理・管理
68-70	小学生対象の健康教育 4	リハーサル、評価 健康教育評価法の選択
71-70	口腔内写真撮影 3 相互実習	写真撮影、写真の整理・管理 報告書の作成
71-73	小学生対象の健康教育 5	集団対象時の留意点（服装、話し方、発声、視線の向け方、媒体の使用法 等）
74-76	小学校健康教育実習 7	実習、事後評価
77-79	臨床の場における健康教育 症例検討	患者に関する情報の収集、健康教育法 模型、実物の活用の仕方
80-83	小学生対象の健康教育 8	学校、保護者への結果報告書の作成
84-86	症例検討報告	報告書の作成、発表、討議
87-89	〃	〃
90	まとめ	健康教育の意義と場

評価方法

授業態度、グループワークでの役割行動、出席、提出物、期末試験によって、総括的評価を行う。
 期末試験受験資格は、東京医科歯科大学歯学部試験規則第 11 条に準ずる。

参考図書

- ・「平成 17 年歯科疾患実態調査報告」 厚生労働省医政局歯科保健課編 口腔保健協会
- ・新歯科衛生士教本「保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「新歯ブラシ事典」 松田裕子、近藤いさを 学建書院
- ・「プラークコントロールのためのホームケア指導」 荒川浩久編集 クインテッセンス出版
- ・「歯と口の健康百科」 伊藤公一他編 医歯薬出版
- ・「子どもの声を生かした保健室活動 ー大規模校における養護教諭と子どもたちー」 尾花美恵子 不昧堂出版
- ・「お母さんの疑問にこたえる すこやかな口 元気な子ども」 田中英一、佐々木洋他 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。
授業進度や学外実習先の状況によって、関連の授業項目の順序が入れ替わることもある。

科目名	食生活教育
ユニット名	食生活論
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	小野寺光江
授業担当者	小野寺光江、森田育男（分子細胞機能学分野学分野）、 佐藤孝浩（分子細胞機能学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

日本人の食生活の現状を把握し、栄養成分の消化・吸収・代謝と健康の維持・増進、生活活動のために必要な栄養素を理解する。

到達目標

- ・栄養素の種類と機能を説明できる。(1 年)
- ・栄養素の体内での消化・吸収・代謝を説明できる。(1 年)
- ・国民健康・栄養調査を説明できる。
- ・日本人の食事摂取基準を説明できる。
- ・ライフステージに適した食生活を説明できる。
- ・保健機能食品を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	日本人の食生活	国民健康・栄養調査と日本人の食事摂取基準ほか
3, 4	ライフステージと食生活Ⅰ	成長・発達・華麗による食に関する機能の変化と食生活 母性の栄養と食生活
5, 6	ライフステージと食生活Ⅱ	乳児期の栄養と食生活 幼児期の栄養と食生活
7, 8	ライフステージと食生活Ⅲ	学童期の栄養と食生活 青少年期の栄養と食生活
9, 10	ライフステージと食生活Ⅳ	成人期の栄養と食生活 高齢期の栄養と食生活

11, 12	保健機能食品Ⅰ	食品安全学、保健機能食品概論
13, 14	保健機能食品Ⅱ	保健機能食品特論
15	まとめ	まとめ

評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

講義態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・副読本：「食品成分表 2009」香川芳子監修 女子栄養大学出版部
- ・応用栄養学「ライフステージからみた人間栄養学」

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	食生活教育
ユニット名	栄養指導
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	小野寺光江・寺岡加代
授業担当者	寺岡加代、小野寺光江
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

栄養学の知識を基に食生活について理解し、栄養指導に必要な知識と技能を修得する。

到達目標

- ・ 栄養指導の意義が説明できる。
- ・ 個人の栄養・食生活の分析ができる。
- ・ 食生活と口腔保健の関連が説明できる。
- ・ 疾病と栄養指導との関連が説明できる。
- ・ 食品の形態と食べやすさの関係について説明できる。
- ・ 口腔保健の立場から個人にあった栄養指導ができる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	栄養指導の基礎知識 1	栄養指導の意義（食育、有病者の栄養管理を含む）
2	栄養指導の基礎知識 2	栄養・食事バランスの分析 1
3	栄養指導の基礎知識 3	栄養・食事バランスの分析 2
4	栄養指導の基礎知識 4	栄養・食事バランスの分析 3
5	栄養指導の基礎知識 5	食生活と口腔保健の関連 1 咀嚼の全身への影響
6	栄養指導の基礎知識 6	食生活と口腔保健の関連 2 食生活と口腔機能
7	栄養指導の基礎知識 7	食生活と口腔保健の関連 3 食品のう蝕誘発能
8	栄養指導の基礎知識 8	疾病と栄養指導 1
9	栄養指導の基礎知識 9	疾病と栄養指導 2
10	栄養指導の基礎知識 10	食品の形態と食べやすさの関係

11	栄養指導演習 1	栄養指導実例 1
12	栄養指導演習 2	栄養指導実例 2
13	栄養指導演習 3	栄養指導実例 3
14	栄養指導演習 4	栄養指導実例 4
15	試験	筆記試験

評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・副読本：「食品成分表 2008」 香川芳子監修 女子栄養大学出版部
- ・新歯科衛生士教本「栄養指導・生化学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「歯科栄養」 小鹿眞理、加藤靖正著 学建書院
- ・「保健・医療・福祉のための栄養学」 渡邊早苗他編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	医学一般
ユニット名	医学一般
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・30 時間 単位認定（4 単位）は3 学年前期（30 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	吉増秀實
授業担当者	下門顕太郎（血流制御内科学分野）、古家 正（総合呼吸器病学分野）、磯部光章・蜂谷 仁（循環制御内科学分野）、岡本隆一（消化器病態学分野）、石川欽也（脳神経病態学分野）、太田哲人（腎臓内科学分野）、新井文子（血液内科学分野）、溝口史高、（膠原病・リウマチ内科学分野）、大野喜久郎（脳神経機能外科学分野）、西蔭徹郎（食道・胃外科学分野）、石黒めぐみ（大腸・肛門外科学分野）、佐藤隆宣（腫瘍外科学分野）、工藤篤（肝胆膵・総合外科学分野）森戸俊行（運動器外科学分野）、原田竜也・谷口義実（生殖機能協関学分野）、西川徹・車地暁生（精神行動医科学分野）、高橋龍太郎（東京都老人総合研究所）、伊藤聡一郎（国際医療福祉大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

口腔保健活動を行うために必要な臨床医学の各分野の知識を身につける。

到達目標

- ・主な感染症を説明できる。
- ・主な循環器疾患を説明できる。
- ・主な呼吸器疾患を説明できる。
- ・主な消化器疾患を説明できる。
- ・主な神経疾患を説明できる。
- ・主な血液疾患を説明できる。
- ・主な精神疾患を説明できる。
- ・主な骨・関節・結合組織疾患を説明できる。
- ・主な精神疾患を説明できる。
- ・臓器移植を概説できる。
- ・主な先天性疾患を説明できる。（3 年）

- ・主な小児科疾患を説明できる。(3 年)
- ・主な皮膚疾患を説明できる。(3 年)
- ・主な耳鼻咽喉科疾患を説明できる。(3 年)
- ・主な眼科疾患を説明できる。(3 年)
- ・主な泌尿器科疾患を説明できる。(3 年)
- ・老化に伴う主な疾患を説明できる。(3 年)
- ・再生医療を概説できる。(3 年)
- ・救急医療について概説できる。(3 年)
- ・機能障害およびリハビリテーション医療を説明できる。(3 年)
- ・有病者の歯科治療・口腔保健活動における対応法を説明できる(3 年)。

授業計画 2 学年後期・必修・30 時間

回	授業題目	授業内容
1-12	内科	総論、循環器疾患、呼吸器疾患、消化管疾患、肝・胆・膵疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎臓疾患、神経内科、血液疾患、膠原病・リウマチ等
13, 14	脳神経外科	脳血管障害、脳腫瘍等
15-18	外科	食道・胃外科、大腸・肛門外科、肝胆膵外科、乳腺外科等
19-22	整形外科	神経系疾患、関節系疾患等
23-26	産婦人科	妊娠、出産、不妊治療、高齢出産、更年期障害、閉経後の病気、子宮筋腫、子宮内膜炎、子宮がん、卵巣がん等
27-30	精神科	うつ病、心身症、ストレスとこころの病、不眠症、自閉症、ひきこもり、潔癖症、拒食症、アルツハイマー症、パーキンソン病、老年期の痴呆等

評価方法

随時小テストを行い、形成的評価を行う。期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

2 学年後期末に 2 学年履修範囲（2 単位相当）の中間試験を行う。

中間試験の受験資格は、東京医科歯科大学歯学部試験規則第 11 条に準ずる。

参考図書等

- ・新版社会福祉士要請講座 13「医学一般」 第 2 版 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規
- ・社会福祉士養成テキストブック「医学一般」 黒田研二、竹内孝仁編著 ミネルヴァ書房

留意事項

事前に資料の配布および e-learning システムへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔と全身の健康評価
ユニット名	生活習慣と疾患
授業の形態	講義（PBL テュートリアル）
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	吉増秀實・小野寺光江 (PBL テュートリアル)
授業担当者	口腔保健学科教員
主な授業場所	口腔保健学科 第 1～第 4 演習室

学習目標

生活習慣病を理解し、口腔保健衛生活動が生活習慣病予防に果たす役割について理解する。

到達目標

- ・生活習慣病について説明ができる。
- ・生活習慣病を引き起こす生活習慣について説明することができる。
- ・生活習慣病を引き起こす要因（生活習慣要因以外）について説明することができる。
- ・生活習慣病と死亡原因について説明することができる。
- ・生活習慣病とヘルスプロモーションとの関係について説明することができる。
- ・生活習慣病の種類と症状およびそれぞれの疾患についての主な薬剤の作用・副作用について説明できる。
- ・生活習慣病の予防法について説明できる。
- ・生活習慣病と歯周病との関係について説明できる。
- ・さまざまな生活習慣病をもつひとへの口腔保健指導の留意点を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	セッション 1	シナリオ 1
4-7	セッション 2	シナリオ 2
8-11	セッション 3	シナリオ 3
12-15	セッション 4	シナリオ 3 の発表・全体の総括

評価方法

セッション毎に、テューターによる形成的評価を行う。

期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

必要に応じ、科目責任者(演習)、担当チューターによる面談を行うことがある。

科目名	口腔と全身の健康評価
ユニット名	口腔と全身の健康評価・臨床検査
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	吉増秀實
授業担当者	吉増秀實、木下淳博、吉野教夫（口腔放射線医学分野）、品田佳世子（健康推進歯学分野）、岡田憲彦（中央検査部）、小林裕（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室・第3実習室

学習目標

口腔保健の実践に必要な口腔健康診断についての理論と実際を理解し、個々の対象者に応用できる問題解決能力を身につける。

到達目標

- ・診断のための医療面接を説明できる。
- ・面接および検査の結果を、業務記録に記載できる。
- ・バイタルサインの意義を説明できる。
- ・口腔および頭頸部の臨床評価について説明し、実施できる。
- ・口腔疾患と全身疾患の関係を説明できる。
- ・口腔領域のエックス線写真を読影できる。
- ・口腔内の検査を実施し、その結果を評価できる。
- ・主な臨床検査について説明できる。
- ・提示された事例についての口腔健康診断を行い、口腔保健活動計画を立案できる。

授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	口腔保健プロセスの概念	口腔保健プロセスの構成要素、口腔健康診断プロセスとは。
2, 3	医療面接	診断のための医療面接、面接にあたり注意すべき点、問診の方法
4	バイタルサイン	全身状態の把握のためのバイタルサインのとり方

5	口腔外アセスメント	頭頸部の健康状態の把握、顔面および頸部リンパ節の診査法（視診、触診）
6-9	口腔内アセスメント	口腔内の健康状態の把握、口腔粘膜、唾液腺、顎骨等の診査、歯および歯周組織の診査、口腔衛生状態の評価
10-12	口腔疾患と全身疾患の関連	口腔領域に症状が現れる全身疾患・全身に影響を及ぼす口腔疾患
13, 14	口腔保健プロセスの各ステージと相互関連	アセスメント、問題の明確化、計画立案（目標設定と方略）、実施・評価
15	業務記録	業務記録とは、業務記録の記載内容、記載法
16-18	画像診断	歯と歯周組織の X 線診断、デンタル X 線写真、パノラマ X 線写真等の読影法（正常像、異常像）等
19-21	口臭検査・唾液検査	口臭検査、唾液検査の講義・実習
22-24	臨床検査 1	臨床検査概論、血液検査
25-27	臨床検査 2	肝機能検査、腎機能検査、感染症検査
28-30	臨床検査 3	病理検査、口腔領域の検査

評価方法

随時小テストを行い、形成的評価を行う。期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。
講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「Dental Hygiene Process: Diagnosis and care planning」 Mueller-Joseph L, Petersen M., Delmar Publishers
- ・「Clinical Practice of the Dental Hygienist 」Wilkins, Esther M., Lippincott Williams & Wilkins
- ・「内科診断学」 福井次矢、奈良信雄編 医学書院
- ・「診察の技法と考え方」 寺本民生、秋葉隆編著 中外医学社
- ・「口腔診断学」 下里常弘監修 稔、長坂信夫、船越正也著 デンタルダイヤモンド社
- ・「口腔病変と患者の診かた」 富田喜内、河村正昭、福田博著 医歯薬出版
- ・「最新口腔外科学」 第4版(総論) 塩田重利、富田喜内監修 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「口腔衛生学・歯科衛生統計」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布および e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	臨床口腔保健衛生基礎学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	下山和弘
授業担当者	高木裕三（小児歯科学分野）、石川雅章、下山和弘、遠藤圭子、木下淳博、吉増秀實、寺岡加代
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

口腔保健・歯科医療の変遷と現状、歯科医療従事者の種類と役割、歯科診療の概要を理解する。

到達目標

- ・口腔保健・歯科医療の変遷と現状を概説できる。
- ・歯科患者の特徴、心理状態を説明できる。
- ・歯科診療従事者の種類をあげ、それぞれの役割が説明できる。
- ・歯科診療の流れと概要を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	口腔保健、歯科医療	口腔保健、歯科医療の変遷と現状、予測
3, 4	育成系歯科診療の概要	う蝕・歯周疾患の予防と抑制、不正咬合とその治療
5, 6	再建系歯科診療の概要	冠橋義歯、部分床義歯、全部床義歯
7, 8	歯科診療従事者と歯科受診患者	臨床の場における専門職種との協働、患者対応の留意点
9, 10	保存系歯科診療の概要	保存修復、歯内治療、歯周治療
11, 12	外科系歯科診療の概要	抜歯、外傷、炎症性疾患、嚢胞性疾患、腫瘍性疾患
13, 14	歯科保健・医療制度の概要	歯科保健・医療サービスの提供システム
15	まとめ	まとめ

評価方法

必要に応じてレポートの提出を課すとともに、期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	歯科放射線学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	下山和弘
授業担当者	渡邊裕（口腔放射線医学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

歯科診療の診断に必要な放射線に関して、チーム医療に必要な知識、基本的手技を習得する。

到達目標

- ・放射線物理の基本的な内容を説明できる。
- ・歯科放射線の撮影方法について説明できる。
- ・放射線撮影にあたり、撮影の意味とその被曝の程度や適切な防護について説明できる。
- ・放射線治療の概要について説明できる。
- ・CTやMRIなどの画像診断法について概説できる。

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	放射線物理	放射線と放射能、X線の性質と物質透過性
3, 4	X線撮影法	X線撮影装置の基本構造と各種歯科用装置、フィルムの現像と管理
5, 6	X線撮影の補助 1	口内法（二等分法、平行法、咬合法）
7, 8	X線撮影の補助 2	口外法（パノラマ、顎関節、頭部X線規格撮影）
9, 10	放射線治療-腫瘍学と生物学	放射線による口腔癌の治療、治療中の口腔管理
11, 12	放射線の管理と防護	放射線被曝、被曝線量の測定、放射線防護用具
13, 14	画像診断	CT、MRI、PET/CT、RI 検査

15	まとめ	必要とされる放射線の知識
----	-----	--------------

評価方法

必要に応じてレポートの提出を課すとともに、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・ 歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 有地榮一郎ほか監修 学建書院
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科放射線学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 「歯科放射線学」 古本啓一、山本昭、岡野友宏著 医歯薬出版
- ・ 「放射線のABC」 真室哲雄編 丸善
- ・ 「新・放射線の人体への影響」 日本保健物理協会・日本アイソトープ協会編 丸善

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	歯科生体材料学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	下山和弘・杉本久美子
授業担当者	高橋英和（先端材料評価学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

顎口腔歯科領域の治療に使用される歯科生体材料の種類と使用法について理解する。

到達目標

- ・ 歯科生体材料の一般的性質を説明できる。
- ・ 石膏の種類と使用方法を説明できる。
- ・ 印象材の種類と使用方法について説明できる。
- ・ セメント（合着用セメント、成形修復用セメント）の種類と使用方法について説明できる。
- ・ アクリルレジンとコンポジットレジンおよびの種類と使用方法について説明できる。
- ・ 歯科補綴治療（インプラントを含む）に使用する材料の種類と使用方法を概説できる。
- ・ 歯科生体材料の安全性について説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	歯科生体材料の特徴，歯科生体材料の生体適合性	歯科生体材料の特徴とその素材，歯科材料の所要性質，生体適合性の重要性、生体適合性の評価方法
2	歯科生体材料の物理的性質と化学的性質	歯科生体材料の物理的性質，機械的性質、応力-ひずみ線図、硬さ
3	成形修復材 1	歯科用アマルガムの性質と取り扱い方法、グラスイオノマーセメントの性質と取り扱い方法
4	成形修復材 2	コンポジットレジンの性質と取り扱い方法，接着機序
5	印象材 1	印象材の所要性質、アルジネート印象材、寒天印象材
6	印象材 2	ゴム質印象材、非弾性印象材、機能印象材
7	模型材 1	模型材の所要性質、石膏の種類と性質操作法

8	模型材 2	石膏の取り扱い方法
9	鋳 造	歯科精密鋳造の概要とその特徴、鋳造用合金の種類と特徴
10	義歯床用材料	義歯床用レジンの特徴、レジンの重合、裏装材、義歯安定剤
11	合着材 1	合着材の所要性質と種類、リン酸亜鉛セメントの特徴と練和法
12	合着材 2	ポリカルボキシレートセメントの特徴と練和法、グラスアイオノマーセメントの特徴と練和法、接着性レジンセメントの特徴と練和法
13	歯内治療用材料、予防歯科材料 矯正治療用材料	歯内療法に用いる小器具の特徴、仮封材の特徴、 予防填塞材の種類と特徴、歯ブラシの構造矯正用ワイヤの特徴
14	口腔外科用材料と感染予防 インプラント材料とその他の材料	顎義歯に用いる材料、エピーテーゼに用いる材料 インプラント材料の性質、歯科再生材料の性質、歯の物性
15	試験	筆記試験

評価方法

期末の筆記試験で総括的評価を行う。

必要に応じて小テストによる形成的評価を行う。

出席状況、平常学習態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・宮崎隆ほか編「臨床歯科理工学」 医歯薬出版 2006 年
- ・小倉英夫ほか編「コア歯科理工学」 医歯薬出版 2008 年

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	臨床口腔保健衛生基礎実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前後期・必修・45 時間 単位認定（2 単位）は 3 学年前期（45 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	近藤圭子
授業担当者	下山和弘、寺岡加代、吉増秀實、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、小野卓史（顎顔面矯正学分野）、田澤千鶴・堀江明子（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第2・3 実習室、第2 講義室、歯学科実習室

学習目標

歯科臨床の場でチーム医療の実践に必要な知識・技術を理解し、基礎的な技術を身につける。

到達目標

- ・患者が安全に受診できるように、診療環境を整えることができる。
- ・患者と円滑にコミュニケーションをとれる。
- ・チーム医療に必要な技能を実践できる。
- ・直接対面行為の技能を実践できる。
- ・診療に必要な検査を行い結果の意味が判断できる。
- ・バイタルサイン（意識レベルも含む）の測定ができる。
- ・救急蘇生について説明でき、実施できる。
- ・患者が安全に受診できるように、診療環境を整えることができる
- ・診療に必要な器械・材料・薬品の適切な準備と取り扱い(滅菌消毒も含む)ができる。

授業計画 2 学年前後期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	歯科診療におけるチームワークについて	歯科診療のチームワークの概要
4-6	共同動作 1	共同動作の基礎、(位置・姿勢等)
7-9	共同動作 2	共同動作の応用（診療補助に関わるテクニック）
10-12	歯科診療における器械・材料	基本的な器械・材料の取り扱い、衛生材料の種類と作り方

13-15	滅菌・消毒の実際	器材別の取り扱いと実践について
16-18	共同動作 3	共同動作の応用（診療補助に関わるテクニック）
19-21	小児歯科関連実習 1	ラバーダム防湿法、予防填塞 1
22-24	小児歯科関連実習 2	ラバーダム防湿法、予防填塞 2
25-27	研究用模型の作成 1	全顎の印象採得実習
28-30	研究用模型の作成 2	全顎の印象採得実習
31-33	研究用模型の作成 3	平行模型の作製
34-36	研究用模型の作成 4	平行模型の作製
37-39	矯正歯科関連実習 1	矯正歯科における診査、検査、診断
40-42	矯正歯科関連実習 2	矯正歯科における器材の取扱い（結紮、他）
43-45	バイタルサイン	歯科診療に必要な計測、検査

評価方法

期末の筆記試験、実技試験および提出レポートまたは課題により評価する。

授業態度・意欲および授業参加度により評価する。

2 学年後期末に 2 学年履修範囲（1 単位相当）の中間試験を行う。中間試験は進級判定の対象となる。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・臨床科目関連の新歯科衛生士教本 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新「歯科医療における院内感染対策 CDC ガイドライン」 歯科における院内感染対策ガイドライン検討委員会 永末書店

科目名	口腔保健衛生基礎科学実習
ユニット名	口腔保健衛生基礎科学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・33 時間 2 学年後期・必修・12 時間 } 1 単位
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	杉本久美子、坂本裕次郎、小野寺光江、高橋英和（先端材料評価学分野）、青木和宏・田村幸彦（硬組織薬理学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第1実習室・第4実習室、歯学科実習室

学習目標

解剖・生理学、病理学、薬理学・薬剤学、生体材料学などの講義で学習した内容について、実習を通して理解を深める。

到達目標

- ・人体を構成する主要な骨、筋、神経、脈管および臓器の基本構造を観察し、説明できる。
- ・頭頸部の骨、筋、神経、脈管および臓器の構造を観察し、説明できる。
- ・人体を構成する主要な器官の病的状態を観察し、常態との違いを説明できる。
- ・歯の脱灰過程を観察し、酸とう蝕の関係を説明できる。
- ・咀嚼筋筋電図および誘発筋電図を記録し、筋収縮のしくみについて説明できる。
- ・味覚および体性感覚の感覚検査を行い、感覚のしくみについて説明できる。
- ・心筋の収縮を観察し、心臓の働きについて説明できる。
- ・歯科で用いられる生体材料の基本的な操作法を説明できる。
- ・歯科で用いられる代表的な薬物の作用を観察し、薬物の特性を説明できる。
- ・蛍光色素等の硬組織内への沈着を観察し、硬組織の成長・発育過程を説明できる。

授業計画

2 学年前期・必修・33 時間

回	授業題目	授業内容
1-4	解剖実習 1	頭頸部の骨、筋、神経、脈管の観察
5-7	解剖実習 2	臓器の構造観察
8-11	病理・組織実習	病理組織観察、歯の脱灰過程の観察

12-15	生理実習 1	血圧・脈拍数・ヘモグロビン酸素飽和度・体温の測定、肺気量の計測
16-19	生理実習 2	心機能、咀嚼筋筋電図
20-23	生理実習 3	感覚機能検査（皮膚感覚の測定、味覚閾値測定、嗅覚検査）
24-26	歯科材料実習 1	石膏の硬化反応
27-29	歯科材料実習 2	印象採得と模型の精度
30-33	歯科材料実習 3	歯科用セメント、常温重合型レジンとコンポジットレジンの硬化反応と寸法変化

2 学年後期・必修・12 時間

34-37	薬理実習 1	全身麻酔薬の作用
38-41	薬理実習 2	硬組織の薬理
42-45	薬理実習 3	鎮痛薬の薬理、局所麻酔薬の作用

評価方法

出席状況、実習態度、提出レポートで総括的評価を行う。

参考図書等

e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配付する。

留意事項

必ず白衣を着用すること。

事前に、配付される実習書を読み、関連知識を予習しておくこと。

科目名	公的扶助論
ユニット名	公的扶助論
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期（夏季集中）・選択 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	弓削俊雄
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

公的扶助・生活保護制度の意義と役割を理解し、憲法 25 条の生存権保障の精神を身につける。

到達目標

- ・公的扶助制度の意義、役割について説明できる。
- ・生活保護制度の仕組みとその運用について説明できる。
- ・福祉事務所の機能及び生活保護ケースワーカーの役割を説明できる。
- ・生活保護制度の現状を理解し、目的課題を考察できる。
- ・その他の格差社会、貧困問題を理解し、低所得対策について説明できる。

授業計画 2 学年前期（夏季集中）・選択 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	公的扶助の歴史とその役割、外国の公的扶助の歴史と概要	日本の公的扶助（広い意味での社会福祉）の歴史から、制度の社会的役割を学ぶ、外国の公的扶助の歴史・概要から比較する
4-6	貧困とは、その実態、我が国の防貧・救貧政策	貧困とは何か？救貧政策としての生活保護制度を学ぶ
7-9	生活保護制度の概要、生活保護法の基本原理	生活保護制度の社会保障制度における位置づけと制度の概要
10-12	生活保護法の運用と福祉事務所	生活保護の実施要領（保護手帳）について、生活保護の実施機関としての福祉事務所
13-15	生活保護法の 4 原則	生活保護法第 2 章・第 7 条～第 10 条について
16-18	被保護者の権利と義務、福祉事務所の実施体制	被保護者の権利と義務、福祉事務所の機能と実施体制

19-21	生活保護とケースワーク	社会福祉主事（CW）の役割、生活保護の cw 論争（ケースワークとはなにか）
22-24	生活保護基準、生活保護制度の財政・予算	実際の生活保護基準の計算、生活保護予算の特殊性等（予備費優先）
25-27	外国人の生活保護	在日外国人の生活問題と生活保護
28-30	現在の生活保護制度の現状と今後の課題	現在の制度の現状の問題点を分析し、今後の生活保護制度のあり方を考える

評価方法

期末試験で総括的評価を行う。

リアクションペーパー（随時）、出席状況および授業態度等を加味する。

参考図書等

教科書：「公的扶助論」改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 へるす出版
「社会福祉小六法」2009年度版 ミネルヴァ書房編集部編 ミネルヴァ書房

科目名	児童福祉論 I
ユニット名	児童福祉論 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	田澤あけみ（立正大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

- ・現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解するとともに、現代社会における児童福祉の社会的背景、理念と意義について理解する。
- ・社会福祉士に必要な児童福祉の特質への理解を深める。

到達目標

- ・現代社会における児童の成長・発達と生活実態について説明できる。
- ・ライフサイクルにおける児童期の位置づけ・とらえ方を説明できる。
- ・近代・現代社会における子どもの権利および子どもを巡る問題について説明できる。
- ・現代社会における児童福祉の理念と意義について説明できる。
- ・児童福祉に関する法とサービス体系について説明できる。
- ・児童のための地域・住環境整備と相談援助活動について説明できる。
- ・近代・現代社会における国家・家族・児童の関連について説明できる。
- ・児童福祉の歴史、児童福祉の仕組み、問題発生機の機序について説明できる。
- ・児童福祉サービスの種類やあり方について説明できる。
- ・少年非行や養護について説明できる。
- ・母子保健、保育政策など発達期の児童福祉について説明できる。
- ・子ども虐待の問題とその防止の取り組みについて概説できる。

教育計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	オリエンテーション	児童福祉論のガイダンス
2	児童の権利	児童観と児童の権利
3	児童福祉の概念	児童福祉概念の特質

4	児童を取り巻く環境	児童を取り巻く環境と現代的問題
5	家族と児童	現代家族と児童の暮らし
6	児童福祉の対象	児童福祉の対象
7	児童福祉の歴史と児童福祉政策 1	救貧法下の児童
8	児童福祉の歴史と児童福祉政策 2	児童救済から児童保護へ
9	児童福祉の歴史と児童福祉政策 3	福祉国家と児童福祉
10	児童福祉の歴史と児童福祉政策 4	保護型から自立型児童福祉政策の導入
11, 12	日本における児童福祉制度・政策	日本における児童福祉制度・政策の構造
13, 14	社会保障制度	児童福祉と社会保障制度
15	まとめ	まとめ

評価方法

提出レポート、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・教科書：「社会福祉小六法」2009年度版 ミネルヴァ書房編集部編 ミネルヴァ書房
- ・「新しい児童福祉」古川孝順 田澤あけみ編 有斐閣ブックス

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	児童福祉論Ⅱ
ユニット名	児童福祉論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・選択・15 時間 放送大学の科目「少子化時代の児童福祉」30 時間の選択履修と合わせて単位認定（3 単位）を行う
科目・ユニット責任者	坪井真、杉本久美子
授業担当者	田澤あけみ（立正大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解するとともに、現代社会における児童福祉の社会的背景、理念と意義について理解する。
- ・社会福祉士に必要な児童福祉の特質への理解を深める。

到達目標

- ・現代社会における児童の成長・発達と生活実態について説明できる。
- ・ライフサイクルにおける児童期の位置づけ・とらえ方を説明できる。
- ・近代・現代社会における子どもの権利および子どもを巡る問題について説明できる。
- ・現代社会における児童福祉の理念と意義について説明できる。
- ・児童福祉に関する法とサービス体系について説明できる。
- ・児童のための地域・住環境整備と相談援助活動について説明できる。
- ・児童福祉および関連分野の専門職およびその連携のあり方について説明できる。
- ・近代・現代社会における国家・家族・児童の関連について説明できる。
- ・児童福祉の歴史、児童福祉の仕組み、問題発生の際について説明できる。
- ・児童福祉サービスの種類やあり方について説明できる。
- ・少年非行や養護について説明できる。
- ・母子保健、保育政策など発達期の児童福祉について説明できる。
- ・子ども虐待の問題とその防止の取り組みについて説明できる。
- ・国際児童福祉の動向について概説できる。

授業計画 2 学年前期・選択・15 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	児童福祉専門行政機関	児童福祉専門行政機関の役割と機関間相互連携のあり方
4	児童福祉施設とサービス	児童福祉施設の特質とサービス展開の動向
5	少子化問題	少子化と子育て支援
6	児童の社会的支援	要養護問題と児童の社会的支援
7, 8	児童の発達と保健	児童の発達と保健：ノーマライゼーションから QOL へ
9, 10	里親制度	里親制度と養子縁組
11, 12	少年非行問題	少年非行問題と児童福祉サービス
13	母子保健	母子保健と児童福祉
14	児童虐待問題	児童虐待問題とその防止への取り組み
15	まとめ	まとめ

評価方法

提出レポート、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・教科書：「社会福祉小六法」2009 年度版 ミネルヴァ書房編集部編 ミネルヴァ書房
- ・「新しい児童福祉」古川孝順 田澤あけみ編 有斐閣ブックス

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

放送大学シラバスより

科目名	少子化時代の児童福祉
開講時期・単位・時間数	放送大学ホームページ番組案内年間放送表参照・選択・30 時間
主任講師	松原康雄（明治学院大学）
授業担当者	松原康雄（明治学院大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

講義概要

2005 年日本は人口減少を経験することになった。この大きな原因は述べるまでもなく出生数の減少である。少子化が進行する現代社会における児童及び家族の状況と、子ども・子育てに関する社会的支援について学ぶことが本講義の目的である。子ども・子育てに関する社会的支援は、教育、保健医療など多分野からなされる必要があるが、本講義では社会福祉分野における社会的支援に焦点を当てる。

授業の目標

子どもや家族の状況とニーズを把握することが基礎となる。これに対する社会的施策、特に児童福祉分野の諸法律、制度を理解することに加えて、児童福祉分野における現場実践についても一定の理解を得ることを目標とする。子どもの生活や育ちを支援することは、子どもの養育者への支援も視野に入れることになる。今後の課題と展望についても学生が自ら検討することができる力を養うことを望みたい。

授業予定

回	授業題目	授業内容
1	児童福祉の視座	子どもや家族、養育者に対する社会的支援の必要性和、家族に対する社会的介入がどこまで可能かというとのバランスについて確認し、児童福祉施策の意義を検討する。さらに、社会福祉施策全体の動向を踏まえつつ、児童福祉施策を概観する。
2	現代の養育環境	出生数や出生率などを手がかりに、わが国の少子化状況を具体的に確認する。また、子どもや子育て中の親の状況、家族をめぐる地域社会の状況について学び、社会的支援に関するニーズを確認する。養育は、家族だけでは担いきれないことから、養育環境とは地域社会や子育て支援を実施する社会資源の状況にも連動する。

3	子どもの権利	権利主体としての子どもについて、子どもの権利条約に基づきながら学ぶ。子どもの権利条約は国連で採択され、日本も含めて各国が批准している。子どもの意見表明権、最善の利益の確保などが、実際の施策や実践の場面で実現されていくことが必要である。
4	児童福祉法と関連法制	児童福祉法、母子及び寡婦福祉法をはじめとして、児童と家族に関する法律について概観する。法上の「児童」に関する規定はかならずしも統一されていないが、子どもの権利を擁護するという点では共通である。
5	児童福祉の行財政	児童福祉分野の行政、財政システムについて概観する。行財政改革の動向は児童福祉分野にとっても無縁ではない。また、様々な実践は、行財政という背景が存在するからこそ展開できる。予算状況や、地方自治体の役割関係などについても学ぶことになる。
6	児童福祉の実施機関、施設	児童相談所、各種児童福祉施設などについて、その機能と役割を学ぶ。児童相談所は、措置権を有した児童福祉の第一線機関であり、その機能と役割を理解することは重要である。児童福祉施設には、入所、通所、利用型施設が存在する。ここでは、それぞれの施設概要について学ぶ。
7	地域における子どもの育ちと子育て支援	地域における子どもの育ちを支える児童館の役割や、子育て支援の意義と実態について学ぶ。児童館は、利用型の児童福祉施設である。また最近では乳幼児とその養育者への支援にもかかわっている。乳幼児とその養育者の支援、すなわち子育て支援は多様であり、この点についての学習も含まれる。
8	保育	保育ニーズとそれへの対応、保育所の現状と課題を学ぶ。保育は、養育者の就労にともなう子育ての補完とともに、子どもの成長にとっても大きな役割を果たしている。多様な保育ニーズにどのように対応するのか、幼稚園や「総合施設」との関係についても学ぶ。
9	児童虐待への取組	児童虐待の状況と予防、対応、アフターケアについて学ぶ。児童虐待の把握は年々増加の一途をたどっている。死にも至る可能性があり、子どもの成長発達に重大な影響を及ぼす権利侵害である虐待に関する理解は予防、対応などにとって欠かすことはできない

10	非行問題とその対応	非行問題について、児童自立支援施設の状況や少年司法との関連を学ぶ。少年犯罪への司法的対応と対比させながら、児童福祉分野での対応の特徴やあり方を考えていく。非行という問題を子ども個々の責任に帰してしまうだけではなく、社会環境との関連で理解することも重要である。
11	障害児とその家族への支援	障害児の状況、在宅・施設での支援を学ぶ。障害を有することが、社会的生活の障害にならないような施策や社会環境が整備されつつある。差別を無くすことだけではなく、ともに生きる「共生社会」実現という観点から、諸施策を点検していく。
12	ひとり親家庭への支援	ひとり親の状況と、福祉施策の構成・課題を学ぶ。ひとり親の経済状況、子育てに関する悩みなどを理解するとともに、子育て支援全般を基盤としながらもひとり親固有のニーズに対応する諸施策の現状を学ぶとともに、児童福祉施設である母子生活支援施設の現況についても学ぶ。
13	児童や家庭支援の方法	児童家庭福祉実践の体系化とその理論について学ぶ。実践にはさまざまな手法（レパートリー）がある。個別的な対応からグループへの対応など、これまで実践を通じて体系化されてきたソーシャルワークを中心に、その原則や展開方法を学ぶ。
14	児童福祉の担い手	児童福祉サービスの担い手について、専門職や地域住民の役割を学ぶ。児童相談所で働く児童福祉司、施設で働く児童指導員や保育士などに加えて、地域には児童委員や主任児童委員という地域住民でありながら、厚生労働大臣の委嘱を受けて活動する人々も存在することを学習する。
15	少子化時代の児童福祉の課題と展望	少子化時代にあって、豊かな生育環境と養育環境を児童福祉サービスはいかに提供できるか、社会的施策の動向を踏まえてそれを展望するとともに、今後の課題についても明らかにし、さらなる学習についての方向性を示す。

評価方法

後期単位認定試験：平成 22 年 1 月下旬実施予定

東京文京学習センター（東京都文京区大塚 3-29-1 筑波大学東京キャンパス内）にて受験

科目名	老人福祉論Ⅰ
ユニット名	老人福祉論Ⅰ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	柳沢志津子（東洋学園大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

近年、急速な少子高齢化の進行により、介護問題は社会全体で取り組むべき緊急課題の一つである。本講義では、福祉ニーズを抱えやすい集団の一つである高齢者に注目する。現代社会において高齢者自身やその家族が抱えている諸問題と福祉ニーズを理解し、介護を支える社会制度と保健福祉医療サービスの内容、介護サービス提供の現状を概観する。

到達目標

- ・ 高齢者の身体的特性、精神的・心理的特性、認知症について説明できる。
- ・ 高齢者を取り巻く社会環境と生活実態を把握する。
- ・ 高齢者や家族が抱える福祉ニーズについて説明できる。
- ・ 介護保険制度の設立背景と概要を説明できる。
- ・ 介護サービス供給体制を説明できる。

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	高齢者の理解	身体的特性
2	高齢者の理解	精神・心理的特性
3	高齢者の理解	いきがい、社会参加、エイジズム
4	高齢者の理解	認知症
5	高齢者を取り巻く社会環境	データからみる少子高齢化社会
6	高齢者を取り巻く社会環境	家族・地域社会の変容
7	高齢者の生活実態	ビデオ「忍びよる“認知介護”～高齢化進む都市でいま～」
8	高齢者福祉の視点	ライフサイクルと高齢者福祉

9	高齢者福祉の視点	高齢者の福祉ニーズ
10	高齢者福祉政策の展開	高齢者福祉政策の категория 変遷
11	介護保険制度	介護保険制度の設立背景
12	介護保険制度	介護保険制度のポイント
13	介護サービス供給体制	地域包括支援センター
14	介護サービス供給体制	福祉多元主義と福祉専門職
15	まとめ	ミニテスト

評価方法

出席状況と授業態度（20%）、授業時に作成するレポート（20%）、ミニテスト（60%）で、総合的に評価する。

参考図書等

- ・「高齢者に対する支援と介護保険制度—高齢者福祉論」川廷宗之・高橋信幸・和気純子編著
中央法規
- ・「老人福祉論 社会福祉士養成テキストブック」市川一宏・牧里每治編著 ミネルヴァ書房
- ・「厚生 の 指標 国民 の 福祉 の 動向 各年度版」厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法 各年度版」ミネルヴァ書房
- ・そのほか、必要に応じて講義の中で提示する。

留意事項

学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

科目名	老人福祉論Ⅱ
ユニット名	老人福祉論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・選択・15 時間 放送大学「高齢期を支える社会福祉システム」30 時間の選択履修と合わせて単位認定（3 単位）を行う
責任者	坪井真
授業担当者	柳沢志津子（東洋学園大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

近年、急速な少子高齢化の進行により、介護問題は社会全体で取り組むべき緊急課題の一つである。本講義では、社会福祉が扱う社会問題のうち、特に介護問題に焦点を当てる。老人福祉論Ⅰの講義内容（現代社会における高齢者自身とその家族の福祉ニーズ）の学習を踏まえ、介護保険制度とその他の高齢期を支える社会制度について理解を深める。

到達目標

- ・ 現代社会における高齢者福祉の理念と意義を説明できる。
- ・ 介護保険制度について説明できる。
- ・ 介護保険制度における役割関係を説明できる。
- ・ 高齢者福祉・介護に関する法制度の概要について説明できる。
- ・ 高齢者の権利擁護について説明できる。

授業計画 2 学年後期・選択・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	要介護高齢者の理解	要介護高齢者の生活実態
2	介護保険制度	施設サービス
3	介護保険制度	居宅サービス
4	介護保険制度	要介護認定の仕組みとプロセス
5	介護保険制度における公私役割	国、地方自治体、サービス事業者の役割 福祉多元主義と公私関係
6	介護保険制度における	介護支援専門員、社会福祉士、保健師の役割と業務内容

	専門職の役割	
7	介護保険制度における 専門職の役割	介護職員の役割と業務内容 ビデオ「認知症介護」
8	介護保険制度における ネットワーキング	保健・医療・福祉の連携 専門職と住民の連携
9	地域包括支援センターの役割 と実際	地域包括支援センターの実践活動 ビデオ「お年寄りを虐待から守る」
10	老人福祉法	老人福祉法における措置
11	高齢者虐待防止法	虐待の定義、予防と対応
12	高齢者の権利擁護	成年後見制度 日常生活自立支援事業
13	高齢者の移動	高齢者の移動に関する法律 ユニバーサルデザインの実際
14	高齢者の居住	高齢者の居住に関する法律 高齢期の居住環境の実際
15	まとめ	超高齢社会にむけて

評価方法

出席状況と授業態度（20%）、授業時に作成するレポート（20%）、テスト（60%）で総合的に評価する。

参考図書等

- ・「高齢者に対する支援と介護保険制度—高齢者福祉論」川廷宗之・高橋信幸・和気純子編著、中央法規
- ・「老人福祉論 社会福祉士養成テキストブック」市川一宏・牧里毎治編著 ミネルヴァ書房
- ・「厚生の指標 国民の福祉の動向 各年度版」厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法 各年度版」ミネルヴァ書房
- ・そのほか、必要に応じて講義の中で提示する。

留意事項

学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

放送大学シラバスより

科目名	高齢期を支える社会福祉システム
開講時期・単位・時間数	放送大学ホームページ放送案内年間放送表参照・選択・30 時間
主任講師	栃本一三郎（上智大学教授）、浅野仁（関西福祉科学大学教授）
授業担当者	栃本一三郎（上智大学教授）、浅野仁（関西福祉科学大学教授）、黒田研二（大阪府立大学教授）、藤田綾子（大阪大学大学院教授）、藤井美和（関西学院大学准教授）、駒村康平（東洋大学准教授）、川渕孝一（東京医科歯科大学大学院教授）、園田真理子（明治大学准教授）

講義概要

人口減少社会における高齢期を支える社会福祉システムを高齢者、サービス、政策のそれぞれレベルから検討していく。特にわが国は国民の 1/3 が高齢者となる一方、人口そのものが激減することになる。そのような社会にあって高齢期を支える社会全体のシステムは従来の常識や施策の発想からは生まれない。すでに人口減少社会となり、かつそのようななかで高齢者がつつがなく生活する仕組みを先行して構築しているヨーロッパと対比しながら、広い視点に立ってわが国のこれからの福祉システムのあり方を学ぶ。

授業の目標

これからの日本社会の正確な未来像を描くとともに、高齢期を支える仕組みとして日本に欠けたものを諸外国の例から知るとともに、一方人口減少社会においてわが国に適した地域に高齢期を支える社会福祉システムを地域住民が自ら考え、作るあげるための知識、方法を学ぶ。又、高齢社会を支えるための継続教育の重要性についても理解する。

履修上の留意点

通信指導課題を提出しない場合は、単位認定試験を受験できないので、必ず提出すること。

授業計画 後期・選択・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	人口減少社会のなかでの高齢社会の展望	すでに 20 世紀末に人口減少社会に転じたヨーロッパと対比しながら、世界に類を見ない大規模・急激な人口減少に直面するなかで迎える高齢社会の特殊性を明らかにする。3000 万高齢者が定常的に数十年に渡って存在する社会のイメージとそのなかでいかなる社会システム・経済システムが求められるかを明らかにする。そして、そのシステムが構築されないと将来衰

		退する社会となろうことを指摘する
2	高齢者に関する知識と誤解	高齢期における社会福祉システムの学習に先立って、その対象である高齢者に関する知識とイメージについて自己評価する。ここでの要点は、高齢者に対し誤解に基づく知識が多く、そのために否定的イメージをもつ傾向があることを解説する。さらに、高齢者自身の暦年齢よりも若い認知年齢についても紹介する。
3	高齢期の身体機能と介護予防	加齢に伴う心身機能の低下は老化と呼ばれるが、この機能低下をいかに先送りするかが「介護予防」として、現在重要な政策課題となっている。介護予防のためには、人々が老化の過程、特に要介護状態をもたらすことの多い病的老化や生活習慣病についての理解を深め、自ら介護予防の活動に参加することが重要である。要介護状態をもたらす脳血管障害、骨折、廃用症候群などについて学ぶと共に、介護予防の条件となる運動や食事の意義、人々が参加しやすい地域活動としての介護予防のあり方を考える。
4	心理・精神的機能と加齢の関係	人の行動が加齢によってどのような影響を受けるかは、感覚・知覚、知能、記憶、学習能力、パーソナリティなどの心理的機能の変化とその人を囲む社会環境によって異なってくる。そこで、本講義では高齢期の行動特性を心理的機能の変化と社会的な関係から概観し、高齢期の社会適応のあり方を探る。
5	高齢期のQOLとスピリチュアリティ	高齢期は、これまでの人生を振り返り、「これからどう生きるのか」、また「どのように人生を統合していくか」という課題に向かい合う時期である。高齢期のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）は、どのような内容か。まず、QOL の概念を整理した上で、QOL からみた高齢期の課題を明らかにし、さらに QOL 概念を構成するスピリチュアリティの重要性を取り上げる。
6	高齢者と世代間扶養	高齢者と子・孫世代との関係、さらに高齢者とその親世代との関係といった世代間関係は、経済的・身体的な扶養関係とともに世代間交流としても捉えていく必要がある。従来の私的扶養関係と社会保障などによる社会的扶養関係は家族を軸に、世代間交流は地域を軸に検討し、ヨーロッパにおいても日本においても今後とも高齢期を支える重要な社会システムであることを論じる。
7	高齢社会と高齢社会政	今後の高齢社会に対する施策は従来のような狭義の老人福祉

	策	や既存社会保障の枠組みを超えた政策的視点が求められる。本講で、あらためて高齢期を支える社会システム・生産労働システム・社会福祉システム構築のための高齢社会政策について論じ、6回までを総括するとともに8回以降の個別政策の橋渡しをおこなう
8	高齢期を支える所得保障システム	年金が今後も公的な所得保障の中心として位置づけられるが、注目しなければならないのが最適生活を保障する全体的なシステムである。それには生活保護や就労なども含まれる。EUなどにおけるさまざまな制度、サービスを用いた最低生活保障の姿を明らかにするとともに、それらを基礎とした生活のあり方を展望する
9	高齢期を支える医療と地域における保健医療システム	高齢者医療保険制度が新たに創設される。このシステムが介護保険制度とあわせて地域で高齢者が健康に過ごすための大きな柱となる。そこで行われるサービス、福祉との連携などについて論じるとともに、広くわが国の医療保険制度の課題と医療技術の先端についても紹介する
10	高齢期の居住支援	単に、高齢者の住宅について論じるだけではなく、高齢者の取り巻く空間設計がどのようなものとして形作られているのか、持続可能な適正規模の自治体が既に形成されているヨーロッパと比較しながら、高齢者がつつがなく生活できる空間のあり方、生活基盤について解説する。その際、高齢期にあっても住居地を大きく変える動きが出てきている。これらについても紹介する
11	高齢期を支援する社会福祉サービス（1）	まず、国が提供している在宅福祉サービス（要援護高齢者対策・社会活動促進対策）と地域において実施されている在宅福祉サービスについて概観し、次に高齢者が一方的にサービスを受ける対象としてではなく、地域で生活する市民として社会参加をとらえて社会貢献する重要性について指摘する。
12	高齢期を支援する社会福祉サービス（2）	施設福祉対策は入所施設と利用施設に大別されるが、従来の大規模型入所施設は介護保険制度のもとで、ユニットケアの導入や地域密着型サービスへの転換が図られている。最新の施設サービスのケアの取組みや地域に根ざした施設サービスの今後の方向について考察する。
13	介護保険制度のあり方	ドイツ、オランダとともに介護保険制度による高齢者介護のシステムを構築したわが国の介護保険制度について、各国のその

		後の法律改正および現場におけるサービスの質の維持のための新しい試みなど改正以降のサービスの変化、現場での対応、新しい取り組み、課題などについて検討する。
14	高齢者福祉サービスの提供組織と専門人材	高齢期を支える保健、医療、福祉、介護分野に従事する専門人材の現状と課題について解説する。介護保険制度の導入によって、サービスの質の向上が最重要課題となっていることから、より良いサービスを提供する専門職の養成に向けて、学校教育や現任訓練教育のあり方についても検討する。
15	これからの社会福祉システム	最終回の本講義では、福祉先進国の社会福祉システムを参考にしながら、高齢期を地域で安心して、生き生きと生活できる条件について、社会福祉政策の立場から論じる。具体的には、少子高齢社会の課題、社会福祉システムにおける国と地方自治体の関係、公私の役割分担、地域社会における高齢者の役割などについて考える

評価方法

後期単位認定試験：平成 22 年 1 月下旬に実施予定

東京文京学習センター（東京都文京区大塚 3-29-1 筑波大学東京キャンパス内）にて受験

科目名	社会福祉援助技術論
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期（夏季集中）・選択・15 時間 2 学年後期・選択・55 時間 単位認定（8 単位）は3 学年前期（50 時間）終了時に行う
科目責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・現代における社会福祉の果たす役割と重要性を認識するため、社会福祉援助技術の歴史や特徴を理解する。
- ・相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につけるため、社会福祉援助技術の内容・方法とプロセスを理解する。
- ・専門職としての科学的探究心と問題解決能力を身につけるため、社会福祉援助技術に関する実践上の課題を理解する。
- ・保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力の基盤を身につけるため、社会福祉援助と口腔保健における実践の関連性を理解する。

到達目標

- ・社会福祉援助技術の歴史や特徴を説明することができる。
- ・社会福祉援助技術の内容・方法とプロセスを説明することができる。
- ・社会福祉援助技術に関する実践上の課題について、自らの意見を述べるすることができる。
- ・社会福祉援助と口腔保健における実践の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。

授業計画

2 学年前期（夏季集中）・選択・15 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	社会福祉援助とは	人々の日常生活と社会福祉援助、社会福祉援助の実践領域、社会福祉援助の専門職、社会福祉援助と関連分野
4-6	社会福祉援助技術の概要	社会福祉援助技術の定義・倫理、歴史、理論
7-9	社会福祉援助の対象	人々の生活課題と社会福祉援助、関連分野との連携

10-12	実践モデルとアプローチ 1	社会福祉援助の実践モデルとアプローチ 1
13-15	実践モデルとアプローチ 2	社会福祉援助の実践モデルとアプローチ 2

2 学年後期・選択・55 時間

回	授業題目	授業内容
16-19	社会福祉援助の過程 1	展開過程、受理面接（インテーク）
20-23	社会福祉援助の過程 2	事前評価（アセスメント）、支援計画（プランニング）
24-27	社会福祉援助の過程 3	支援の実施、経過観察（モニタリング）、事後評価
28-31	社会福祉援助の過程 4	支援の終結、改善（即時対応、計画の見直し）
32-35	社会福祉援助技術 1	個別援助技術（ケースワーク）、事例検討
36-39	社会福祉援助技術 2	集団援助技術（グループワーク）、事例検討
40-43	社会福祉援助技術 3	地域援助技術（コミュニティワーク）、事例検討
44-47	社会福祉援助技術 4	アウトリーチ、スーパービジョン、事例検討
48-51	社会福祉援助技術 5	その他の援助技術、事例検討
52-55	社会資源の活用と開発 1	社会福祉援助で活用・開発する社会資源、事例検討
56-59	社会資源の活用と開発 2	社会福祉援助で活用・開発する社会資源、事例検討
60-63	事例分析 1	事例分析の意義・目的・方法、事例分析の実際
64-67	事例分析 2	事例分析の実際
68-70	授業の振り返りとまとめ	生活課題を解決する社会福祉援助技術、授業内レポート

評価方法

①フィードバック・シート（授業の理解度の確認、質問を含む）、②グループディスカッション（事例検討など）、③授業内レポート、④定期試験の総合点で評価する。

参考図書等

- ・教科書：「相談援助の理論と方法Ⅰ（社会福祉士シリーズ7）」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

第 3 学年 授業科目

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	再建系歯科医学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	石川雅章・下山和弘
授業担当者	下山和弘、塩田真（インプラント・口腔再生医学分野）、 濱野英也（非常勤講師）、谷口尚（顎顔面補綴学分野）、上野俊明 （スポーツ医歯学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

歯科補綴治療と補綴装置の特徴を理解するとともに、補綴装置使用における口腔の健康管理の知識を修得する。

到達目標

- ・ 歯科補綴治療（インプラントを含む）の種類・特徴を説明でき、製作過程を概説できる。
- ・ 補綴装置使用における口腔の健康管理法を説明できる。

授業計画 3 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	歯科補綴治療の基礎 1	歯科補綴治療の意義と目的
2	歯科補綴治療の基礎 2	歯科補綴装置の種類
3	歯科補綴治療の基礎 3	顎口腔系の形態・機能、咬合器
4	歯科補綴治療の基礎 4	歯の喪失に伴う変化
5	床義歯の構成と特徴 1	全部床義歯の特徴、構成要素
6	床義歯の構成と特徴 2	部分床義歯の特徴、構成要素
7	冠橋義歯の種類と特徴 1	冠橋義歯の特徴、構成要素
8	冠橋義歯の種類と特徴 2	冠橋義歯の構成要素の特徴
9	歯科補綴装置の製作過程 1	印象採得
10	歯科補綴装置の製作過程 2	咬合採得
11	歯科補綴装置の取扱い 1	床義歯の取扱い

12	歯科補綴装置の取扱い 2	冠橋義歯の取扱い
13	歯科補綴装置の管理と補修	床義歯の管理、冠橋義歯の管理、補綴装置の修理
14	歯科補綴治療の特徴	歯科補綴診療の基本方針
15	インプラントの基礎と臨床 1	インプラントの歴史、インプラントの種類
16	インプラントの基礎と臨床 2	インプラントの手技、インプラントの管理
17	インプラントの臨床と製作過程 1	インプラントの埋入法
18	インプラントの臨床と製作過程 2	インプラントの補綴法
19	金属アレルギー 1	歯科における金属アレルギーの現状
20	金属アレルギー 2	金属アレルギーの臨床的対応と予防
21	顎顔面補綴学	顎顔面補綴学が対応する症例
22	顎顔面補綴治療の実例 1	補綴症例、顎顔面補綴治療における口腔衛生指導
23	顎顔面補綴治療の実例 2	顎顔面補綴治療に求められる心理ケア
24	顎顔面補綴治療の実例 3	顎顔面補綴治療におけるチーム医療
25	スポーツ歯学の基礎と臨床 1	スポーツ選手の歯の健康管理
26	スポーツ歯学の基礎と臨床 2	スポーツ外傷と安全対策
27	歯科補綴臨床の実例 1	歯科補綴臨床の実例（見学を含む）
28	歯科補綴臨床の実例 2	歯科補綴臨床の実例（見学を含む）
29	健康を考える歯科補綴臨床 1	歯科補綴臨床から健康を考える
30	健康を考える歯科補綴臨床 2	歯科補綴臨床から健康を考える

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。提出レポート、期末の客観試験、論述試験テストで総括的評価を行う。出席状況および授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「第 2 版 歯科補綴学専門用語集」 日本補綴歯科学会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「全部床義歯補綴学」 林都志夫編 医歯薬出版
- ・「小部分床義歯学」 藍 稔著 学建書院
- ・「スタンダード部分床義歯補綴学」 藍 稔編 学建書院
- ・「クランブリッジ補綴学」 石橋寛二、川添堯彬ほか編 医歯薬出版
- ・「よくわかる口腔インプラント学」 赤川安正、松浦正朗ほか編 医歯薬出版

- ・「G Pのための金属アレルギー臨床」 中山秀夫・松村光明編 デンタルダイヤモンド社
- ・「声と言葉のしくみ」 亀田和夫 口腔保健協会
- ・「口唇裂口蓋裂の補綴治療」 大山喬史編 医歯薬出版
- ・「顎顔面補綴の臨床」 大山喬史・谷口 尚編 医学情報社
- ・「言語聴覚士に必要な歯科の知識」 谷口 尚・片倉伸郎・大野友久・隅田由香著 インテルナ出版
- ・「スポーツマウスガードハンドブック」 大山喬史・上野俊明編 医学情報社
- ・「スポーツ歯学の臨床」 大山喬史編 医学情報社
- ・「スポーツ歯科臨床マニュアル」 日本スポーツ歯科医学会編 医学情報社
- ・「口と歯の事典」 高戸 毅・天笠光雄ほか編 朝倉書店

留意事項

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	外科系歯科医学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修2単位・30 時間
科目・ユニット責任者	石川雅章・吉増秀實
授業担当者	吉増秀實、木野孔司（顎関節治療部）、神野成治（麻酔・生体管理学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

口腔外科臨床のチーム医療を行うにあたって必要な基礎的知識を修得する。

到達目標

- ・顎顔面口腔に症状を現す先天異常と発育異常を列挙し、治療法を説明できる。
- ・顎口腔領域の炎症の診断および治療法を説明できる。
- ・顎口腔領域の損傷の診断および治療法を説明できる。
- ・顎口腔領域の嚢胞の診断および治療法を説明できる。
- ・口腔粘膜疾患の診断および治療法を説明できる。
- ・唾液腺疾患の病因と病態について説明できる。
- ・顎口腔領域の腫瘍の診断および治療法を説明できる。
- ・顎口腔領域の神経疾患の診断および治療法を説明できる。
- ・顎口腔領域の血液疾患、出血性素因について説明できる。
- ・顎関節疾患の病因、病態、診断および治療法を説明できる。
- ・抜歯・小手術について説明できる。
- ・麻酔法を説明できる。
- ・口腔外科のチーム医療について説明できる。
- ・口腔の健康維持のために、治療後のセルフケアについて説明ができる。

授業計画 3 学年前期・必修2単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	口腔外科の概要	口腔外科とは、口腔外科疾患の種類、口腔外科診断法
2	先天異常	口唇口蓋裂の診断、治療

		その他の顔面奇形
3	顎発育異常	顎変形症の診断と治療
4	外傷	軟組織損傷、顎骨骨折、歯の外傷
5	炎症	歯性炎症、炎症の波及、炎症の診断と治療
6	嚢胞	歯源性嚢胞、非歯源性嚢胞、軟組織嚢胞
7	良性腫瘍・腫瘍類似疾患	歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍、良性腫瘍の診断・治療
8	悪性腫瘍	悪性腫瘍の診断・治療
9	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患の診断と治療
10	口腔顎顔面領域の神経疾患、唾液線疾患	神経疾患の診断と治療
11	血液疾患、出血性素因	血液疾患の診断と治療
12	代謝性疾患の口腔症状、症候群	代謝性疾患の口腔症状、口腔顎顔面領域に関連した症候群および疾患
13	顎関節疾患（顎関節症）	顎関節症の診断と治療
14	顎関節疾患（顎関節症以外）	顎関節症以外の顎関節疾患の種類、診断と治療
15	口腔外科診療総論	診察法、手術の適否、消毒滅菌（器械材料の消毒、手術室の消毒、手指の消毒、手術野の消毒）
16	口腔外科診療各論（抜歯）	抜歯の適応、必要器材、術前の注意事項、抜歯法、抜歯の実際と介助、診療補助の要点、抜歯創の治療過程、術後処置偶発症と処置等
17	口腔外科小手術	種類、適応、方法、必要器材、術前の注意事項、術後管理、術後の説明、診療補助の要点等
18	口腔外科手術患者の口腔ケア	口腔癌・口唇口蓋裂・顎変形症・顎骨骨折患者の治療法、処置の流れ、治療後のセルフケア
19	歯科麻酔学概論	歯科麻酔学概論
20	全身状態評価・バイタルサイン	全身状態評価・バイタルサイン
21, 22	全身麻酔法	全身麻酔法
23, 24	局所麻酔法	局所麻酔法、局所麻酔薬の種類
25, 26	精神鎮静法ほか	精神鎮静法ほか
27, 28	ペインクリニック	ペインクリニックとは、顎顔面口腔領域の疼痛性

		疾患の種類、診断と治療
29, 30	総括	まとめ

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「医療従事者のための口腔外科学」 古森孝秀 編著 永末書店
- ・「臨床病態学 3」北村 聖 総編集 スーヴェルヒロカワ
- ・「医療従事者のためのカラーアトラス：口腔外科疾患」 道健一編 永末書店
- ・「最新口腔外科学 第4版(総論, 各論)」 塩田重利、富田喜内監修 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布および e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	発達育成系・障害者歯科医学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・15 時間 3 学年前期・必修・15 時間 単位認定（2 単位）は3 学年前期終了時に行う
科目・ユニット責任者	石川雅章
授業担当者	石川雅章、田中光郎（岩手医科大学）、篠塚修（障害者歯科学分野）、足達淑子（歯科衛生士）、小川仲子（小川歯科医院）、五十川伸崇（亀田クリニック）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。障害児・者に対して、口腔保健の立場から支援する際に必要な知識、技術を修得する。

到達目標

- ・障害とは何かを理解し、種々の障害の定義を説明できる。
- ・障害児・者口腔内の特徴と歯科疾患罹患状況を説明できる。
- ・発達期口腔保健の最近の考え方を説明できる。
- ・障害児・者の歯科治療時における行動への対応法を概説できる。
- ・障害児・者の歯科治療におけるチーム医療を説明できる。
- ・障害児・者の一次、二次、三次歯科医療体制を説明できる。
- ・広汎性発達障害児の療育と歯科的対応が概説できる。
- ・障害児・者の摂食指導が概説できる。
- ・発達期摂食障害児の摂食指導が概説できる。

授業計画 3 学年前期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	障害児・者に対する口腔保健指導の実際	障害の程度の把握、理解力、運動機能、コミュニケーション能力の評価、障害に対応したセルフケア、ホームケアの指導
3, 4	障害と歯科医療 1	精神（発達）遅滞、脳性麻痺、広汎性発達障害の定義、

		口腔内所見、歯科疾患罹患状況、歯科診療時の注意点
5, 6	障害と歯科医療 2	てんかん、ダウン症、染色体異常、視覚障害、聴覚障害の定義、口腔内所見、歯科疾患罹患状況、歯科診療時の注意点
7, 8	障害児・者歯科診療時の行動調整、 障害児・者の一次、二次、三次歯科医療体制	行動変容法の定義と種類、強制的な行動抑制、鎮静法・全身麻酔法の適用、全身状態の把握、障害児・者の歯科医療体制の展開
9, 10	う蝕予防の最新理論	バイオフィルム形成とミュータンスレンサ球菌、母子感染に対する考え方、フッ化物の作用機序、フッ化物以外による歯質の成熟と再石灰化
11, 12	広汎性発達障害児・者に対する行動調整法と口腔保健指導、歯科治療の実際	広汎性発達障害児療育の概要、TEACHH 法、PECS 法、自閉症児への視覚的支援、広汎性発達障害児・者に対する歯科臨床例の検討
13, 14	発達期摂食障害児、障害児・者の摂食指導	摂食機能の発達と遅滞、摂食機能障害とは、摂食機能障害の評価と対応法
15	総括	試験

評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う
- ・単位認定（2 単位）は 2 学年後期（15 時間）とあわせて行う。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「障害者歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
- ・小児の口腔科学 前田隆秀、朝田芳信、田中光郎他著 学建書院
- ・食べる機能の障害 金子芳洋編 医歯薬出版
- ・子どもの摂食・嚥下障害 北住映二、尾本和彦、藤島一郎編著 永井書店

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

科目名	先端歯周病予防学
ユニット名	先端歯周病予防学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博
授業担当者	木下淳博、和泉雄一（歯周病学分野）、 小田 茂（歯周病学分野）、梅田 誠（歯周病学分野）、 長澤敏行（北海道医療大学）、竹内康雄（歯周病学分野）、 菊池重成（歯周病学分野）、片桐さやか（歯周病外来）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

歯周病予防に必要な最新の臨床知識を理解し、実践に役立つ臨床判断能力を培う。

到達目標

- ・歯周病専門医による歯周治療の実際を概説できる。
- ・歯周組織再生治療の実際を概説できる。
- ・歯周病予防と全身の関連を概説できる。
- ・歯周病における免疫反応を概説できる。
- ・最新の歯周病検査を概説できる。

授業計画 3 学年前期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	歯周病と全身	歯周病と全身の関連
3	歯周治療の実際	歯周病専門医による歯周治療の実際
4	歯周組織再生治療	歯周組織再生治療の実際
5, 6	歯周治療の実際	歯周病専門医による歯周治療の実際
7	歯周病と免疫	歯周病と免疫
8	歯周病と糖尿病	歯周病と糖尿病
9, 10	歯周治療の実際	歯周病専門医による歯周治療の実際
11	最新の歯周病検査	酵素反応、遺伝子工学的手法を用いた最新の細菌検査

12	歯周外科前の確認事項	歯周外科前の確認事項
13, 14	歯周治療の実際	歯周病専門医による歯周治療の実際
15	まとめ	まとめ

評価方法

出席状況、e-learning による履修状況（編入生）、小テスト等により総括的評価を行う。

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔疾患予防学実習
ユニット名	口腔疾患予防学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・45 時間 2 学年後期・必修・90 時間 3 学年前期・必修・45 時間 単位認定（3 単位）は 3 学年前期終了時に行う
科目責任者	近藤圭子
授業担当者	石川雅章、寺岡加代、木下淳博、遠藤圭子、近藤圭子、須永昌代、小原由紀、大塚紘未、吉田有里、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、吉田直美（千葉県立保健医療大学）、岡田昌子・田澤千鶴・山梨楠奈子・河野章江（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 実習室

学習目標

歯・口腔の状態把握および歯科予防処置の基本的技術を修得する。

到達目標

- ・う蝕予防と歯周歯科疾患予防の基礎を説明できる。
- ・歯、口腔（歯、歯肉、歯の付着物・沈着物）状態把握を説明し、実施できる。
- ・歯科予防処置実施にあたり、生体への配慮（器具の消毒・滅菌、感染予防、手指の消毒法、偶発事故の予防）ができる。
- ・歯科予防処置のうち、歯石除去、歯面清掃、SRP、う蝕予防処置、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口を実施できる。

授業計画 3 学年前期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	試験ケースの説明、SRP・研磨復習	実習の進め方、SRP 復習
4-6	機械を用いたシャープニング、SRP・研磨復習	機械を用いたシャープニング、SRP・研磨復習
7-9	ケース・シミュレーション実習 1	相互実習 シミュレーション I (1 診査, 検査など)

10-12	ケース・シミュレーション実習 2	相互実習 シミュレーションⅡ (1 診査, 検査など)
13-15	POS・業務記録 実習準備	診断ステートメント 相互実習準備
16-18	ケース・シミュレーション実習 3	相互実習 シミュレーションⅢ
19-21	ケース・シミュレーション実習 4	相互実習 シミュレーションⅣ
22-24	ケース・シミュレーション実習 5	相互実習 シミュレーションⅤ
25-27	ケース・シミュレーション実習 6	相互実習 シミュレーションⅥ
28-30	ケース・シミュレーション実習 7	相互実習 シミュレーションⅦ (評価)
31-33	ケース・シミュレーション実習 8	相互実習 シミュレーションⅧ (評価)・記録整理
34-36	資料作成など	資料のまとめ、発表の準備
37-39	校外実習	フッ化物塗布実習
40-42	ケース・シミュレーション実習 7	グループ発表
43-45	まとめ	発表後のフィードバック

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。

出欠状況、実習態度などを総括的評価に加味する

期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・Jill S. Nield-Gehrig: Fundamentals of Periodontal Instrumentation, Lippincott Williams & Wilkins, 2007.
- ・新歯科衛生士教本「歯科予防処置」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配付する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	医学一般
ユニット名	医学一般
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・30 時間 3 学年前期・必修・30 時間 単位認定（4 単位）は3 学年前期終了時に行う
科目・ユニット責任者	吉増秀實
授業担当者	長澤正之・荒木 聡（発生発達病態学分野）、井川 健・高山かおる（皮膚科学分野）、角田篤信、有泉陽介（耳鼻咽喉科学分野）、大野京子・杉田 直（眼科学分野）、泌尿器科分野教員、黒田真司（インプラント・口腔再生医学分野）、森田定雄・正岡智和（リハビリテーション部）村田希吉（救急災害医学分野）、山崎統資（障害者歯科学分野）、吉増秀實
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

口腔保健活動を行うために必要な臨床医学の各分野の知識を身につける。

到達目標

- ・主な感染症を説明できる。(2 年)
- ・主な循環器疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な呼吸器疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な消化器疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な精神疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な骨関節・結合組織疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な精神疾患を説明できる。(2 年)
- ・臓器移植を概説できる。(2 年)
- ・主な先天性疾患を説明できる。
- ・主な小児科疾患を説明できる。
- ・主な皮膚疾患を説明できる。
- ・主な耳鼻咽喉科疾患を説明できる。
- ・主な眼科疾患を説明できる。
- ・主な泌尿器科疾患を説明できる。
- ・老化に伴う主な疾患を説明できる。

- ・再生医療を概説できる。
- ・救急医療について概説できる。
- ・機能障害およびリハビリテーション医療を説明できる。
- ・有病者の歯科医療・口腔保健活動の対応法について説明できる。

授業計画 3 学年前期・必修・30 時間

回	授業題目	授業内容
1-4	小児科	小児が罹患しやすい感染症、先天性疾患等
5-8	皮膚科	アトピー性皮膚炎、皮膚がん、疥癬、老化性変化等
9-12	耳鼻咽喉科	主な耳・鼻・のどの疾患、老化に伴う変化等
13-16	眼科	主な目の疾患、老化と目等
17-20	泌尿器科	主な泌尿器科疾患、老化に伴う変化、排尿のトラブル、悪性腫瘍等
21, 22	リハビリテーション	リハビリテーション
23, 24	再生医療	再生医療とは、再生医療の口腔領域への応用
25, 26	救急災害医学	救急災害医療
27, 28	有病者に対する対応	有病者の歯科医療
29	有病者に対する対応	有病者に対する口腔保健活動
30	総括	まとめ

評価方法

随時小テストを行い、形成的評価を行う。

期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新版社会福祉士要請講座 13「医学一般」第2版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規
- ・社会福祉士養成テキストブック 16「医学一般」 黒田研二、竹内孝仁編著 ミネルヴァ書房

留意事項

事前に資料の配布および e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	保健行動科学
ユニット名	コミュニケーション論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	小野寺光江
授業担当者	小野寺光江、近藤圭子、坪井真、大塚紘未、中村千賀子（教養部）、 吉田直美（千葉県立保健医療大学）
主な授業場所	校外施設

学習目標

歯科衛生士が活動するための基盤となるコミュニケーション・カウンセリングの基本的知識・姿勢を学ぶ。

到達目標

- ・人を大切にすることとは何かを考察できる。
- ・人間観とは何かを概説できる。
- ・対人関係のあり方を考察できる。
- ・人の話を受容的に傾聴できる。
- ・人が理解できるように自分の意見を伝えることができる。

授業計画 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	オリエンテーション	オリエンテーション
3-14	グループ演習	グループ演習
15	まとめ	まとめ

評価方法

出席・参加状況ならびに、提出物などにより評価する。

留意事項

1 泊 2 日の合宿形式で、1 年生と交流を持ちながら、演習を中心に行う。

科目名	保健行動科学
ユニット名	ヘルスカウンセリング論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	小野寺光江
授業担当者	吉田直美（千葉県立保健医療大学）、渡邊麻理（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

ヘルスカウンセリングにおける基本姿勢や、クライアントの心情を理解する方法を修得し、援助的
にはたらきかける知識・技能・態度を身につける。

到達目標

- ・ヒューマンニーズと歯科衛生ケアとの関連を説明できる。
- ・保健医療におけるカウンセリングの重要性を説明できる。
- ・クライアントが好ましいライフスタイルを獲得することをめざすための援助方法について概説できる。
- ・カウンセラーの基本的態度について概説できる。
- ・健康維持増進のための行動変容について説明することができる。

授業計画 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	オリエンテーション、カウンセリング心理学概説	オリエンテーション、カウンセリング心理学概説
4, 5	コミュニケーション・カウンセリングとは	コミュニケーション・カウンセリング・ヘルスカウンセリングの定義・意義・用途
6, 7	カウンセリング基本理論と演習Ⅰ	カウンセリングアプローチ、カウンセリング演習Ⅰ
8, 9	カウンセリング基本理論と演習Ⅱ	カウンセリング演習Ⅱ
10, 11	カウンセリング基本理論と演習Ⅲ	カウンセリング演習Ⅲ
12, 13	カウンセリング基本理論と演習Ⅳ	カウンセリング演習Ⅳ
14, 15	まとめ、試験	まとめ、試験

評価方法

提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

出席・授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配布する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	臨床口腔保健衛生基礎実習
授業の形態	実習、講義、演習
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・45 時間 3 学年前期・必修・45 時間 単位認定（2 単位）は3 年前期終了時に行う
科目・ユニット責任者	下山和弘・近藤圭子
授業担当者	石川雅章、下山和弘、寺岡加代、吉増秀實、遠藤圭子、近藤圭子、小野寺光江、渡邊裕（口腔放射線医学分野）、神野成治（麻酔・生体管理学分野）、島田康史（う蝕制御学分野）、河野章江（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科第2・3 実習室、第3 講義室、歯学科実習室

学習目標

歯科臨床の場でチーム医療の実践に必要な知識・技術を理解し、基礎的な技術を身につける。

到達目標

- ・患者が安全に受診できるように、診療環境を整えることができる。
- ・患者と円滑にコミュニケーションをとれる。
- ・チーム医療に必要な技能を実践できる。
- ・直接対面行為の技能を実践できる。
- ・診療に必要な検査を行い結果の意味が判断できる。
- ・バイタルサイン（意識レベルも含む）の測定ができる。
- ・救急蘇生について説明でき、実施できる。
- ・患者が安全に受診できるように、診療環境を整えることができる
- ・診療に必要な器械・材料・薬品の適切な準備と取り扱い(滅菌消毒も含む)ができる。

授業計画 3 学年前期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	エックス線撮影 1	歯科エックス線撮影の実際（撮影補助実習）
4-6	エックス線撮影 2	歯科エックス線撮影の実際（撮影補助実習）
7-9	歯科診療の補助（各論）1	歯科診療の流れにそった補助の実際(演習)
10-12	歯科診療の補助（各論）2	歯科診療の流れにそった補助の実際(演習)

13-15	暫間被覆冠の作製 1	暫間被覆冠の作製と実際
16-18	暫間被覆冠の作製 2	暫間被覆冠の作製と実際
19-21	保存処置関連実習 1	器材の取扱いの実際
22-24	保存処置関連実習 2	器材の取扱いの実際
25-27	精密印象採得の実際	相互実習
28-30	小児歯科関連実習	相互実習
31-33	歯科診療の補助（各論）3	歯科診療の流れにそった補助の実際（演習）
34-36	歯科診療の補助（各論）4	歯科保険の実際 1
37-39	歯科診療の補助（各論）5	歯科保険の実際 2
40-42	口腔外科・歯科麻酔関連実習	浸潤麻酔・静脈確保
43-45	救急蘇生法実習	救急蘇生の実際

評価方法

中間（2 年次）および期末の筆記試験、実技試験および提出レポートまたは課題により評価する。
授業態度・意欲および授業参加度により評価する。

参考図書等

- ・臨床科目関連の新歯科衛生士教本 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・臨床関連科目 講義資料等

科目名	顎口腔機能訓練法
ユニット名	顎口腔機能訓練法
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	石川雅章
講義担当者	石川雅章、佐々木洋（UTAKA DENTAL OFFICE）、大塚義顕（千葉東病院）、落合聡（聖マリア病院）、壬生美智子（言語治療）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室、演習室

学習目標

顎・口腔・顔面領域の運動および感覚の健全な発達を支援する必要性、および様々な顎口腔機能訓練の役割とその実際を理解する。

到達目標

- ・顎口腔機能発達の遅滞に対する支援を説明できる。
- ・顎口腔機能の発達に影響を及ぼす習癖などを説明できる。
- ・顎口腔機能の発達における哺乳・離乳、摂食の重要性を説明できる。
- ・口腔筋機能療法を概説できる。
- ・発音機能の発達とその異常を概説できる。
- ・構音障害とその診査法・訓練法を概説できる。
- ・摂食・嚥下機能の発達障害を概説できる。
- ・重症障害児の摂食訓練を概説できる。
- ・顎口腔の先天異常における摂食機能への影響を説明できる。
- ・唇顎口蓋裂児における Hotz 床の役割を概説できる。

授業計画 3 学年前期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	摂食・嚥下機能の発達、非栄養的吸啜行動と口腔習癖	発育の原則、機能の発達と習熟、哺乳の発達、相互作用の意義、成人の摂食・嚥下過程、非栄養的吸啜行動の背景と発育への影響、歯科からのアプローチ
3, 4	口腔筋機能療法の基本理論と流れ	口腔筋機能療法の概説、促通法、筋機能訓練、行動変容療法、理論と訓練法の組立、包括的歯科における口腔筋機能療法の

		応用
5, 6	口腔筋機能の評価法と口腔筋機能療法の手技	摂食・嚥下過程での顎舌協調運動の評価、口腔機能の障害とパラファンクション、筋触診、摂食・嚥下課程の簡易評価、低位舌と口唇閉鎖、姿勢、評価法と手技の演習
7, 8	発音機能の発達と遅滞、言語治療の概要	発音機能の正常な発達と異常、顎口腔の先天異常と言語機能、機能性構音障害と治療法、症例供覧
9, 10	構音障害とその訓練	器質性構音障害と治療法、口蓋裂に伴う構音障害と言語治療、鼻咽腔閉鎖機能の診査と評価、スピーチエイドとパラタリフト、症例供覧
11, 12	先天異常と顎口腔機能、唇顎口蓋裂児におけるHotz床の役割	顎口腔の先天異常と摂食機能の発達、唇顎口蓋裂児の哺乳と離乳、Hotz床の目的・構造および治療効果、家族・本人への精神的支援
13-15	摂食・嚥下機能の遅滞、重症障害児の摂食訓練	発達の遅れの原因、遅滞を助長する外部環境因子、異常パターンの定着、食事環境の整備、脱感作、介助の姿勢、顎・頭部の固定とコントロール、食物の調理形態、嚥下促進法、バンゲード法

評価方法

必要に応じてレポートの提出を課すとともに、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「口腔筋機能療法（MFT）の臨床」 佐々木洋他編 医歯薬出版
- ・「口腔筋機能療法の実践」 高橋未哉子 クインテッセンス出版
- ・「口唇口蓋裂の理解のために―すこやかな成長を願って―」 夏目長門、鈴木俊夫 医歯薬出版
- ・「言語聴覚療法シリーズ8・器質性構音障害」 斉藤裕恵編 建帛社
- ・「口蓋裂の言語治療」 岡崎恵子他 医学書院
- ・「小児の摂食・嚥下リハビリテーション」 田角 勝、向井美恵編著、医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	発達育成系口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3年後期・必修・140時間 単位認定（4単位）は4学年前期（40時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	木下淳博・近藤圭子
授業担当者	木下淳博、寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、遠藤圭子、 近藤圭子、大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教職員
主な授業場所	歯学部附属病院内

学習目標

歯科診療施設において、発達期にある乳幼児から青少年およびその保護者に対し、チーム医療の一員として、歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・ 患児の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・ 患児および保護者の不安・不満に適切に対応できる。
- ・ 歯科診療時に示す患児の行動とその変容に適切に対応できる。
- ・ 歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・ 発達期の歯科診療に必要な器材を説明できる。
- ・ 診療室への患児および保護者の誘導を適切にできる。
- ・ 患児および保護者に挨拶して自己紹介できる。
- ・ 患児および保護者との信頼関係を築くことができる。
- ・ 個人的、社会的背景等が異なる患児および保護者に、わけへだてなく対応できる。
- ・ 患児および保護者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・ 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・ 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・ 患児および保護者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・ 医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・ インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・ 乳幼児から青少年に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・ 乳幼児から青少年およびその保護者に対し、歯科保健指導を実施できる。

- ・乳幼児から青少年の歯科診療に際し、診療補助を実施できる。

授業計画 3 学年後期・必修・140 時間

回	授業題目	授業内容
1-24	臨床実習ガイダンス および予備実習	臨床実習ガイダンス、小児歯科外来、歯科放射線外来、中央 器材室実習等に関するオリエンテーション
25-75	小児歯科外来実習	小児歯科外来における歯科診療の補助、歯科保健指導
76-100	歯科放射線外来実習	歯科放射線外来における歯科診療の補助
101-120	中央器材室実習	中央器材室における歯科診療室管理業務実習

評価方法

実習記録等により総括的評価を行う。

実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科放射線」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	成人口腔保健衛生臨床実習Ⅰ
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修 6 単位・270 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博・近藤圭子
授業担当者	木下淳博、寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、遠藤圭子、近藤圭子、坂本裕次郎、須永昌代、小原由紀、大塚紘未、吉田有里、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、山崎美幸・岡田昌子・田澤千鶴・河野章江・藤田直子（非常勤講師）、大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教職員
主な授業場所	歯学部附属病院内

学習目標

主に成人に対し、対象者本位の歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
- ・歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・診療に必要な器材を説明できる。
- ・診療室への患者の誘導を適切にできる。
- ・対象者に挨拶して自己紹介できる。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景等が異なる対象者に、わけへだてなく対応できる。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・対象者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に成人に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・主に成人に対し、歯科保健指導を実施できる。
- ・主に成人に対し、歯科診療補助を実施できる。

授業計画 3 学年後期・必修 6 単位・270 時間

回	授業題目	授業内容
1-45	臨床実習ガイダンス および予備実習	臨床実習ガイダンス、口腔ケア外来、むし歯外来、歯周病外来、義歯外来、口腔外科外来等におけるオリエンテーション
46-135	口腔ケア実習	患者さんを担当した歯科予防処置、歯科保健指導
136-180	むし歯外来実習	むし歯外来における歯科診療補助
181-225	歯周病外来実習	歯周病外来における歯科診療補助
226-248	義歯外来実習	義歯外来における歯科診療補助
249-270	口腔外科外来実習	口腔外科外来における歯科診療補助

評価方法

実習記録、患者さんへのリーフレット等により総括的評価を行う。

実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・ 最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「保存修復学・歯内療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

科目名	地域口腔保健衛生臨地実習
ユニット名	地域口腔保健衛生臨地実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修・27 時間 3 学年後期・必修・18 時間 単位認定（2 単位）は 4 学年後期（45 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、近藤圭子、寺岡加代、石川雅章、吉増秀實
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室、小学校、幼稚園、保育園、病院 等

学習目標

- ・地域保健活動を展開するために必要な知識、技術、態度を習得して、実践力を養う。

到達目標

- ・地域における口腔保健活動が説明できる。
- ・地域のニーズに即した活動が展開できる。
- ・集団を対象とした健康教育の計画立案ができる。
- ・健康教育を実施し、プログラム、対象者の反応などを評価できる。
- ・総合病院における歯科衛生活動の内容を説明できる。

授業計画

3 学年前期・必修・27 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	学外実習の意義 集団対象の健康指導 I ① 事前調査表	学外実習について 質問紙調査（調査時の注意、質問文作成、レイアウト、データ水準、分析 等）
4-6	集団対象の健康指導 I ② 調査集計 ③ アセスメント、診断、計画立案	集計、報告書作成 情報収集、健康指導計画立案
7-9	集団対象の健康教育 II ① 事前調査集計 ② テーマの決定、内容検討	保育園児、幼稚園児の生活に関する調査 健康教育目標、テーマ等の決定

10-12	集団対象の健康指導 I ④ 仕上げ、使用物品の確認、準備	リハーサル、評価と修正
13-15	集団対象の健康指導 I 学外実習 T 小学校における集団指導	実習、事後評価、実習報告書の作成
16-19	集団対象の健康指導 II ③ 教材作成、シナリオ作成	集計、報告書作成 情報収集、健康指導計画立案
20-22	フッ化物塗布実習	フッ化物の局所応用、必要物品の準備、 フッ化物塗布
23-27	集団対象の健康指導 II 学外実習 H 市内保育園における集団指導	実習、事後評価、実習報告書の作成

3 学年後期・必修・18 時間

回	授業題目	授業内容
28-33	総合病院歯科・口腔外科における活動の実際	総合病院の現状と受診患者概要、歯科・口腔外科の役割、専門職種の協働
34-39	〃	歯科・口腔外科の基礎情報の把握、患者誘導、術後指導
40-45	〃	歯科診療の実際の補助、配慮事項

評価方法

報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。

実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

留意事項

事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。

服装、態度、言葉遣いに留意する。

実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とすることがある。

科目名	特論（卒業研究）
ユニット名	特論（卒業研究）
授業の形態	演習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修・40 時間 単位認定（6 単位）は 4 学年前後期（140 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	口腔保健学科教員、口腔保健教育研究センター教員、歯学科教員
主な授業場所	口腔保健学科第 1 講義室、修士課程講義室

学習目標

各人の興味、将来の方向性にそって、テーマを選定し、計画・立案に基づいて研究を実施して、その結果を論文にまとめることにより、研究への理解と意欲を培う。

到達目標

- ・自分の興味、方向性に即して研究テーマを設定できる。
- ・研究論文の検索と科学的吟味ができ、知見を整理できる。
- ・実験・調査などの結果を整理、分析できる。
- ・分析結果に基づき、新たな課題を抽出、提起できる。
- ・研究の計画・立案ができる。

授業計画 3 学年後期・必修・40 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	卒業研究オリエンテーション	卒業研究の概要、研究デザイン・研究方法について
3, 4	情報収集・文献検索の方法	文献検索ガイダンス
5, 6	文献検索、論文読解と吟味	文献検索の実施、検索文献の読解と科学的吟味、研究の方向性検討
7, 8	論文の読解と吟味	論文の読解と科学的吟味
9, 10	文献検索のまとめ	論文読解とまとめ、グループ内発表
11-17	卒業研究発表会	4 年生卒業研究発表会参加
18-25	研究テーマの検討	研究テーマの検討・討論

26-29	データ処理の方法	データ処理の演習、統計処理ガイダンス
30-33	統計処理	統計処理の演習
34-36	研究テーマ・計画の検討	研究テーマ・計画の検討
37-40	研究計画の作成	研究計画書の作成

評価方法

出席状況、研究遂行態度、研究計画書等により形成的中間評価を行う。

参考図書等

- ・「歯科衛生研究の進め方論文の書き方」 金澤紀子ほか編 医歯薬出版
- ・「保健・医療のための研究法入門」 朝倉隆司監訳 協同医書出版社
- ・「医学的研究のデザイン」第2版 木原雅子、木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ・「看護研究—原理と方法」 D.F. ポーリット、B.P. ハングラー、押尾 祥子著 医学書院
- ・「よくわかる 看護研究の進め方・まとめ方 エキスパートをめざして」 横山三江編 医歯薬出版

科目名	障害者福祉論 I
ユニット名	障害者福祉論 I
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	雨宮由紀枝（日本女子体育大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

- ・わが国の障害者福祉の現状と課題を理解する。
- ・障害者の自立生活と社会参加に向けた支援のあり方を理解する
- ・障害者施策における国際的動向を理解し、自らの障害を捉える視点のあり方について考える。

到達目標

- ・障害者を取り巻く社会情勢と生活実態、障害の概念について概括的に説明できる。
- ・障害者にかかわる法律と、障害者の自立支援の制度の概要について説明できる。
- ・障害児の療育と教育の現状と課題について説明できる。
- ・障害児者のための地域および生活環境の整備について説明できる。
- ・障害児者とその家族へのライフステージに応じた支援のあり方を説明できる。
- ・障害者の雇用・就労の現状と課題について説明できる。
- ・現代社会における障害者福祉の課題を理解できる。

授業計画 3 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	現代社会と障害者福祉	障害者を取り巻く国内・国際的動向、障害者にかかわる法律、生活実態、国際生活機能分類（ICF）
4-6	障害児への支援	療育システム、母子保健施策、子育て支援、特別支援教育、発達障害者支援法
7-9	地域生活をサポートする 1	自立の概念、障害者自立支援法、成年後見制度、福祉のまちづくり、所得保障、情報保障
10-12	地域生活をサポートする 2	障害当事者組織の活動、専門職の役割、ソーシャルワーク、障害児者の家族への支援

13-15	障害者の雇用・就労支援	雇用・就労施策の歴史と現状、障害のある人の就労の現状、援助付き雇用、ジョブコーチ
-------	-------------	--

評価方法

期末試験、毎回のリアクションペーパー、出席状況、授業態度、課題レポートにより総合的に評価する。

参考図書等

- ・「新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度―障害者福祉論」 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規
- ・他、随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	障害者福祉論Ⅱ
ユニット名	障害者福祉論Ⅱ
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・選択・15 時間 放送大学「障がいと共に暮らすー自立と社会連帯ー」30 時間の選択履修と合わせて単位認定（3 単位）を行う
科目・ユニット責任者	坪井真、杉本久美子
授業担当者	雨宮由紀枝（日本女子体育大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・わが国の障害者福祉の現状と課題を理解する。
- ・障害者の自立生活と社会参加に向けた支援のあり方を理解する
- ・障害者施策における国際的動向を理解し、自らの障害を捉える視点のあり方について考える。

到達目標

- ・発達障害児者へのライフステージに応じた支援のあり方を説明できる。
- ・障害者運動、セルフヘルプグループなど、障害当事者の活動の意義について説明できる。
- ・障害をめぐる出生前診断や生殖補助医療などの現代的課題について説明できる。
- ・障害児者の生活を的確に把握し、自立生活と社会参加に向けた具体的な支援の方策を提示できる。
- ・現代社会における障害者福祉の課題を理解できる。

授業計画 3 学年後期・選択・15 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	発達障害児者の理解と支援	発達障害者支援法 LD、ADHD、高機能自閉症
4-6	障害者運動とセルフヘルプグループ	障害当事者による社会行動 障害当事者の会、家族会、親の会
7-9	障害と生命倫理	優生思想、出生前診断 生殖補助医療
10-12	障害者の地域生活支援の実践	自立生活支援、地域生活移行 事例検討

13-15	相談支援活動の実際	ソーシャルワーク、多職種連携 事例検討
-------	-----------	------------------------

評価方法

期末試験、毎回のリアクションペーパー、出席状況、授業態度、課題レポートにより総合的に評価する。

参考図書等

- ・「新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度―障害者福祉論」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規
- ・その他、随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

放送大学シラバスより

科目名	障がいと共に暮らすー自立と社会連帯ー
開講時期・単位・時間数	前期水曜 22 時 15 分～23 時 00 分・選択・30 時間
主任講師	河野正輝（放送大学客員教授・熊本学園大学教授）、東俊裕（放送大学客員教授・熊本学園大学教授）
授業担当者	大曾根寛（放送大学教授）、東俊裕（熊本学園大学教授）、西田和弘（岡山大学大学院教授）、新田秀樹（大正大学教授）、河野正輝（熊本学園大学教授）

講義概要

本講義では、障害者福祉論で通常取り扱われる対象・範囲を超えて、新しい「障がい法」のあり方にまで踏み込んで考えてみよう。障がい法という新たな概念では、障害者福祉の法制に限らず、障がいにかかわるすべての法領域が含まれるとともに、それらの法領域が全体として障がいのある人の自立・社会参加を保障する差別禁止と社会連帯の基本原理に立って統一的に考察されることになる。なお、現行法を引用して説明する際の煩瑣をさけるため、本文では「障害」の表記を併用する。

授業の目標

- ①まず障害福祉サービスの提供の基盤である障害者福祉法制の仕組みや運用上のポイントを理解しよう。
- ②つぎに法制を執行する立場にとって必要な専門知識だけでなく、法制を活用して障害福祉サービスを利用する人々の立場に立った権利擁護のポイントを理解できるようにしよう。
- ③さらに障害福祉サービスだけを見るのではなく、障がいのある人の自立と社会参加の保障に関する全法制を視野に入れて、現状の問題点と解決策を考える力をつけよう。

履修上の留意点

本講義の履修にあたって、基本的人権や国際人権規約、社会保障・社会福祉にかんする他の関連科目をあわせて履修すれば、理解をより深めることができるだろう。

通信指導課題を提出しない場合は、単位認定試験を受験できないので、必ず提出すること。

授業計画 前期・選択・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	現代社会における障害	第 1 回は、本教材の導入であるので、現代社会における「障害」の位置と概念を明らかにしつつ、現代思想と経済社会が「障害」をめぐって揺れ動く様を描いてみよう。さらに、21 世紀に入るころから一般的に使われるようになった「障がい」という言

		葉への転換と新たな概念についても学習しておこう。
2	障害者の権利条約	「障害者の権利条約」は、障害のある人に特別の権利を創設するものではないが、新しい考え方を取り入れることによって、障害者を保護の客体から権利の主体に転換するものである。条約に取り込まれた新しい考え方を学ぼう。
3	障がい法の沿革と体系	これまでの障害者福祉法制は、保護と隔離の観点から、対象者ごとにバラバラに定められてきたが（福祉モデル）、これからは障がいのある人の教育、就労、医療、福祉サービス、住まい、交通、情報その他社会生活への参加に関する法制が、自己決定の支援と社会連帯の観点から統一的に定められるべきこと（市民権モデル）を説明する。
4	教育の保障	日本では、障害児の教育が普通学校から分離された形で行われてきたが、世界の流れは、分離からインテグレーション、さらにはインクルージョンへと変化してきている。ここでは、障害者の権利条約に示されたインクルーシブ教育の内容と日本の課題を学ぶことにする。
5	医療の保障	日本には全国民を対象とする公的医療保険制度があるが、障害がある場合には自立支援医療によって医療保険給付を補完し、障がい者の健康を保障している。また、低所得の場合には生活保護法上の医療扶助を受けることになる。ここでは、主に自立支援医療および精神医療（入院）の手續・内容・課題について学ぶことにする。
6	就労の保障	近年、社会福祉は、大きな改革のさなかにあり、とりわけ「障がい」のある方への就労施策は急速に変動しつつある。2000年の「社会福祉基礎構造改革」から、2005年の障害者自立支援法の成立にいたる過程で、社会福祉制度における「就労」政策も、大きく変化した。まず、制度の変容について、学んでおこう。
7	雇用の促進	第7回では、2000年以降の障害者基本法および障害者雇用促進法の改正を概観しながら、企業と障がいのある方が出会う場面、つまり「労働市場」における問題点を明らかにしておこう。さらに、教育・医療や社会福祉から労働市場への移行がどのように行われていくのかについても考えてみよう。
8	所得の保障	障がいのある方に対する所得保障は、公的年金保険によるもの

		を基本とし、それを社会手当や生活保護により補う形で行われている。実際に支給される給付には様々なものがあるが、ここでは、障がい者の尊厳にふさわしい生活を支えるに足るものかどうかという観点から、主な所得保障制度の内容、意義、相互関係、問題点等を学んでいこう。
9	最低生活の保護	生活保護制度は、「健康で文化的な最低限度の生活」を全国民に保障するための最終的なセーフティネットである。障がいのある方で生活保護制度を活用する方も多く、その中から新たな自立の考え方も生まれてきた。ここでは、所得保障面を中心に生活保護制度の内容を学ぶとともに、「自立支援プログラム」の意義と問題点を考えていこう。
10	障害福祉サービスの体系	①障害者自立支援法に基づいて、自立支援給付（介護給付費、訓練等給付費など）の対象となる障害福祉サービスの種類・内容、②施設・事業体系の見直し、③地域生活支援事業の種類・内容、④サービス提供体制の確保、⑤サービスの質の確保・向上について、法制度の仕組みと実態を学ぶ。
11	サービス利用をめぐる権利と義務	措置方式と契約方式の差異を理解した上で、障害者自立支援法に基づくサービス利用の流れにそって、①支給の申請から支給決定までの手続き、②支給決定の変更と取消し、③自立支援給付のケアマネジメント、および④審査請求に関する法制度の仕組みと実態を学ぶ。
12	サービスの費用負担	障害者自立支援法において、費用負担方式がどう改変されたかについて理解した上で、①利用者負担に関する原則と負担軽減措置の内容、②国・都道府県・市町村による公費負担の内容について、法制度の仕組みと問題点を学習する。
13	アクセシビリティ	障害のある人が社会参加する上で、現在の社会には大きな障壁が存在する。自立した社会生活を営めるようにするためには、一般社会に提供されている様々な設備、情報、サービスなどを同等に利用できるようにならなければならない。ここでは、障害者の権利条約が規定するアクセシビリティの内容と日本の課題を学ぶことにする。
14	自立した生活と地域社会への統合	これまでノーマライゼーションという言葉で隔離された生活から地域社会での自立した生活への転換が語られてきたが、これを人権として認知したのが障害者の権利条約である。ここでは、施設処遇に軸足を置く日本の福祉サービスの問題点を学ぶ

		ことにする。
15	権利の擁護と救済。	判断能力の低下などでサービス給付や市民生活の場面で不利益を受けやすい障がい者のためにどのような権利擁護の仕組みがあるのか。権利侵害があった場合の救済手段はどのようなになっているのか。ここでは障がい者の権利や利益を守る仕組み、侵害された場合の救済の仕組みと問題点を学ぶ。

評価方法

前期単位認定試験：平成 21 年 8 月 2 日（日曜）6 時限（15 時 35 分～16 時 25 分）

東京文京学習センター（東京都文京区大塚 3-29-1 筑波大学東京キャンパス内）にて受験

科目名	地域福祉論Ⅰ
ユニット名	地域福祉論Ⅰ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修1単位・15時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	柳沢志津子（東洋学園大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

在宅介護サービス、地域を基盤にした子育て支援、障がい者の地域移行など。近年、社会福祉サービスの展開基盤が、施設から地域へ、国家から地域へと移行されつつある。果たして、地域とは何か、地域における社会福祉の推進主体とは誰なのだろうか。本講義では、地域福祉の基本的な概念を学び、なぜ社会福祉において地域福祉の推進が強調されるのか、理解を深める。

到達目標

- ・地域福祉の基本的考え方について説明できる。
- ・地域福祉の推進主体と対象について説明できる。
- ・地域福祉を推進する組織、団体及び専門職、住民の役割と実際について説明できる。

授業計画 3 学年前期・必修1単位・15時間

回	授業題目	授業内容
1	地域福祉の理念	自立支援、地域生活支援、地域移行
2	地域福祉の基本概念	地域コミュニティと住民、社会福祉法
3	地域福祉の基本概念	人権尊重、権利擁護、社会的包摂、
4	地域福祉の歴史的展開	地域福祉の源流 COS活動とセツルメント活動
5	地域福祉の歴史的展開	戦後日本の地域福祉
6	地域福祉の歴史的展開	地域コミュニティ視点の登場
7	地域福祉の主体と対象	地方分権、住民自治
8	地域福祉の主体と対象	福祉の多元化、市場化
9	地域福祉の問題とは何か	ビデオ「孤立する都市の高齢者」

10	地域福祉を支える組織と人々	行政組織の役割と実際、地方自治体
11	地域福祉を支える組織と人々	民間組織の役割と実際、社会福祉協議会、共同募金
12	地域福祉を支える組織と人々	民間組織の役割と実際、社会福祉法人、NPO・NGO、自治会
13	地域福祉を支える組織と人々	社会福祉専門職の役割と実際、社会福祉士、地域活動専門員、介護相談員
14	地域福祉を支える組織と人々	地域住民の役割と実際、民生委員、児童委員、ボランティア、自治会
15	まとめ	ミニテスト

評価方法

出席状況と授業態度（20%）、授業時に作成するレポート（20%）、ミニテスト（60%）で、総合的に評価する。

参考図書等

- ・「地域福祉論」 田端光美編著 建帛社
- ・「地域福祉論 社会福祉士養成テキストブック」 市川一宏・牧里毎治編著 ミネルヴァ書房
- ・「地域福祉の理論と方法―地域福祉論」 市川一宏・上野谷加代子・大橋謙策編著 中央法規
- ・「厚生指標 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法 2009年度版」 ミネルヴァ書房
- ・その他、必要に応じて講義の中で提示する。

留意事項

学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

科目名	地域福祉論Ⅱ
ユニット名	地域福祉論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択・15 時間 放送大学「地域福祉論」30 時間の選択履修と合わせて単位認定（3 単位）を行う
責任者	坪井真
授業担当者	柳沢志津子（東洋学園大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

在宅介護サービス、地域を基盤にした子育て支援、障がい者の地域移行など。近年、社会福祉サービスの展開基盤が、施設から地域へ、国家から地域へと移行されつつある。果たして、地域とは何か、地域における社会福祉の推進主体とは誰なのだろうか。本講義では、地域福祉Ⅰの学び（地域福祉の基本的考え方、推進主体と対象）を踏まえ、地域福祉の推進方法について具体的な事例を通して理解を深める。

到達目標

- ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について説明できる。
- ・地域福祉におけるネットワークの意義と方法及びその実際について説明できる。
- ・地域福祉における推進方法について事例を通して具体的な内容を説明できる。

授業計画 3 学年前期・選択・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	地域福祉の推進方法	社会福祉法
2	地域福祉の推進方法	コミュニティワーク技法
3	地域福祉の推進方法	ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発
4	地域福祉の財源	地方自治体の地域福祉財源、民間財源
5	地域福祉の実際	社会福祉施設の地域拠点
6	地域福祉の実際	福祉教育とボランティア活動
7	地域福祉計画策定	地域福祉計画策定の流れ

8	地域福祉計画策定	実践「住民参加による福祉のまちづくり」
9	地域福祉計画策定	実践「住民参加による福祉のまちづくり」
10	地域福祉計画策定	実践「住民参加による福祉のまちづくり」
11	地域福祉計画策定	実践「住民参加による福祉のまちづくり」
12	地域福祉の実際	地域福祉計画における住民主体形成
13	地域福祉の実際	福祉サービスの評価方法、第三者評価事業
14	地域福祉の実際	福祉の情報提供と苦情解決システム
15	まとめ	ミニテスト

評価方法

出席状況と授業態度（20%）、授業時に作成するレポート（20%）、ミニテスト（60%）で、総合的に評価する。

参考図書等

- ・「地域福祉論」 田端光美編著 建帛社 2002年
- ・「地域福祉論 社会福祉士養成テキストブック」 市川一宏・牧里毎治編著 ミネルヴァ書房
- ・「地域福祉の理論と方法―地域福祉論」 市川一宏・上野谷加代子・大橋謙策編著 中央法規
- ・「厚生指標 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法 各年度版」 ミネルヴァ書房
- ・そのほか、必要に応じて講義の中で提示する。

留意事項

学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

放送大学シラバスより

科目名	地域福祉論
開講時期・単位・時間数	放送大学ホームページ放送案内年間放送表参照・選択・30 時間
主任講師	牧里 每治（関西学院大学教授）
授業担当者	牧里 每治（関西学院大学教授）、永岡 正己（日本福祉大学教授）、野口 定久（日本福祉大学教授）、藤井 博志（神戸学院大学准教授）、山本 隆（関西学院大学教授）

授業の目標

地域福祉が住民主体を基本とする地域社会をベースにしたサービスとケアのシステムであることを理解する。この場合、地域住民は、サービスの受け手であるとともにサービスを創出する担い手でもあることを学ぶ。国から地方への中央集権的、上意下達的な縦割り型の法令や補助金に拘束された官僚的福祉行政ではなく、生活者である住民の目線から自治体を含む様々な専門職団体や住民団体とともに多様な生活支援サービスや市民活動を横につないでいく取り組みであることを理解する。

履修上の留意点

通信指導課題を提出しない場合は、単位認定試験を受験できないので、必ず提出すること。

授業計画 後期・選択・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	地域福祉の理念と概念	地域福祉とはなにか。その概念を説明します。 地域福祉の範囲と構成をアプローチの仕方によって説明します。大きくは社会構造の一つとしてとらえ、もう一つは社会的機能としてとらえるアプローチです。あわせてこれらの地域福祉システムを支えている理念、たとえばノーマライゼーションやエンパワーメント、あるいはコミュニティケアなどについても述べます。
2	地域福祉の源流	歴史的にみると、地域福祉なるものはどのように進展してきたか。西欧での歴史的展開を含めて、特に戦前日本の地域福祉の源流をたどります。地域福祉ではなじみの深いセツルメント運動や慈善事業協会、地方改良運動など日本の取り組みと欧米での歴史的展開を対比させながら説明をします。
3	戦後日本の地域福祉	戦後日本の社会福祉の歩みをみると、戦後復興から今日の地方分権まで、社会福祉体制の整備とともに地方自治体を中心とす

		る地域福祉政策への指向が高まってきています。福祉政策の地域指向がどのように生じてきたのか、その変化と歩みおよび社会的背景を述べます。それとともになぜ地域福祉が台頭してきたのか理由をさぐります。
4	地域福祉の構成と範囲	地域福祉とは具体的にはどのような範囲と内容をもつシステムなのか、また、どのように構成されているのかを体系的に説明します。サービス体系としての在宅福祉サービスと施設福祉サービス、運営要件としての住民組織化活動、計画化機能などについて言及します。さらに地域福祉システムを支える自治体運営と住民参加の重要性につても述べます。
5	地域福祉におけるサービス供給組織	在宅福祉サービスおよび施設福祉サービスともに、これらのサービスは、様々な供給組織によって提供されている。この多元的なサービス供給の実態と課題について説明します。 また、これらの多様なサービス供給組織の連携や統合の必要性についても言及します。特に介護保険の制度化にともなう地域福祉のあらたな政策・実践の課題についても述べます。
6	福祉施設と地域社会	施設福祉から在宅福祉へのシフトが地域福祉の主要な潮流とも言われてきましたが、施設建設反対運動のようなコンフリクトも起こっています。 地域福祉を実体として形づくっていくには、福祉施設が地域社会の福祉拠点にならなければならないことを述べます。福祉施設の社会化などをふりかえりながら今日的課題について説明します。
7	社会福祉協議会 NPO	地域福祉推進の中核的機関である社会福祉協議会の特質および戦後 50 年の実践を振り返りながら民間組織としての役割と課題について説明します。福祉施設などの社会福祉法人とは異なる市民参加型の法人としての展望にも言及します。NPO などの新しいタイプの公益法人との連携や社会福祉協議会の NPO 的運営についても述べます。
8	ボランティア活動と福祉教育	福祉コミュニティの形成にはボランティア活動や地域での助け合い活動など市民参加型のまちづくりを欠かせません。福祉社会を構成する主体者としての住民やボランティアの成長が望まれています。 地域福祉に密接に結びついている福祉教育や福祉学習について住民の主体形成を促進する視点からこれらの実態と課題に

		について述べます。
9	民生委員・児童委員の現状と課題	民生委員・児童委員は歴史的にも日本の地域福祉の原点でもあり、今日の地域福祉の主要な担い手でもあります。これら民生委員・児童委員の地域福祉に果たしてきた役割や活動実績について評価するとともに、あわせて地域社会で独自に制度化されている福祉委員の実態についても現状を説明します。
10	住民主体形成と当事者組織	地域福祉の主体者として住民がサービスの受け手でもあり担い手でもあることを説明します。住民が福祉における住民自治の主役にならないといけないことの重要性について述べます。住民の主体形成だけでなく、福祉問題を抱える様々な当事者についても受益者でもあり担い手でもある主体者としての成長の必要性を述べます。
11	福祉の情報提供相談・苦情解決のシステム化	生活圏としての地域社会にねざした地域ケアシステムは、サービス供給の仕組みづくりだけでなく福祉情報の提供や情報公開、ニーズ把握の実態調査や継続的な相談体制づくり、苦情解決などのシステム化が必要です。ニーズ発見、問題把握から苦情解決などまで市民参加による取り組みが求められていることにも言及します。
12	コミュニティワークと福祉のまちづくり	住民参加は、地域福祉にとって重要な本質的要素です。その参加・参画を促進するには専門職であるコミュニティワーカーによる支援が必要となります。住民福祉活動や福祉のまちづくり活動を支援する専門的方法をコミュニティワークといいます。その現状と課題を説明します。コミュニティワークは、地域福祉の方法といえます。
13	地方自治体の地域福祉財政	地域ケアシステムの構築であれ、住民の福祉活動支援であれ、これらの諸活動を支える人材や組織を確保するには公的な財源がなければ成り立ちません。これらの地域福祉にかかわる地方自治体の財源がどうなっているかを説明します。あわせてこれらの地方自治体における財政状況や課題についても地域福祉にかかわる範囲で言及します。
14	地域福祉の民間財源	税金以外の地域福祉を支える民間財源について現状と課題について説明します。伝統的で代表的な民間財源としては共同募金と福祉基金などがありますが、これらの寄付による方法以外の財源調達の方法、たとえば利用料(料金)方式やあばザーなどのイベント型資金獲得などについても現状と課題を述べます。

15	地域福祉計画の策定と 公私協働、官民協力	最後にまとめにかえて、これまでの社会福祉計画をふまえて新しい地域福祉計画の策定の意義と展望について説明します。地方分権時代の地域福祉にとっては地方自治をどのように発展させるかが重要な論点になりますが、その具体化には地域福祉計画をどう策定するかが大きな試金石になることを述べます。
----	-------------------------	---

評価方法

後期単位認定試験：平成 22 年 1 月下旬に実施予定

東京文京学習センター（東京都文京区大塚 3-29-1 筑波大学東京キャンパス内）にて受験

科目名	社会福祉援助技術論
ユニット名	社会福祉援助技術論
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前後期・選択・70 時間 3 学年前期・選択・50 時間 単位認定（8 単位）は3 学年前期終了時に行う
科目責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・現代における社会福祉の果たす役割と重要性を認識するため、社会福祉援助技術の歴史や特徴を理解する。
- ・相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につけるため、社会福祉援助技術の内容・方法とプロセスを理解する。
- ・専門職としての科学的探究心と問題解決能力を身につけるため、社会福祉援助技術に関する実践上の課題を理解する。
- ・保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力の基盤を身につけるため、社会福祉援助と口腔保健における実践の関連性を理解する。

到達目標

- ・社会福祉援助技術の歴史や特徴を説明することができる。
- ・社会福祉援助技術の内容・方法とプロセスを説明することができる。
- ・社会福祉援助技術に関する実践上の課題について、自らの意見を述べることができる。
- ・社会福祉援助と口腔保健における実践の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。

授業計画 3 学年前期・選択・50 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	イントロダクション	社会福祉援助技術の概要（定義・倫理、歴史、理論）
4-6	社会福祉援助の展開過程 1	展開過程の概要、各過程の特徴、事例検討
7-9	社会福祉援助の展開過程 2	個人・家族を支援する社会福祉援助の展開過程
10-12	社会福祉援助の展開過程 3	集団・地域を支援する社会福祉援助の展開過程

13-15	個別援助技術 1	個別援助技術（ケースワーク）の内容、事例検討
16-18	個別援助技術 2	個別援助技術（ケースワーク）の展開過程
19-21	集団援助技術 1	集団援助技術（グループワーク）の内容、事例検討
22-24	集団援助技術 2	集団援助技術（グループワーク）の展開過程
25-27	地域援助技術 1	地域援助技術（コミュニティワーク）の内容、事例検討
28-30	地域援助技術 2	地域援助技術（コミュニティワーク）の展開過程
31-33	その他の社会福祉援助技術	アウトリーチ、スーパービジョンの内容、事例検討
34-36	地域を基盤とした実践 1	コミュニティソーシャルワークの内容と展開過程
37-39	地域を基盤とした実践 2	ミクロ実践とマクロ実践の連結による社会福祉援助
40-42	地域を基盤とした実践 3	ファシリテーションの内容と社会福祉援助の関係
42-45	社会福祉援助と関連領域	社会福祉援助と関連領域の関係、事例検討
46-50	授業の振り返りとまとめ	生活課題を解決する社会福祉援助技術、授業内レポート

評価方法

①フィードバック・シート（授業の理解度の確認、質問を含む）10%、②グループディスカッション（事例検討など）20%、③授業内レポート20%、④定期試験50%の総合点で評価する。

参考図書等

- ・教科書：「相談援助の理論と方法Ⅱ（社会福祉士シリーズ8）」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

科目名	社会福祉援助技術演習
ユニット名	社会福祉援助技術演習
授業の形態	演習
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択・45 時間 3 学年前期(夏季集中)・35 時間 3 学年後期・選択・40 時間
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	坪井真、堀千鶴子（城西国際大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

- ・現代における社会福祉の果たす役割と重要性を認識するため、演習をととして、社会福祉援助の特徴を理解する。
- ・相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につけるため、演習をととして、社会福祉援助の内容・方法とプロセスを理解する。
- ・専門職としての科学的探究心と問題解決能力を身につけるため、演習をととして、社会福祉援助に関する実践上の課題を理解する。
- ・保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力の基盤を身につけるため、演習をととして、社会福祉援助と口腔保健における実践の関連性を理解する。
- ・演習をととして、社会福祉援助技術現場実習に向けた自らの興味関心と学習課題を理解する。

到達目標

- ・社会福祉援助の特徴を説明することができる。
- ・社会福祉援助の内容・方法とプロセスを説明することができる。
- ・社会福祉援助に関する実践上の課題について、自らの意見を述べることができる。
- ・社会福祉援助と口腔保健における実践の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。
- ・社会福祉援助技術現場実習に向けた自らの興味関心と学習課題を説明することができる。

授業計画

3 学年前期・選択・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	社会福祉援助技術演習の理解	①社会福祉実践と社会福祉援助技術技術 ②社会援助技術演習とは何か～演習の目的・意義～

4-6	社会福祉援助技術基礎 1	「自己理解」について～「自分」と「他者」～
7-9	社会福祉援助技術基礎 2	「自己理解」について～自分との出会い～
10-12	社会福祉援助技術基礎 3	「援助」と「指導」～援助・支援とは何かを考える～
13-15	社会福祉援助技術基礎 4	コミュニケーションの理解～「言語的コミュニケーション」と「非言語的コミュニケーション」
16-18	社会福祉援助技術基礎 5	コミュニケーション技法①
19-21	社会福祉援助技術基礎 6	コミュニケーション技法②
22-24	社会福祉援助技術基礎 7	社会福祉実践における「価値」と「倫理」①
25-27	社会福祉援助技術基礎 8	社会福祉実践における「価値」と「倫理」②
28-30	社会福祉現場実習理解 1	社会福祉現場実習とは何か
31-33	社会福祉現場実習理解 2	実習先の種類と実習の可能性
34-36	社会福祉現場実習理解 3	実習分野別グループ討議
37-39	社会福祉援助実践事例演習 1	実践事例の理解と研究方法
40-42	社会福祉援助実践事例演習 2	事例研究の理解と実際
43-45	社会福祉援助実践事例演習 3	事例分析の実際

3 学年前期（夏季集中）・選択・35 時間

回	授業題目	授業内容
46-48	個別援助技術における面接技法	インテーク技法
49-51	個別援助技術におけるアセスメント方法	アセスメントの理解と実際及びニーズ把握と支援目標の把握
52-54	個別援助技術における支援計画作成法	支援計画作成の理論と実際及び支援体制形成とその展開
55-57	個別援助技術における記録・評価技法	記録のまとめ方・記録方法の理論と実際及び支援展開の評価方法
58-60	集団援助技術の展開 1	グループとは何か、力動・相互作用を理解する
61-63	集団援助技術の展開 2	グループの作り方と展開方法
64-66	集団援助技術の展開 3	プログラム活動の実際
67-69	集団援助技術の展開 4	会合の持ち方・進め方
70-72	集団援助技術の展開 5	グループの成長・発展への支援のあり方
73-75	ケアマネジメント 1	ケアマネジメントの理論と実際

76-78	事例検討 1	家族を支援する事例の検討
79, 80	事例検討 2	女性を支援する事例の検討

3 学年後期・選択・40 時間

回	授業題目	授業内容
81-83	地域援助技術の展開 6	地域援助技術の理解と実際～「地域」とは何か～
84-86	地域援助技術の展開 7	地域ニーズの把握と地域診断方法①
87-89	地域援助技術の展開 8	地域ニーズの把握と地域診断方法②
90-92	地域援助技術の展開 9	地域支援計画の策定～社会資源の把握と支援計画～
93-95	地域援助技術の展開 10	ソーシャルアクションの理論と実際
96-98	個人票の作成指導	個人票の作成、完成
99-101	実習先の理解	グループ討議
102-104	実習計画書の作成指導	実習計画書の作成、推敲、下書きの完成
105-107	実習記録のとり方	実習記録ノートの記事内容と記載の観点、演習
108-110	実習計画書の作成指導	事前訪問後、実習計画の最終確認
111-113	実習前確認	実習中の態度、実習後礼状・まとめの書き方確認、個人情報保護、リスクマネジメント、実習中の身なりなど
114-116	医療・福祉・保健の連携 1	医療・福祉・保健の連携による支援の実際、事例分析
117-119	医療・福祉・保健の連携 2	医療・福祉・保健の連携による支援の事例分析
120	演習総括（まとめ）	社会福祉援助実践の展望と動向

評価方法

①グループディスカッション 25%、②ロールプレイ 25%、③プレゼンテーション 25%、④授業内レポート 25%により総合的に評価する。

参考図書等

- ・「ソーシャルワーク演習ワークブック」 相澤譲治・植戸貴子編 みらい
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

また、グループディスカッションやロールプレイなどには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

科目名	社会福祉援助技術現場実習
ユニット名	社会福祉援助技術現場実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期（春季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上 単位認定（4 単位）は4 年の実習（12 日間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	実習先の実習指導者
主な授業場所	社会福祉施設・機関

学習目標

現場での実習体験を通して、社会福祉専門職としての仕事をする上で必要な専門知識、専門援助技術および関連知識について理解を深める。

到達目標

- ・福祉ニーズを抱えている個人、家族、小集団、地域などに対する総合的援助過程の中で、現場の実習指導者の指導を得ながら、社会福祉援助技術を活用できる。
- ・スーパービジョンを通して、自己の社会福祉援助者としての実践力を高め、補正することができる。
- ・社会福祉援助技術を活用するにあたっての課題、その解決方法を学び、将来の実践におけるその活用の展望について整理できる。
- ・社会福祉援助技術の実践に必要な知識、技術を高め、援助者として適切な態度と行動がとれる。
- ・各人の実習計画に基づき実習を遂行できる。

授業計画 3 学年後期（春季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上

実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

評価方法

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総括的評価を行う。

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導（スーパービジョン）
ユニット名	社会福祉援助技術現場実習指導（スーパービジョン）
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・選択・23 時間 3 学年後期（春季集中）・選択・14 時間 単位認定（2 単位）は 4 学年前後期（53 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	坪井真、竹野みはる（医療福祉支援センター）、福島一雄（児童福祉施設）、小田切涼子（障害者福祉施設）、谿直樹（高齢者福祉施設）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室・演習室

学習目標

社会福祉施設・機関での現場実習を行う意義を理解し、実習の前から終了後にわたって指導を受け、現場実習を実効性のあるものとする。

到達目標

- ・各社会福祉施設における実習の流れを説明できる。
- ・各施設における実習目標を立てられる。
- ・現場実習における心構え、留意点を説明できる。
- ・実習現場における行動の取り方を身につける。
- ・実習ノートを作成できる。
- ・スーパービジョン・リンケージを説明できる。
- ・実習先の特徴、利用者の特徴について説明できる。
- ・実習内容について発表ができる。
- ・実習終了後の振り返りができ、改善点を見いだせる。

授業計画

3 学年後期・選択・23 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	社会福祉現場実習のオリエンテーション	社会福祉実習施設の説明、社会福祉実習の意義・目的、実習先の決定、個人票作成要領の説明
3-5	社会福祉施設・機関の把握	児童福祉施設（児童養護施設、乳児院）における現状と実習の心得・実習内容

6-8	社会福祉施設・機関の把握	社会福祉協議会、社会福祉事務所における現状と実習の心得・実習内容
9-11	〃	障害者施設における現状と実習の心得・実習内容
12-14	社会福祉施設・機関の把握	高齢者福祉施設（特別養護老人ホーム、デイケアセンター、地域包括支援センター等）における現状と実習の心得・実習の内容など
15-17	実習報告会参加	4 年生による実習報告会に参加
18-20	社会福祉施設・機関の把握 1	社会福祉施設・機関の把握 保健医療機関における現状と実習の心得・実習内容 1
21-23	社会福祉施設・機関の把握 2	社会福祉施設・機関の把握 保健医療機関における現状と実習の心得・実習内容 2

3 学年後期（春季集中）・選択・14 時間

回	授業題目	授業内容
24-30	実習後指導 1	個人面接による実習の振り返り、実習報告書の作成指導等
31-37	実習後指導 2	個人面接による実習の振り返り、実習報告書の作成指導等

評価方法

発表内容、出席状況および授業態度による総合的評価を行う。

参考図書等

随時、「実習の手引き」、「実習記録ノート」等の資料を配付する。

第 4 学年 授業科目

科目名	社会保障論Ⅱ
ユニット名	社会保障論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・選択・15 時間 放送大学の科目「市民生活における社会保険」30 時間の選択履修と合わせて、単位認定（3 単位）を行う
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	弓削俊雄
主な授業場所	口腔保健学科 第1 講義室

学習目標

社会保障の全体、各論を理解し、具体的な質問に答えることができる。

到達目標

- ・ 年金制度を説明できる。
- ・ 医療保険制度を説明できる。
- ・ 介護保険制度を説明できる。
- ・ 雇用保険、労働災害補償保険制度を説明できる。
- ・ 民間保険制度の内容を説明できる。
- ・ 諸外国の社会保障を説明できる。

授業計画 4 学年前期・選択・15 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	社会保障制度の歴史と社会保障制度とは	社会保障制度の歴史
4, 5	医療保険制度 1	「皆医療保険」制度と各医療保険の制度比較
6, 7	医療保険制度 2	具体的な「給付事例」をもとづく医療制度の比較と考察
8, 9	年金制度 1	「皆年金制度」成立背景と現在までの流れ、年金制度の統一問題について
10, 11	年金制度 2	具体的な給付事例と簡単な「年金計算」、本当に「年金制度」は崩壊するのか等

12, 13	労働災害制度、雇用保険制度	我が国の雇用保険制度の復習
14, 15	介護保険	平成12年度から新しく制度化された「介護保険制度」の現状－具体的事例から－

評価方法

期末の客観試験、論述試験および出席状況で総括的に評価する。

参考図書等

授業時に随時提示する。

放送大学シラバスより

科目名	市民生活における社会保険
開講時期・単位・時間数	放送大学ホームページ放送案内年間放送表参照・選択・30 時間
主任講師	堤修三（放送大学客員教授、大阪大学教授）、品田充儀（放送大学客員教授、神戸学院大学大学院教授）
授業担当者	品田充儀（神戸学院大学大学院教授）、堤修三（大阪大学教授）、石田道彦（金沢大学准教授）、水島郁子（大阪大学准教授）

講義概要

社会保険制度はあたかも生き物のごとく、様々な環境の変化に適応すべく変貌していく。そして、時代の変化が著しい昨今においては、その変貌の速度も加速している。本講義においては、市民が生活をしていくなかで、社会保険制度はいかなる機能を果たしているのか、またその本来の目的を達する上で何が障害となっているのかなど、変わり行く社会保険制度について、普遍的な部分と時代に適合していく部分の両方を意識しながら、その意義と将来像について検討していく。

授業の目標

わが国の社会保険制度の基本的な構造について理解するとともに、その本来の目的のためにあるべき姿や将来の展望について検討していく。

授業予定 後期・選択・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	社会保険を学ぶ意義	社会保険は、ライフサイクルのなかで生じてくる様々な事故に対して、事前に保険料を拠出することによって備えておこうという人間の英知の結晶である。少子高齢社会に突入し、将来の生活設計にかかる不安は高まりつつあるが、社会保険制度の現状とその可能性を知ることは現代を生きる市民にとって重要である。
2	社会保険の意義とその根拠	社会保険とは、社会＋保険という文字どおり、社会的要請と私的契約に発する保険という異質な 2 つの要素が組み合わせられたものである。この講義では、社会保険とは何か、その意義や特性を、私的保険との対比によって明らかにしたうえで、それがいかなる理由によって根拠付けられるかを考察する。

3	社会保険制度の構造と体系	社会保険制度は、社会保障制度体系の中であってどのような機能を有するのか。また、社会保険制度は年々拡張し、また複雑化する傾向を辿っているが、その構造において共通する部分は何処にあるのか、検討していく。
4	医療保険制度の構造	病気やけがをした時、私たちは健康保険や国民健康保険を利用して医師の診断や治療を受ける。今日では、医療保険は、私たちが健康に安心して社会生活を送るために欠かすことのできない制度となっている。第4回講義では、わが国の医療保険制度の基本的な構造を説明する。
5	保険診療の仕組み	医療保険の仕組みでは、保険医や指定医療機関は、健康保険法や療養担当規則に定められた様々なルールに従って患者に医療を提供する。また、診療をおこなった指定医療機関に対しては独自の審査体制に基づいて診療報酬が支払われる。今回の講義では、このような保険診療の仕組みについて学ぶ。
6	高齢者医療制度と医療保険制度の課題	急速に進行する高齢化に対応するために、最近の医療制度改革では高齢者医療のあり方が重要な検討課題となっている。また、保険者の再編統合や生活習慣病への対応など医療保険制度には新たな課題が生じている。今回の講義では、新しい高齢者医療制度と今後の医療保険制度の課題を取り上げる。
7	介護保険制度の仕組み	2000年に誕生した最も新しい社会保険制度である介護保険制度は、どのような特徴を有するのか。変貌しながら発展していく介護保険制度の構造を学ぶ。
8	介護保険制度の課題と将来像	介護保険制度は誕生まもない現状において、将来を不安視される状況にある。高齢者を見守る地域のあり方、介護状態にならないための予防、行政単位で決定していく保険料額など、社会保険制度でありながら、新たな手法をもって将来を築こうとする同制度を展望する。
9	年金制度の成り立ちとその変容	年金制度は、同じ制度でありながら、給付と負担の関係を規定する基本構造が経済社会の変化に応じて変容していく不思議な制度である。年金制度の第1回目は、わが国の年金制度が、その基本構造をどのように変容させてきたかを辿り、給付と負担の関係はどうあるべきか、どう決められるべきかについて考察する。

10	年金制度の概要	この講義では、現在のわが国の年金制度の概要を学習する。全国民共通の国民年金（基礎年金）・サラリーマンの年金である厚生年金のそれぞれについて、被保険者資格・年金給付の種類・受給資格・年金額と計算方法・保険料水準などの概要を説明する
11	年金制度を巡る諸問題	年金制度に関する国民の関心は極めて高い。少子高齢化の進行や国民年金（1号被保険者）の保険料未納などから、年金制度は将来とも大丈夫か、巨額の不良債務を負っているのではないかという疑問や、保険方式を止めて消費税を財源とする方式に改めたらどうかという意見もある。また、女性の年金と保険料負担を巡っても議論が続いている。この講義では、これらの問題について考えてみる。
12	雇用保険制度の概要	雇用保険は、失業時の生活保障のほか、就職の支援や失業の予防、教育訓練といったより広い意味での雇用保障を目的としている。これらの目的を念頭におきつつ、保険給付とそのあり方について学習する。さらに、雇用保険と密接に関係する雇用政策の発展と今後の課題について検討する。
13	労災保険における業務災害補償制度	労災保険は、労働者の業務上もしくは通勤による災害に対する補償を内容とするものである。まず業務上の概念を確認したうえで、大きな社会的問題にもなっている過労死や過労自殺を中心に、認定基準や補償のあり方について検討する。
14	通勤災害保護制度と労災保険制度の課題	引き続き労災保険をとりあげるが、第14回では通勤災害について学習する。第13回、第14回の講義をふまえて、なぜ労働者について、このような特別な補償がなされるのか、労災保険の意義・目的、発展経緯、さらには今後の課題について検討を加える。
15	福祉国家の現在と社会保険	最終回は、最近の社会保障改革を巡る動きについて考える。グローバリズムや規制改革などにより格差の拡大が言われる一方、制度の維持可能性の名の下に社会保障改革が進められている。その中で大きなウエイトを占めるのが社会保険の給付抑制である。給付抑制の限界はどこか、私たちの社会的安全ネットはどうあるべきか、これ

		からの社会保障－社会保険の在り方について考察する。
--	--	---------------------------

評価方法

後期単位認定試験：平成 22 年 1 月下旬実施予定

東京文京学習センター（東京都文京区大塚 3-29-1 筑波大学東京キャンパス内）にて受験

科目名	保健行動科学
ユニット名	ヘルスカウンセリング特論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	小野寺光江
授業担当者	小野寺光江、近藤圭子、遠藤圭子、杉本久美子、坪井真、小原由紀、 吉田直美（千葉県立保健医療大学）、渡邊麻理（非常勤講師）
主な授業場所	校外施設

学習目標

歯科保健医療職としてのコミュニケーションスキル・ヘルスカウンセリングスキルを身につける。

到達目標

- ・クライアント(役)に対して、カウンセラーの基本的態度をとることができる。
- ・健康維持増進のための行動変容について説明することができる。
- ・クライアントの話を受容的に傾聴できる。
- ・問題解決のため意欲的に判断し行動できる。

授業計画 4 学年前期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	セッション 1	オリエンテーション
2, 3	セッション 2	ヘルスカウンセリング論復習・演習 I
4-7	セッション 3	カウンセリング演習 II
8-10	セッション 4	キャリア・ガイダンス/カウンセリング
11-13	セッション 5	歯科医療現場でのコミュニケーション、カウンセリング
14, 15	まとめ	まとめ

評価方法

出席・参加状況ならびに、提出物などにより評価する。

留意事項

1 泊 2 日の合宿形式で、キャリアに関するテーマを取り上げながら演習を行うとともに、歯科保健医療現場に即した状況を設定して行う。

科目名	介護概論
ユニット名	介護概論
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 15 時間 4 学年後期・必修 15 時間 } 2 単位
科目・ユニット責任者	小野寺光江
授業担当者	小野寺光江、助友裕子（国立がんセンター）、新井武志（目白大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室

学習目標

社会を構成する基本的単位の家族について学び、その機能の変遷より、現代の日本社会が抱える介護の問題を理解するとともに、基本的な介護技法を習得する。

到達目標

- ・家族とは何かを説明できる。
- ・家族の機能およびその変遷を説明できる。
- ・介護とは何かを説明できる。
- ・家族機能の視点から介護の必要性を説明できる。
- ・介護活動の展開法を説明できる。
- ・介護予防の必要性を説明できる。
- ・介護予防活動の概要を説明できる。
- ・老年症候群について説明できる。
- ・介護に必要な基本的介護技術を説明できる。
- ・要支援者・要介護者の心身の特徴を説明できる。
- ・福祉用具について説明できる。
- ・介護にかかわる保健・医療・福祉等の関連職種との連携を説明できる。

授業計画

4 学年前期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	家族とは何か	家族の概念、家族の機能
2	現代家族の動向 I	家族形成の原理、現代社会と家族

3	現代家族の動向Ⅱ	現代社会の家族構造および機能の変化
4	介護とは何か	介護の概念他
5, 6	介護の対象Ⅰ	介護の対象は誰か、要支援者・要介護者および介護者の特徴
7, 8	介護技術Ⅰ	介護活動の展開
9-12	介護技術Ⅱ	日常生活援助のための基本的な介護
13	介護と関連機関との連携	介護と医療の継続
14	介護を取り巻く諸問題	高齢者を取り巻く諸問題
15	まとめ	まとめ

4 学年後期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容
16, 17	介護予防とは何か	介護予防の必要性ほか
18, 19	介護予防の対象	介護予防の対象は誰か
20, 21	介護予防活動Ⅰ	介護予防活動の展開
22, 23	介護予防活動Ⅱ	介護予防活動時のリスク管理
24, 25	介護予防活動Ⅲ	転倒予防プログラムの概要
26, 27	介護予防活動	運動器の機能向上プログラムの概要
29, 29	介護予防活動	自己管理型筋力増強プログラムの概要
30	まとめ	まとめ

評価方法

期末の客観的試験、記述試験で総括的な評価を行う。

出席・授業態度を総括的に加味する。

参考図書等

新版 社会福祉士養成講座 14「介護概論」

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	歯科口腔介護
ユニット名	歯科口腔介護
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・15 時間 4 学年後期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	下山和弘
授業担当者	下山和弘、渡邊裕（東京歯科大学）、菅武雄（鶴見大学）、 本村一朗（高齢者歯科学分野）、武井典子（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室

学習目標

要介護者と関わるために、口腔保健の立場から、療養の管理、機能訓練ならびに日常生活の支援を行うための基本的な知識、技術を理解する。

到達目標

- ・要介護者の口腔保健の意義を説明できる。
- ・病院歯科における口腔保健を説明できる。
- ・居宅要介護者の口腔の問題と対応方法を説明できる。
- ・施設利用者の口腔の問題と対応方法を説明できる。
- ・脳卒中、痴呆等の疾患を有する要介護者への対応法を説明できる。

授業計画

4 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	歯科口腔介護の意義	歯科口腔介護の定義・意義・目的
2	高齢者における口腔の健康	口腔の健康の重要性と現状
3	病院歯科・病棟における口腔保健 1	病院歯科・病棟における口腔保健の現状
4	病院歯科・病棟における口腔保健 2	病院歯科・病棟における口腔保健の問題点
5	病院歯科・病棟における口腔保健 3	評価と対応
6	病院歯科・病棟における口腔保健 4	課題
7	居宅の要介護者・施設利用者における口腔保健 1	歯科訪問診療の位置づけ

8	居宅の要介護者・施設利用者における口腔保健 2	歯科訪問診療の実際と問題点
9	居宅の要介護者・施設利用者における口腔保健 3	介助による口腔ケア
10	居宅の要介護者・施設利用者における口腔保健 4	介入レベル別口腔ケア
11	高齢者の日常生活	高齢者疑似体験
12	高齢者の日常生活	高齢者疑似体験
13	高齢者の日常生活	高齢者疑似体験
14	高齢者の日常生活	高齢者疑似体験
15	口腔の健康を考える	現状と展望

4 学年後期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	高齢者の心理的特徴を捉えた対応	心理的問題と臨床における対応
2	高齢者の身体的特徴を捉えた対応	身体的問題と臨床における対応
3	高齢者の身体的特徴を捉えた対応	身体的問題と臨床における対応
4	要介護者の口腔清掃への対応	口腔清掃の基本的な方法の実際
5	要介護者の口腔清掃への対応	口腔清掃の基本的な方法の実際
6	要介護者の口腔清掃への対応	口腔清掃の基本的な方法の実際
7	介護保険における口腔保健 1	特定疾患と口腔の問題
8	介護保険における口腔保健2	特定疾患と口腔の問題
9	介護保険における口腔保健3	特定疾患と口腔の問題
10	「口腔ケア」の変遷1	要介護者の口腔ケアの基本を考える
11	「口腔ケア」の変遷2	要介護者の口腔ケアの基本を考える
12	「口腔ケア」の変遷 3	要介護者の口腔ケアの基本を考える
13	「口腔ケア」の変遷 4	要介護者の口腔ケアの発展を考える
14	「口腔ケア」の変遷 5	要介護者の口腔ケアの発展を考える
15	要介護者に対する対応	要介護者の問題のまとめ

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。期末の客観試験、論述試験、提出レポートで総括的評価を行う。講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「日本老年歯科医学会監修口腔ケアガイドブック」 日本老年歯科医学会監修 口腔保健協会
- ・「老年歯科医学用語辞典」 日本老年歯科医学会編 医歯薬出版
- ・「はじめて学ぶ歯科口腔介護」 新井俊二、小椋秀亮監修 医歯薬出版
- ・「高齢者歯科ガイドブック」 植松 宏、稲葉 繁、渡辺 誠編集、医歯薬出版
- ・「実践訪問口腔ケア」 上巻、下巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス出版
- ・「歯科衛生士のための高齢者歯科学」 渡邊誠、岩久正明監修、永末出版
- ・「脳卒中患者の口腔ケア」 植田耕一郎 医歯薬出版
- ・「WHO：ICF（国際生活機能分類）」 中央法規
- ・「口腔ケアハンドブック」 菅武雄 日本医療企画
- ・「基礎から学ぶ口腔ケア」 菊谷 武監修 学研

留意事項

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	歯科口腔介護
ユニット名	顎口腔機能リハビリテーション
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	下山和弘
授業担当者	下山和弘、戸原玄（日本大学）、大平章子（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室

学習目標

顎口腔機能および顎口腔機能障害、機能障害に対する対応方法を理解する。

到達目標

- ・摂食・嚥下障害および言語障害の病因・病態・障害を説明できる。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害の治療・管理の必要性和流れを説明できる。
- ・摂食・嚥下障害を有する患者の口腔清掃及び保健指導を説明できる。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害に対する訓練法を説明できる。
- ・摂食・嚥下障害への食事の対応を説明できる。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害に対するチーム医療を説明できる。

授業計画 4 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	顎口腔機能	顎口腔機能の種類と重要性
2	言語障害 1	言語障害の特徴
3	言語障害 2	言語障害の問題点
4	摂食・嚥下障害 1	摂食・嚥下障害の特徴と問題点
5	言語障害 3	言語障害の評価と診断
6	言語障害 4	言語障害に対する治療・指導
7	摂食・嚥下障害 2	摂食・嚥下障害の診察（スクリーニング含む）
8	摂食・嚥下障害 3	検査・評価法（VF）
9	摂食・嚥下障害 4	検査・評価法（VE）
10	摂食・嚥下障害 5	間接訓練

11	摂食・嚥下障害 6	直接訓練・段階的摂食訓練
12	摂食・嚥下障害 7	摂食・嚥下障害への対応（1 脳血管障害など）
13	摂食・嚥下障害 8	摂食・嚥下障害への対応（2 口腔咽頭腫瘍）
14	摂食・嚥下障害 9	摂食・嚥下障害への対応（3 訪問歯科診療）
15	顎口腔機能と障害	顎口腔機能とその障害の考え方

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。期末の客観試験、論述試験、提出レポートで総括的評価を行う。講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「わかる摂食・嚥下リハビリテーションⅠ 評価法と対処法」 医歯薬出版
- ・「摂食・嚥下障害の VF 実践ガイドー歩進んだ診断・評価のポイントー」 南江堂
- ・「訪問歯科診療ではじめる摂食・嚥下障害のアプローチ」 医歯薬出版
- ・「歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学」 医歯薬出版

留意事項

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	発達育成系口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3年後期・必修・140時間 4年前期・必修・40時間 単位認定（4単位）は4学年前期終了時に行う
科目・ユニット責任者	木下淳博・近藤圭子
授業担当者	木下淳博、寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、遠藤圭子、 近藤圭子、大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床 系教職員
主な授業場所	歯学部附属病院内

学習目標

歯科診療施設において、発達期にある乳幼児から青少年およびその保護者に対し、チーム医療の一員として、歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・ 患児の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・ 患児および保護者の不安・不満に適切に対応できる。
- ・ 歯科診療時に示す患児の行動とその変容に適切に対応できる。
- ・ 歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・ 発達期の歯科診療に必要な器材を説明できる。
- ・ 診療室への患児および保護者の誘導を適切にできる。
- ・ 患児および保護者に挨拶して自己紹介できる。
- ・ 患児および保護者との信頼関係を築くことができる。
- ・ 個人的、社会的背景等が異なる患児および保護者に、わけへだてなく対応できる。
- ・ 患児および保護者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・ 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・ 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・ 患児および保護者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・ 医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・ インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・ 乳幼児から青少年に対し、歯科予防処置を実施できる。

- ・乳幼児から青少年およびその保護者に対し、歯科保健指導を実施できる。
- ・乳幼児から青少年の歯科診療に際し、診療補助を実施できる。

授業計画 4 学年前期・必修・40 時間

回	授業題目	授業内容
1-5	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス、実習等に関するオリエンテーション
6-25	矯正歯科外来実習	矯正歯科外来における歯科診療の補助、歯科保健指導
26-40	歯科放射線外来実習	歯科放射線外来における歯科診療の補助

評価方法

- 実習記録等により総括的評価を行う。
- 実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科矯正学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科放射線」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

- 附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	成人口腔保健衛生臨床実習Ⅱ
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年通年・必修 3 単位・135 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博・近藤圭子
授業担当者	木下淳博、寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、遠藤圭子、近藤圭子、坂本裕次郎、須永昌代、小原由紀、大塚紘未、吉田有里、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、山崎美幸・岡田昌子・田澤千鶴・河野章江・藤田直子（非常勤講師）、大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教職員
主な授業場所	歯学部附属病院内

学習目標

主に成人に対し、対象者本位の歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
- ・歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・診療に必要な器材を説明できる。
- ・診療室への患者の誘導を適切にできる。
- ・対象者に挨拶して自己紹介できる。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景等が異なる対象者に、わけへだてなく対応できる。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・対象者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に成人に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・主に成人に対し、歯科保健指導を実施できる。
- ・主に成人に対し、歯科診療補助を実施できる。

授業計画 4 学年通年・必修 3 単位・135 時間

回	授業題目	授業内容
1-5	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス、外来におけるオリエンテーション
6-63	口腔ケア実習	患者さんを担当した歯科予防処置、歯科保健指導
64-92	歯周病外来実習	歯周病外来における歯科診療の補助、歯科保健指導
93-121	インプラント外来・ 顎義歯外来実習	インプラント外来における歯科診療の補助 顎義歯外来における歯科診療の補助、歯科保健指導
122-135	歯科麻酔外来実習	歯科麻酔外来における歯科診療補助

評価方法

実習記録、患者さんへのリーフレット等により総括的評価を行う。

実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	高齢者口腔保健衛生臨床実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・45 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博・下山和弘
授業担当者	下山和弘、大渡凡人（高齢者歯科学分野）、大学院医歯学研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教員
主な授業場所	歯学部附属病院スペシャルケア外来診療室 1

学習目標

歯科診療施設において主に高齢者に対し、対象者本位の口腔保健活動を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
- ・歯科ユニット各部の名称や機能を説明できる。
- ・診療に必要な器材を説明できる。
- ・対象者に挨拶して自己紹介できる。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景が異なる対象者に、わけへだてなく対応できる。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・対象者からの質問に適切に答え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に高齢者に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・主に高齢者に対し、歯科保健指導を実施できる。
- ・主に高齢者に対し、歯科診療補助を実施できる。

授業計画 4 学年前期・必修 1 単位・45 時間

回	授業題目	授業内容
1	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス
2-45	高齢者歯科外来（スペシャルケア外来）実習	スペシャルケア外来における歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導

評価方法

実習記録、患者へのリーフレット等により総括的評価を行う。実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「保存修復学・歯内療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯周療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・疾患別内科エマージェンシー対応 高齢者臨床ナビゲーション 大渡凡人著 医歯薬出版
- ・歯科衛生士のための高齢者歯科学 渡邊誠、岩久正明監修 永末出版
- ・脳卒中患者の口腔ケア 植田耕一郎 医歯薬出版
- ・高齢者歯科ガイドブック 植松 宏、稲葉 繁、渡辺 誠編集 医歯薬出版
- ・はじめて学ぶ歯科口腔介護 新井俊二、小椋秀亮監修 医歯薬出版
- ・日本老年歯科医学会監修口腔ケアガイドブック 日本老年歯科医学会監修 口腔保健協会

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	障害者口腔保健衛生臨床実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・45 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博・下山和弘
授業担当者	山崎統資（障害者歯科学分野）、大学院医歯学研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教員
主な授業場所	歯学部附属病院スペシャルケア外来診療室 2

学習目標

歯科受診に対して障害を有する患者とスムーズにコミュニケーションをとった上で、患者が安心して歯科治療・予防処置・保健指導を受けられるように、知識を確認して、必要な基本的態度、専門的技術を身につける。

到達目標

- ・患者および保護者・介護者と挨拶、会話を交わすことができる。
- ・患者を治療椅子へ導入することができる。
- ・治療中に、患者に対して、適切に言葉かけができる。
- ・精神鎮静法の準備・片付けをすることができる。
- ・患者の全身状態、行動の観察をして、対応できる。
- ・患者の情報収集・分析ができる。
- ・問診結果から、保健指導に必要な情報を分析して、活用できる。
- ・保健指導記録を書くことができる。
- ・自分が行った指導について評価することができる。

授業計画 4 学年前期・必修 1 単位・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	障害者歯科外来における対応	患者および保護者・介護者との対応
4-6	患者の導入と安全確保	患者の治療椅子への導入
7-12	患者の観察と評価	患者の全身状態の観察
13-18	治療の準備と補助 1	バイタルサイン（脈拍、血圧等）の測定
19-24	治療の準備と補助 2	精神鎮静法下の治療の準備と補助

25-30	精神鎮静法後の患者管理	精神鎮静法後の患者管理
31-36	情報収集・分析	問診票、口腔保健行動・生活習慣に関する質問票、 口腔内観察（現在歯、治療状況、清掃状態等）
37-42	保健指導	生活習慣、保健行動、ブラッシングなど 記録の作成
43-45	評価	障害者歯科外来実習の振り返りと総括

評価方法

実習記録提出、出席状況、ケース履修状況をもって、総括的評価を行う。

参考図書等

- ・障害者歯科ガイドブック 森崎市治郎他編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本 「障害者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

科目名	地域口腔保健衛生臨地実習
ユニット名	地域口腔保健衛生臨地実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修・27 時間 3 学年後期・必修・18 時間 4 学年後期・必修・45 時間 単位認定（2 単位）は、4 学年後期終了時に行う
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、近藤圭子
主な授業場所	学校

学習目標

- ・地域における口腔保健活動を実践するために必要な態度、知識、技術を習得して、実践力を養う。

到達目標

- ・地域における口腔保健活動が説明できる。
- ・地域と学校、学童との関わりが説明できる。
- ・対象者のニーズアセスメント、プランニングができる。
- ・対象に合わせた口腔健康教育を実践できる。
- ・実習報告書が作成できる。

授業計画 4 学年後期・必修 1 単位・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-6	オリエンテーション	実習の意義と留意点、実習内容 実習報告書作成について H 小学校健康教育計画
7-12	学校健診の意義と結果の活用	健診結果から読める情報整理
13-18	健康教育計画	目標設定、内容の決定、教材準備
19-24	〃	〃
25-30	〃	〃
31-33	健康教育実践	U 小学校健康教育実習
34-39	〃	H 小学校健康教育実習

40-45	実習報告、まとめ	実習報告書作成、今後の課題
-------	----------	---------------

評価方法

報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。

実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

留意事項

事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。

服装、態度、言葉遣いに留意する。

実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切な場合には、実習停止とすることがある。

科目名	地域口腔保健衛生臨地実習
ユニット名	高齢者・訪問口腔保健衛生臨地実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・必修 2 単位・90 時間
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	吉増秀實、下山和弘、遠藤圭子、近藤圭子
主な授業場所	高齢者在宅サービスセンター、訪問歯科診療（居宅、高齢者施設）、総合病院

学習目標

高齢者施設や居宅、病院において、利用者および入院患者の視点に立った口腔保健活動を実践するために必要な態度、知識、技術を習得して、実践力を養う。

到達目標

- ・利用者の身体的・精神的・社会的特性に配慮して、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者の価値観の多様性を理解して、対応する。
- ・利用者の心理状態や体調の変化に対応できる。
- ・診療に必要な機材を説明できる。
- ・総合病院における歯科・口腔外科の役割が説明できる。
- ・専門職間の連携について説明できる。
- ・入院患者の口腔状態についてアセスメント、プランを立て、口腔ケアを実践する。
- ・スタッフ、利用者、家族とコミュニケーションがとれる。
- ・実習報告書が作成できる。

授業計画 4 学年後期・必修 2 単位・90 時間

回	授業題目	授業内容
1-6	オリエンテーション	高齢者施設の概要と現状の理解 実習の意義と留意点、実習内容 実習報告書作成について
7-12	利用者の理解、コミュニケーション	現状把握、利用者・家族とのコミュニケーションのとり方
13-18	高齢者在宅サービスセンターにおける実習	事前情報収集・整理
19-24	〃	口腔ケア計画、実践、評価

25-30	〃	他職種との連携
31-36	実習報告、まとめ	実習報告書作成、事後評価、今後の課題
37-42	オリエンテーション	訪問診療の概要と現状の理解 実習の意義と留意点、実習内容 実習報告書作成について
43-48	利用者の理解 スタッフ、利用者、家族とのコミュニケーション	現状把握、利用者・家族とのコミュニケーションのとり方
49-54	訪問歯科診療実習	事前情報収集・整理、
55-60	〃	口腔ケア計画、実践、評価
61-66	〃	〃
67-72	実習報告、まとめ	実習報告書作成、事後評価、今後の課題
73-78	総合病院における口腔保健活動	総合病院の機能、歯科・口腔外科の役割、 入院患者の口腔ケアの実際、
79-84	〃	専門職種の活動内容と連携のあり方
85-90	実習報告、まとめ	実習報告書作成、事後評価、今後の課題

評価方法

報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。

実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

留意事項

事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。

服装、態度、言葉遣いに留意する。

実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とすることがある。

科目名	選択臨床・臨地実習
ユニット名	選択臨床・臨地実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・必修 1 単位・45 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博、遠藤圭子
授業担当者	木下淳博、寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、遠藤圭子、 近藤圭子、坂本裕次郎、須永昌代、小原由紀、大塚紘未、 吉田有里、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、 山崎美幸・岡田昌子・田澤千鶴・河野章江・藤田直子（非常勤講師） 大学院医歯学総合研究科臨床系教員、 歯学部附属病院臨床系教職員 実習先指導者
主な授業場所	歯学部附属病院、学外施設

学習目標

既修した臨床実習および臨地実習のなかで、関心をいだいた場での実習を選択して行い、その領域の知識、技能を深める。特別な配慮が必要な対象者に対して、対象者本位の口腔保健活動を実施するための態度、知識、技能を修得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮して、問題点を抽出・整理する。
- ・多様な対象者の価値観を理解する。
- ・対象者の表情・行動の変化に気づく。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・歯科衛生診断ができる。
- ・歯科衛生介入の内容を決定できる。
- ・ニーズにあった歯科衛生介入ができる。
- ・介入後の評価法を決定する。
- ・評価結果から、次ステップの課題が整理できる。
- ・顎口腔機能の障害を評価し、対応方法を習得する。
- ・高齢者施設利用者の生活状態を理解できる。

授業計画 4 学年後期・必修 1 単位・45 時間

他の臨床実習・臨地実習の日程内で、ローテーションを組んで実習を行う。

評価方法

実習記録等により総括的評価を行う。

実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・わかる摂食・嚥下リハビリテーションⅠ 評価法と対処法, 医歯薬出版, 東京, 2005 年
- ・摂食・嚥下障害の VF 実践ガイドー歩進んだ診断・評価のポイントー, 南江堂, 2006 年

留意事項

実習先では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	特論（卒業研究）
ユニット名	特論（卒業研究）
授業の形態	演習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修・60 時間 4 学年前後期・必修・120 時間 単位認定（6 単位）は 4 学年後期終了時に行う
科目・ユニット責任者	石川雅章
授業担当者	口腔保健学科教員、口腔保健教育研究センター教員、歯学科教員
主な授業場所	口腔保健学科第 1 講義室、修士課程講義室

学習目標

各学生の知的興味、将来の方向性に沿ってテーマを選択し、計画・立案に基づいて研究を実施する。さらに結果を論文にまとめて十分考察することにより、研究への理解と意欲を培う。

到達目標

- ・自分の知的興味、将来の方向性に沿って研究テーマが設定できる。
- ・研究テーマに対応した論文の検索と科学的吟味を行い、これまでの知見が整理できる。
- ・EBM・EBHC の概念を説明できる。
- ・知見や問題点に基づいた研究の計画・立案ができる。
- ・実験・調査などの研究を実施できる。
- ・実験・調査などの結果を分析整理し、統計学的な解析ができる。
- ・結果に基づき、新たな問題点と課題を抽出、提起できる。
- ・一連の研究成果を論文にまとめ、発表できる。

授業計画 4 学年前後期・必修・120 時間

回	授業題目	授業内容
1-54	研究実施	研究計画に基づく研究の実施とフィードバック
55-64	研究中間発表会準備	研究データの整理・分析、中間発表会プレゼンテーションの作成
65-70	研究中間発表会	研究結果の中間発表と討論
71-92	研究の再検討と実施	中間評価に基づく研究の進め方の再検討、研究の再実施
93-102	研究成果報告会準備	研究データの整理・分析、研究要約論文の作成、成果報

		告会プレゼンテーションの作成
103-110	研究成果報告会	研究成果の発表と討論
111-120	最終論文の作成	報告会での討論に基づく最終論文の作成と提出

評価方法

研究中間発表会での発表により総括的中間評価を行う。

研究成果報告会での発表、および要約論文により総括的評価を行う。

単位認定（6単位）は最終論文提出後に行う。

参考図書等

- ・「保健・医療のための研究法入門」朝倉隆司監訳、協同医書出版社
- ・「SPSS による医学・歯学・薬学のための統計解析」第2版、石村貞夫他著、東京図書

留意事項

- ・常に指導教員、副指導教と密接な連絡をとり、助言を得ながら研究を進めること。
- ・平成21年11月末日までに卒業研究要約論文をe-learning上で提出すること
- ・平成21年12月末日までに卒業研究最終論文をe-learning上で提出すること。

科目名	社会福祉援助技術現場実習
ユニット名	社会福祉援助技術現場実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期（春季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上 4 学年前期（夏季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上 単位認定（4 単位）は 4 学年の実習終了時に行う
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	実習先の実習指導者
主な授業場所	社会福祉施設・機関

学習目標

現場での実習体験を通して、社会福祉専門職としての仕事をする上で必要な専門知識、専門援助技術および関連知識について理解を深める。

到達目標

- ・福祉ニーズを抱えている個人、家族、小集団、地域などに対する総合的援助過程の中で、現場の実習指導者の指導を得ながら、社会福祉援助技術を活用できる。
- ・スーパービジョンを通して、自己の社会福祉援助者としての実践力を高め、補正することができる。
- ・社会福祉援助技術を活用するにあたっての課題、その解決方法を学び、将来の実践におけるその活用の展望について整理できる。
- ・社会福祉援助技術の実践に必要な知識、技術を高め、援助者として適切な態度と行動がとれる。
- ・各人の実習計画に基づき実習を遂行できる。

授業計画 4 学年前期（夏季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上

実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

評価方法

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総括的評価を行う。

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導（スーパービジョン）
ユニット名	社会福祉援助技術現場実習指導（スーパービジョン）
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・選択・37 時間 4 学年前期・選択・21 時間 4 学年前期（夏季集中）・選択・24 時間 4 学年後期・選択・8 時間 単位認定（2 単位）は 4 学年後期終了時に行う
科目・ユニット責任者	坪井真
授業担当者	坪井真
主な授業場所	修士課程講義室、口腔保健学科 第1 講義室・演習室

学習目標

社会福祉施設・機関での現場実習を行う意義を理解し、実習の前から終了後にわたって指導を受け、現場実習を実効性のあるものとする。

到達目標

- ・各社会福祉施設における実習の流れを説明できる。
- ・各施設における実習目標、実習計画を立てられる。
- ・現場実習における心構え、留意点を説明できる。
- ・実習現場における行動の取り方を身につける。
- ・実習記録ノートを作成できる。
- ・スーパービジョン・リンケージを説明できる。
- ・実習先の特徴、利用者の特徴について説明できる。
- ・実習内容について発表ができる。
- ・実習終了後の振り返りができ、改善点を見いだせる。

授業計画

4 学年前期・選択・21 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	春季現場実習のまとめ	社会福祉現場実習報告会の準備
4-6	社会福祉現場実習報告会	学生による春季社会福祉実習の報告

7-9	実習先の選択準備	夏季実習に向けて課題の見直し
10-12	実習先の選択準備	実習先タイプ別グループ討議
13-15	個人表および実習計画書作成指導 1	個人票の作成、完成 実習計画書の作成に向けた助言・指導
16-18	実習計画書の作成指導 2	実習前訪問を経て課題の設定
19-21	実習計画書の作成指導 3 および実習前確認	実習計画書の作成・推敲・完成、個人情報保護、リスクマネジメント等注意点、礼状の書き方再確認

4 学年前期（夏季集中）・選択・24 時間

回	授業題目	授業内容
22-27	実習後指導	個人面接による実習の振り返り、実習報告書の作成指導等
28-33	実習後指導	個人面接による実習の振り返り、実習報告書の作成指導等
34-39	実習後指導	個人面接による実習の振り返り、実習報告書の作成指導等
40-45	実習後指導	個人面接による実習の振り返り、実習報告書の作成指導等

4 学年後期・選択・8 時間

回	授業題目	授業内容
46-49	実習報告	学生による社会福祉実習の報告
50-54	実習の振り返りとまとめ	実習の振り返り、学習成果と学習課題の整理

評価方法

発表内容、提出課題、出席状況および授業態度による総括的評価を行う。

参考図書等

随時「実習の手引き」等の資料を配付する。

参考図書等

随時「実習の手引き」等の資料を配付する。